

1

# テキスト科目

通信教育課程 <b>テキスト 科目</b>			
ナンバリング	CCg1n202	ディプロマポリシー	DP1c
<b>心理学</b>		履修年次	1
		単 位	2
Psychology		卒業要件	選択
		授業区分	教養科目
担当・シラバス執筆者 : 亀田 佐知子		担当形態 : 単独	
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>大学で学ぶ心理学とは様々な事柄を研究テーマとして取り上げる「心の科学」であり、仮にその対象は何であってもあくまでも事実と証拠に基づくということが前提となっている。この授業では、なるべく自分の日常に照らし合わせ考えていけるように、自分がどのように物を見て考え、行動しているのかなど、普段の生活では当たり前になっていることを心理学の見地から考え、自分の視野を広げることを試みる。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 心のしくみや働きを理解する。脳科学、感覚・知覚、感情など生理学的な視点から学ぶ。</p> <p>② 学びのメカニズムを理解する。学習、記憶、思考などの学習心理学の視点から学ぶ。</p> <p>③ 自分の発達過程を辿り自己を理解し将来を考える。発達、性格心理学の視点から学ぶ。</p> <p>④ 人間関係で生じる問題の心のメカニズムを理解する。家族、社会、臨床心理学の視点から学ぶ。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>『実践につながる新しい教養の心理学』大浦賢治編 ミネルヴァ書房</p> <p>【参考文献】</p> <p>① 下山晴彦他編『誠信心理学辞典（新版）』誠信書房</p> <p>② 宮沢秀次・二宮克美他『自分でできる心理学』ナカニシヤ出版</p> <p>③ 無藤隆他編『新版心理学』有斐閣</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>なし</p>			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	心のしくみ・働きを知る	人間の心のしくみ・働きを知るために、感覚と知覚の特性について学んでいく。(第2章)
2	感情の心理学	人の感情のメカニズムについて、青年期から老年期に至るまでのところや体の変化を学び、自分の課題について考察する。(第3章)
3	学習	学習することのメカニズムを学び、自然に学びを深める姿と学びたいという意欲との関係性から学びの本質を考えていく。(第4章)
4	記憶	記憶することのメカニズムを学び、覚えること、忘れること、記憶が変化していくことを理解し、記憶方略を考えていく。(第4章)
5	思うこと、考えること	思考するときに、私たちがハマりやすい、いくつかのパターンを紹介する。正しい思考とは何かを考えていく。(第5章)
6	発達—幼児期から児童期にかけて	人間は周囲の環境、大人や友人などの交流を通して成長する。発達の主なプロセス、発達理論、その応用について学んでいく。(第6章)
7	青年期以降の心理的特徴	青年期から老年期にかけてのそれぞれのステージにおける課題を理解し、自分の現在、未来を発達の視点から学んでいく。(第7章)
8	障害児・者の心理	障害の主な特徴、支援策について紹介するとともに、この社会ですべての人が共に生きていくためには何が必要か考えていく。(第8章)
9	パーソナリティ	個人差をとらえる概念の1つにパーソナリティというものがある。パーソナリティはどのようにしてつくられるのか、どのように分類・測定できるのかなどについてみていく。(第9章)
10	「家族」について考える	家族心理学とは何か、家族のライフサイクルとはどのようなものかを概観し、発達障害児と児童虐待の問題について、家族という視点から考える。(第10章)
11	人間関係とこころ	日常の些細な出来事から「いじめ」のような社会問題まで、人のこころがどのように関与しているのか、その「こころのメカニズム」を理解する。(第11章)
12	多文化理解と心理学	グローバル社会といわれている今日において、「外国語学習」「異文化理解」「多文化共生」について考える。(第12章)
13	「悩み」を悩むこと・支えること	主に臨床心理学の視点から、「悩む」こと、「悩み」に対処することを学ぶ。(第13章)
14	ポジティブ心理学	ポジティブ心理学ではウェルビーイングとパフォーマンスの向上を目指す。(第14章)
15	キャリアの心理学	キャリアという概念の意味をはじめ、キャリアの発達、キャリアとの向き合い方に関連する考え方や理論を学ぶ。(第15章)

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCg1n203	ディプロマポリシー	DP1c
経済学		履修年次	1
		単 位	2
Economics		卒業要件	選択
		授業区分	教養科目
担当・分担教員名 : 豊田 真弓		担当形態 : 単独	授業形態
			講義
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ  【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ  【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】  私たちの暮らしと密接に関わりがありながら、敬遠されがちな「経済学」。この講座では、「生活」の視点から「経済」にクローズアップし、生活者として役立つ「パーソナルファイナンス」の基礎を学ぶ。これだけは学生の間に身につけておきたい金融・経済の基礎知識の習得を目指す。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 税金や社会保険をはじめ生活経済の基礎を学び、社会で生きていくのに必要な知識を深める</li> <li>② 金融商品についても学習し、貯蓄と投資を行えるようにする</li> <li>③ 人生の3大資金を知り、自身のライフプランを立てられるようになる</li> </ol>			
<p>【成績評価】  科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】  『ファイナンシャル・プランニング入門 - for Students -』日本FP協会  【参考文献】  『大学生のための人生とお金の知恵』金融広報委員会（ダウンロード）</p>			
<p>【アクティブラーニング】  「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと  【事前事後学習】  「学習の手引き」における  「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと  【ICTの活用】  なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	ファイナンシャル・プランニングを学ぶ意味	ライフプランを実現するためにファイナンシャル・プランニングを学ぼう（序章）
2	人生の3大資金と教育資金設計	人生の3大資金と教育資金のポイントについて学ぶ（第2編・第1章）
3	住宅資金設計	住宅資金のポイントを学ぶ。住宅ローンについても知る（第2編・第1章）
4	老後の生活設計	老後資金のポイントや平均余命、運用方法について学ぶ（第2編・第1章、第5編・第10章）
5	ローンとキャッシュレス決済	ローンやクレジットカード等について特徴や留意点について知っておこう（第2編・第1章）
6	公的医療保険制度・公的介護保険制度	社会保険制度のうち、公的医療保険制度と公的介護保険制度について学ぶ（第2編・第2章）
7	労災保険・雇用保険	社会保険制度のうち、労災保険と雇用保険について学ぶ（第2編・第2章）
8	公的年金制度	公的年金制度の概要や体系、年金からの給付などについて学習する（第2編・第2章）
9	企業年金・個人向け年金等	企業年金制度と個人向け年金等について学ぶ。確定拠出年金（企業型・個人型）についても学習する（第2編・第2章）
10	税金と源泉徴収制度	税金の種類や所得税の基礎、源泉徴収票等などについて学習する（第3編・第1章、第7章）
11	リスクマネジメントと生命保険	リスクマネジメントの手法と生命保険について学ぶ（第4編・第1章、第3章）
12	損害保険	損害保険の特徴や商品について学ぶ（第4編・第4章）
13	預貯金と債券	金融商品のうち、預貯金と債券について学ぶ。預金保険制度も知っておこう（第5編・第2章、第4章、第11章）
14	株式と投資信託	株式と投資信託について基礎を学習する。また、NISAについても押さえておこう（第5編・第5章、第6章、第10章）
15	ライフイベント表・キャッシュフロー表	ライフイベント表・キャッシュフロー表とはどのようなものか？作成する意味も学ぶ（第8編・第2章、第3章）

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCg1c204	ディプロマポリシー	DP1c
日本国憲法		履修年次	1
		単 位	2
Japanese Constitutional Law		卒業要件	選択
		授業区分	教養科目
担当講師：内山 絵美子		担当形態：単独	授業形態
			講義
		授業方法	テキスト
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 日本国憲法			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】 憲法の意義（立憲主義）や原理（基本的人権の尊重、平和主義、国民主権）を理解するとともに、そこで保障されている具体的な権利とその侵害や制約について学校教育を事例に学び、教育現場の憲法問題を知る。また、裁判所の判断基準や条理を知り、法律的なものの見方に触れる。			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 憲法の意義や基本原理、基本的人権の具体的な内容について説明できる。 ② 教育現場の憲法問題に触れ、子どもの権利を保障するために何が必要かを考えることができる。 ③ 憲法的重要性、改正も含めた憲法の在り方に関して理解を深める。			
【成績評価】 科目修得試験により評価する。			
【教科書】 西原博史・齋藤一久編著『教職課程のための憲法入門 <第2版>』弘文堂			
【参考文献】 椋大樹『檻の中のライオン―憲法がわかる46のおはなし』かもがわ出版、2016年			
【アクティブラーニング】 「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと			
【事前事後学習】 「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと			
【ICTの活用】 なし			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	憲法とは何か	憲法の基本原理や特質、その歴史的変遷について学ぶ（第14章）
2	個人の尊厳と基本的人権	最も重要な目的である個人の尊厳と基本的人権の保障について学ぶ（第1章）
3	子どもの権利と教師の権利	子どもの権利の保障と教師に認められる権利を学ぶ（第2章）
4	憲法における平等	憲法の保障しようとする平等や禁止する差別について知り、教育現場における課題を考える（第3章）
5	思想・良心の自由、信教の自由	思想・良心の自由および信教の自由について学ぶ（第4章）
6	表現の自由	表現の自由が許される範囲と、限界について理解する（第5章）
7	学問の自由・教師の教育の自由	学問の自由の意味と教授の自由の範囲について学ぶ（第6章）
8	教育を受ける権利	教育を受ける権利の内容と保障のあり方について学ぶ（第7章）
9	経済的自由権と社会権	経済的自由とそれを支える社会権について学ぶ（第8章）
10	刑事手続上の権利	刑事事件で保障される権利について学ぶ（第9章）
11	国民主権と参政権	国民主権の原理とそれを実現する参政権（選挙権）のについて学ぶ（第10章）
12	平和主義	平和主義の内容と自衛隊の派遣に関する解釈について学ぶ（第11章）
13	権力分立	立法、行政、司法による抑制と均衡の原理について学ぶ（第12章）
14	地方自治	地方自治の内容と実際の展開、および自治の主体である「市民」の教育について学ぶ（第13章）
15	憲法の視点から考えよう	憲法の視点から学校を中心とした様々な問題について検討する（プロローグ、エピローグ）

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCg1n206	ディプロマポリシー	DP1c
基礎学力演習 I		履修年次	1
		単 位	2
Basic Academic Training I		卒業要件	選択
		授業区分	教養科目
担当・シラバス執筆者 : 佐藤 穂香		担当形態 : 単独	
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】 ※該当科目のみ  【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】 ※該当科目のみ  【実務経験との関連性】 ※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】  この科目における「基礎学力」とは、保育者を目指すために必要な基礎的教養や、保育現場で必要とされる国語力、生活技術等です。ここでは特に、敬語や日本語文法、文章力や読解力に焦点を当て、毎回、論作文や名文音読を繰り返し、確かな教養と国語力を伸ばします。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基礎的な日本語力を身につけ、適切な読み書きができるようになる。</li> <li>② 文章作成力を伸ばし、わかりやすく論理的な文章が書けるようになる。</li> <li>③ 保育者に必要な基礎的マナーや教養を身につけ、TPO に応じて振舞うことができる。</li> </ol>			
<p>【成績評価】  科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】  馬見塚昭久・大浦賢治編著『改訂 保育学生のための基礎学力演習』中央法規出版</p> <p>【参考文献】  なし</p>			
<p>【アクティブラーニング】  「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】  「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】  なし</p>			
<p>【備考】</p>			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容 (教科書の章、参考資料など)
1	保育に関する基本事項 5 領域 等	保育用語 (保育に関する基本事項) (5 領域)、文節、主語と述語、名文音読、論作文、作文・小論文の書き方、基本的なマナーについて学ぶ (教科書 Lesson1,2)
2	子どもの育ち① 子どもの育ち② 等	保育用語 (子どもの育ち①) (子どもの育ち②)、修飾語、指示語、名文音読、論作文、平仮名と片仮名、尊敬語①について学ぶ (教科書 Lessonpp3,4)
3	子どもの育ち③ 遊びにかかわる子どもの発達 等	保育用語 (子どもの育ち③) (遊びにかかわる子どもの発達)、動詞、品詞、名文音読、論作文、尊敬語②、謙譲語について学ぶ (教科書 Lessonpp5,6)
4	子どもの遊び 遊びの形態 等	保育用語 (子どもの遊び) (遊びの形態)、オノマトペ、能動態と受動態、名文音読、論作文、実習オリエンテーションのマナー、実習の髪型、メイク、服装について学ぶ (教科書 Lesson7,8)
5	母子の絆 保育の形態① 等	保育用語 (母子の絆) (保育の形態①)、仮名遣い①、仮名遣い②、名文音読、論作文、園での言葉遣い、書中見舞い状の書き方、お礼状の書き方について学ぶ (教科書 Lessonpp9,10)
6	保育の形態② 保育の形態③ 等	保育用語 (保育の形態②) (保育の形態③)、接続語①、接続語②、名文音読、論作文、安全対策、守秘義務について学ぶ (教科書 Lesson11,12)
7	保育の計画 基本的生活習慣 等	保育用語 (保育の計画) (基本的生活習慣)、接続語③、接続語④、名文音読、論作文、ネット、SNS、メールのマナー、著作権、ら抜き言葉について学ぶ (教科書 Lesson13,14)
8	子どもの食と栄養① 子どもの食と栄養② 等	保育用語 (子どもの食と栄養①) (子どもの食と栄養②)、接続語⑤、接続語⑥、名文音読、論作文、掃除の仕方、筆記具の持ち方について学ぶ (教科書 Lesson15,16)
9	子どもの保健 子どもの生活 等	保育用語 (子どもの保健) (子どもの生活)、可能表現、適切な表現①、名文音読、論作文、飲み物の出し方、長音表記について学ぶ (教科書 Lesson17,18)
10	幼児教育 保育の職場 等	保育用語 (幼児教育) (保育の職場)、適切な表現②、敬語①、名文音読、論作文、食事のマナー、時間の計算について学ぶ (教科書 Lesson19,20)
11	注意すべき病気 子どもの福祉 等	保育用語 (注意すべき病気) (子どもの福祉)、敬語②、適切な表現③、名文音読、論作文、よくある表記の違い、実習日誌でよく使う言葉について学ぶ (教科書 Lessonpp21,22)
12	安全 日常における保育の進め方 等	保育用語 (安全) (日常における保育の進め方)、比喩、四字熟語、名文音読、論作文、美文字を書こう、お礼状の書き方・年賀状の書き方について学ぶ (教科書 Lesson23,24)
13	虐待への対応 保育に関する相談 等	保育用語 (虐待への対応) (保育に関する相談)、帰納法、演繹法、名文音読、論作文、文化の源となってきた神様・仏様のこと、心理のお話について学ぶ (教科書 Lesson25,26)
14	障害児保育 幼保小の連携 等	保育用語 (障害児保育) (幼保小の連携)、弁証法、適切な表現④、名文音読、論作文、身近な自然、季節の行事について学ぶ (教科書 Lessonpp27,28)
15	これからの保育と教育 ことわざ 等	保育用語 (これからの保育と教育) (ことわざ)、適切な表現⑤、適切な表現⑥、名文音読、論作文、昆虫や小動物の飼育、日本と多文化共生社会について学ぶ (教科書 Lesson29,30)

通信教育課程 テキスト 科目					
ナンバリング	CCg1n107	ディプロマポリシー	DP1c		
おだたん人間成長講座 I			履修年次	1	
			単 位	2	
Liberal Arts of Odawara Junior College I			卒業要件	必修	
			授業区分	教養科目	
担当・シラバス執筆者 : 上野 奈初美		担当形態 : 単独		授業形態	演習
				授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ  【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ  【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>					
<p>【授業の概要】  建学の精神「女子を人として教育する、女性として教育する、国民として教育する」に基づいて設置された総合的な教養科目である。専門科目とあわせて学ぶことで、本学の 3 つの教育方針（自他ともに敬い愛する人・豊かな知性と感性あふれる人・健やかな家庭 社会を担う人）が達成されると確信する。  芸術興行、居住地域の行事、美術展の開催等の年間予定を確認し、年間計画を立てること（授業計画の順番に行おうとすると展覧会等が終わっていることもあるので、必ずしも 1～15 の順でなくてもよい）。</p>					
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 建学の精神や教育理念を理解し、本学学生としての自覚を高める。</li> <li>② 日本の文化に触れ、教養を高める。</li> <li>③ 自己を見つめ、文化に親しみ、教養を高め続ける生活様式を自分のものにする。</li> </ol>					
<p>【成績評価】  科目修得試験により評価する。</p>					
<p>【教科書】  なし</p> <p>【参考文献】  「学習の手引き」巻末資料、パンフレット、リーフレット等</p>					
<p>【アクティブラーニング】  「学習の手引き」芸術や文化財の鑑賞に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】  「学習の手引き」巻末の「資料」を熟読すること</p> <p>【ICT の活用】 必要に応じて映像を配信する</p>					
<p>【備考】</p>					

## 授業計画

回	テーマ	学習内容 (教科書の章、参考資料など)
1	小田原短期大学について 1	小田原短期大学について知り、建学の精神を理解する。 校歌の学びにつなげる。 巻末資料 I-1, 2-(1), 3-(1)(3), III
2	小田原短期大学について 2	建学の精神を知り、教育目標を理解する。 学生歌の意味を理解する。巻末資料 I-1, 2-(2)(3), 3-(2)(3), II-1
3	美術鑑賞 1 (2の準備)	行きたい美術展や画廊を選び、鑑賞対象について調べる。巻末資料 II-1, 2-(1)
4	美術鑑賞 2①	国内外の美術を鑑賞する。巻末資料 II-1, 2-(1)
5	美術鑑賞 2②	4と同様
6	美術鑑賞 3 (2の振り返り)	鑑賞した美術について 1 で調べたこと、鑑賞した感想を文章でまとめる。
7	読書	推薦図書を読み、要旨をまとめ、感想文を書く。巻末資料 II-2- (2)
8	古典芸能 (地域文化) 鑑賞 1 (2の準備)	鑑賞する古典芸能 (地域文化) などについて調べる。巻末資料 II-2-(3)
9	古典芸能 (地域文化) 鑑賞 2	日本の古典芸能 (歌舞伎、文楽、能など) を鑑賞する。 または、自分の地元の祭りや舞踊、語り (地域文化) など鑑賞する。巻末資料 II-2-(3)
10	9 と同様	9 と同様
11	古典芸能 (地域文化) 鑑賞 3 (2の振り返り)	鑑賞した古典芸能 (地域文化) などについて 1 で調べたことと鑑賞した感想を書く。巻末資料 II-2-(3)
12	文化財鑑賞 1	お寺や神社、建造物などを選び、見学対象について調べる。巻末資料 II-2-(4)
13	文化財鑑賞 2	選んだお寺や神社、建造物などを見学する。巻末資料 II-2-(4)
14	13 と同様	13 と同様
15	文化財鑑賞 3(2の振り返り) (総括)講座全体の振り返り	お寺や神社などについて 1 で調べたことと見学した感想を書く。 巻末資料と手引きを再確認し、全体の振り返りをする。 巻末資料 II-2-(4), II-3, III

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCg1n208	ディプロマポリシー	DP1c
職業と社会 I		履修回数	1
		単 位	1
Placement Academy I		卒業要件	選択
		授業区分	教養科目
担当・シラバス執筆者 : 大浦 賢治		担当形態 : 単独	
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ  【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ  【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】  あなたが保育士として、あるいは幼稚園教諭として社会に飛び立つ時…それぞれの職場には様々な常識やマナーが存在している。この科目ではそれらを一つの職業観として取り上げていく。子どもとかわる仕事を選ぶあなたに、どんな未来が待っているか、ワクワクしながら学んでいくことを目的とする。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 「働く」ことの意味と意義を理解する。  ② 自分を知り、自分の将来の方向性を考えながら、社会人としての職業観を知る。  ③ 資格と職業について学び、保育の仕事についてより理解を深める。</p>			
<p>【成績評価】  科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】  『自分で働く就職 2023 年度版』 一般財団法人雇用開発センター</p> <p>【参考文献】  なし</p>			
<p>【アクティブラーニング】  「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】  「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】  なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	就職活動を始めるにあたり	あなたはなぜ就職をするのか、社会を知って自分の将来を考える。 自分の就労観を考える。 (教科書 3ページ～12ページ)
2	就職活動を知る	仕事をするとはどういうことなのかを学ぶ。 就職活動をするうえでのポイントを学ぶ。 (教科書 13ページ～30ページ)
3	企業・仕事を知る	企業や仕事について考える。 企業活動の意味を理解する。 (教科書 31ページ～44ページ)
4	企業の採用活動を知る	企業がどのように新卒採用をするのかを理解する。 採用されるためのポイントを押さえる。 (教科書 45ページ～62ページ)
5	就職活動で困ったら	就職活動中の問題点を確認する。 様々な問題に対処できる力を身につける。 (教科書 63ページ～72ページ)
6	就職したら	就職する際の心構えを学ぶ。 就職したときに注意すべき重要なポイントを理解する。 (教科書 73ページ～92ページ)
7	退職と転職活動	退職をしようと考えた場合に注意すべき点を押さえる。 一時的な感傷に流されないことの重要性を理解する。 (教科書 93ページ～104ページ)
8	仕事、暮らしのサポート	仕事と暮らしに関して利用できる資源について学ぶ。 公共施設の利用法を把握する。 (教科書 105ページ～108ページ)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCg2n209	ディプロマポリシー	DP1c
職業と社会Ⅱ		履修年次	2
		単 位	1
Placement Academy Ⅱ		卒業要件	選択
		授業区分	教養科目
担当・シラバス執筆者：大浦 賢治		担当形態：単独	授業形態
			講義
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>保育士・幼稚園教諭として社会に飛び立つ時…それぞれの職場には様々な考え方や文化・共通認識が存在している。この科目では、それを一つの職業観と捉え、子どもにかかわる仕事や対人援助の職業を選ぶ時、どんな仕事ややりがいがあるのか、具体的なイメージをもって学んでいくことを目的とする。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 保育の仕事・対人援助の仕事について知識を持つ</p> <p>② 「働く」ことの意味と意義、職業と資格について調べる。</p> <p>③ 自分を知り、自分の将来の方向性を考えながら、社会人としての自分の職業観を説明できる</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>汐見稔幸『子どもにかかわる仕事』岩波ジュニア新書</p> <p>【参考文献】</p> <p>なし</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	子どもにかかわる仕事①	実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。 (僕は小児科医 教科書 p19～p29、学習の手引き p3)
2	子どもにかかわる仕事②	実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。 (子どもとともに学び、生きるって、幸せ！ 教科書 p49～p62、学習の手引き p5)
3	子どもにかかわる仕事③	実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。 (子どもとともに育つ伴走者 教科書 p63～p77、学習の手引き p7)
4	子どもにかかわる仕事④	実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。 (人生の「土台」づくりにかかわる 教科書 p79～p92、学習の手引き p9)
5	子どもにかかわる仕事⑤	実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。 (それでもがっぷり受け止めたい 教科書 p93～p110、学習の手引き p11)
6	子どもにかかわる仕事⑥	実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。 (思春期と育ちあう 教科書 111 ページ～125 ページ、学習の手引き p13)
7	子どもにかかわる仕事⑦	実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。 (子どもたちを支え、支えられ—スクールソーシャルワークという仕事 教科書 127 ページ～140 ページ、学習の手引き p 15)
8	子どもにかかわる仕事⑧	実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。 (子どもの人権教育活動—いじめ・虐待・少年非行の現場で 教科書 189 ページ～203 ページ、学習の手引き p 17)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 テキスト 科目				
ナンバリング	CCg1c310	ディプロマポリシー	DP1c	
英語			履修年次	1
			単 位	2
English			卒業要件	必修
			授業区分	教養科目
担当・シラバス執筆者 : C. ハースト		担当形態 : 単独	授業形態	講義
			授業方法	テキスト
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 外国語コミュニケーション				
【指定保育士養成施設認定指定基準における科目系列】※該当科目のみ 教養科目				
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ				
【授業の概要】 園生活で英語が必要とされることがあります。英語での対応が必要になった時に役立てることができるように、練習を十分取り入れて、必要な文法力・単語力・基礎的な会話力をしっかり養成します。また、テキスト中の「英語ニ知識」「保育ニ知識」を活用して、英語の常識や他国の習慣にも目を向け英語力を高める学習をします。				
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 外国人の子供や保護者が入園した際に役立つ英語。 ② コミュニケーション能力を養成する。 ③ 日常や園生活等で必要とする文法・単語・熟語・会話文の習得を目指す。				
【成績評価】 科目修得試験により評価する。				
【教科書】 赤松直子・久富陽子『保育の英会話』 萌文書林 【参考文献】 なし				
【アクティブラーニング】 「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと 【事前事後学習】 「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと 【ICT の活用】 なし				
【備考】				



## 授業計画

回	テーマ	学習内容 (教科書の章、参考資料など)
1	保育の英会話への第一歩	Unit 1: First Step to Childcare English
2	みなと保育園ようこそ	Unit 2: Welcome to Minato Nursery School!
3	時間と数	Unit 3: Time and Numbers
4	地図と道案内	Unit 4: Directions
5	クラスメイトとの出会い	Unit 5: Davy Meets His Classmate Takashi
6	デイヴィーの登園と降園	Unit 6: Dropping Davy Off and Picking Him Up
7	保育者の仕事	Unit 7: Jobs at Nursery School
8	昼食	Unit 8: Lunchtime
9	排泄に関する会話	Unit 9: Toilet Dialog
10	けんか	Unit 10: Fighting
11	けがと病気	Unit 11: Injuries and Illnesses
12	電話での対応	Unit 12: Telephone Calls
13	遠足	Unit 13: Field Trip
14	赤ちゃんのケア	Unit 14: Baby Care
15	卒園	Unit 15 Graduation Day

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCg2c312	ディプロマポリシー	DP1c
健康・スポーツ理論		履修年次	2
		単 位	1
Theory of Health and Sports		卒業要件	必修
		授業区分	教養科目
担当・シラバス執筆者 : 中山 貴太		担当形態 : 単独	
		授業方法	テキスト
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 体育			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 教養科目			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】 健康・スポーツとは、大きく分けると運動生理学やスポーツバイオメカニクス、筋パワーなどスポーツ科学的視点、スポーツ外科やリハビリテーションなどの医学的視点に分けることができる。本科目ではスポーツ科学や医学的側面を学びつつも健康に重点を置き、その中で、からだ、運動・スポーツがそれぞれ健康とどのように関連しているか知る。また、健康生活を営むために運動・スポーツを実施する際の留意点や年齢に応じた内容など総合的に学ぶ。			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 健康と運動の関連を理解する。 ② 運動とからだの関連を理解する。 ③ 健康に関連する社会環境を理解する。			
【成績評価】 科目修得試験により評価する。			
【教科書】 安部孝・琉子友男『これからの健康とスポーツの科学』第5版 講談社			
【参考文献】 なし			
【アクティブラーニング】 「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと			
【事前事後学習】 「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと			
【ICT の活用】 なし			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	ライフスタイルと健康	健康を増進するためのライフスタイルを医療費や環境など社会的側面を含め総合的な視点で学ぶ
2	生活習慣病について	生活習慣病や三大死因などの原因や特徴、基礎的知識の獲得。それらと運動との関連について学ぶ
3	肥満について	肥満の原因となる体脂肪の役割や肥満の測定方法などを学び、改善策として代謝や運動、食事との関連について学ぶ
4	骨と運動	骨の役割と構造を理解し、骨の強化や骨の発達に応じた運動について学ぶ
5	加齢について	サルコペニアが引き起こす身体問題や運動の重要性について学ぶ
6	子どもの体力と運動	現在の子どもを取り巻くスポーツ・運動の環境について学ぶ
7	いろいろな環境下で安全に運動を行う	いろいろな環境下で安全に運動を行う際の留意点を理解し、パフォーマンスとの関連を学ぶ
8	ストレスと運動	運動がストレスをはじめ、心や脳に与える影響、効果や働きかけについて学ぶ。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 テキスト 科目					
ナンバリング	CCs1c114	ディプロマポリシー	DP3c		
子どもの食と栄養 I			履修回数	1	
			単 位	1	
Nutrition for Children I			卒業要件	選択	
			授業区分	専門科目	
担当・シラバス執筆者 : 稲葉 佳代子		担当形態 : 単独		授業形態	演習
				授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ  【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ  保育の対象の理解に関する科目  【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>					
<p>【授業の概要】  小児期の食生活は、健康な体づくりのために重要です。そのため、保育者はこの時期の食事の重要性をしっかりと理解する必要があります。本講座では、食生活の意義、栄養の基礎知識、子どもの発育・発達と食生活の関連、食育の基本など、保育者に必要な基礎的内容を学びます。また、食物アレルギーや障害など特別な配慮を要する子どもの食と栄養についても理解を深めます。</p>					
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。</li> <li>② 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。</li> <li>③ 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。</li> <li>④ 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。</li> <li>⑤ 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。</li> </ol>					
<p>【成績評価】  科目修得試験により評価する。</p>					
<p>【教科書】  児玉浩子／編集・執筆 太田百合子・風見公子・小林陽子・藤澤由美子／執筆 『子どもの食と栄養 改訂第3版』 中山書店</p> <p>【参考文献】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 栄養セントラル学院『保育現場の食育計画』 風鳴舎</li> <li>② 小川万紀子監修『新食育ブック 子どもの食と健康』 少年写真新聞社</li> <li>③ 堤ちはる・土井正子編著『子どもの食と栄養(第9版)』 萌文書林</li> </ol>					
<p>【アクティブラーニング】  「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】  「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】  なし</p>					
<p>【備考】</p>					

## 授業計画

回	テーマ	学習内容 (教科書の章、参考資料など)
1	子どもの健康と食生活	第1章 1～6 (p. 2～24)
2	食に関する基礎知識①	第2章 1～5 (p.26～35) 1. 消化吸収の仕組み 2. 栄養の基礎知識 3. たんぱく質の代謝と栄養学的意義 4. 糖質の代謝と栄養学的意義 5. 脂質の代謝と栄養学的意義
3	食に関する基礎知識②	第2章 6～8 (p.36～41) 6. ビタミンの代謝と栄養学的意義 7. ミネラルの代謝と栄養学的意義 8. 食物繊維と水分
4	食に関する基礎知識③	第2章 9～12 (p.42～47) 9. 日本人の食事摂取基準の意義と活用 10. 妊婦・授乳婦の食事摂取基準 11. 乳幼児の食事摂取基準 12. 学童・思春期の食事摂取基準
5	子どもの発育・発達と栄養・食生活①	第3章 1～4 (p.50～61) 1. 授乳・離乳の支援ガイド 2. 乳幼児の咀嚼機能の発達と食事提供 3. 乳幼児の味覚機能の発達と食事提供 4. 乳幼児の消化吸収機能の発達と食事提供
6	子どもの発育・発達と栄養・食生活②	第3章 5a (p.62～68) 5. 乳児期栄養 a. 乳汁栄養
7	子どもの発育・発達と栄養・食生活③	第3章 5b (p.69～73) 5. 乳児期栄養 b. 離乳期栄養
8	子どもの発育・発達と栄養・食生活④	第3章 6 (p.74～79) 6. 幼児期栄養
9	子どもの発育・発達と栄養・食生活⑤	第3章 7 (p.80～85) 7. 学童・思春期の栄養
10	食育の基本と実践	第4章 食育の基本と実践 (p.88～108)
11	児童福祉施設や家庭における食と栄養	第5章 児童福祉施設や家庭における食と栄養 (p.110～115)
12	食の安全	第6章 食の安全 (p.118～133)
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①	第7章 1、2、3 (p.136～140) 1. 食物アレルギー 2. 鉄欠乏性貧血 3. 糖尿病
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②	第7章 4、5、6、7 (p.141～147) 4. 発熱 5. 体調不良 6. 急性胃腸炎 7. 便秘
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養③	第7章 8、9、10 (p.148～154) 8. 肥満 9. やせ 10. 障がい児

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c116	ディプロマポリシー	DP3c
子どもの保健		履修年次	1
		単 位	2
Health for Children		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：成川 美和		担当形態：単独	
		授業形態	講義
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>保育の対象の理解に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>発育途中にある乳幼児は、環境の変化に対する適応力が低く、感染症にも罹りやすい。成人とは異なるため、子どもの健康を保持増進するだけでなく、健全な発育を促すことも必要不可欠である。ここでは、子どもの心身の発育・発達とその評価、子どもの病気と予防・手当、保育環境、健康と安全、体調不良やけがと応急処置、個別な配慮、感染症対策ガイドラインについて学習する。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士として必要な子どもの保健についての基礎知識を身につける。</li> <li>・乳幼児期に罹患する病気（感染症含む）と予防、対応について正しい知識を獲得し理解する。</li> <li>・子どもにとっての安全で健康な環境について理解する。</li> </ul>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>高内正子編著『子どもの保健と安全』教育情報出版</p> <p>【参考文献】</p> <p>鈴木美枝子編著『これだけはおさえて！保育者のための子どもの保健Ⅰ』創成社</p> <p>新保育士養成講座編纂委員会編『改訂2版 新保育士養成講座 第7巻 子どもの保健』全国社会福祉協議会</p> <p>遠藤郁夫他『子どもの保健Ⅰ』学建書院</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針、保育所における感染症対策ガイドライン』</p> <p>文部科学省『学校において予防すべき感染症の解説』</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	子どもの心身の健康と保健の意義	保健活動、健康の概念、健康指標、現状と課題、地域の保健活動と児童虐待の防止について学ぶ 教科書 第1章 1・2・3・4節
2	子どもの保健の諸統計	人口統計、出生率、死亡率、事故・けが・病気の予防について学ぶ 教科書 第2章 1・2・3・4節
3	子どもの心身の発達とその評価	発達の順序と連続性、発達の臨界期と基本的方向性、精神発達、健康状態の把握について学ぶ 教科書 第3章 1・2・3・4節
4	子どもの生理機能の発達1	子どもの生理機能（ホメオスタシス、呼吸、乳幼児突然死症候群（SIDS）、体温）の発達について学ぶ 教科書 第4章 1・2・3・4節
5	子どもの生理機能の発達2	子どもの生理機能（血液、循環、消化吸収、排泄、睡眠、ホルモン等）の発達について学ぶ 教科書 第4章 5・6・7節
6	子どもの脳神経系の発達	子どもの脳神経系（しくみ、細胞、発達と反射等）の発達について学ぶ 教科書 第5章 1・2・3節
7	子どもの運動機能の発達とその評価	運動機能の発達、運動発達の方向性、評価について学ぶ 教科書 第6章 1・2・3節
8	子どもの感覚の発達とその評価	視覚、聴覚、味覚、触覚等の発達について学ぶ 教科書 第7章 1・2・3節
9	子どもの歯の発達とケア	乳歯と永久歯の発達、歯の健康状態、健康管理について学ぶ 教科書 第8章 1・2・3節
10	子どもの病気と予防・手当1	子どもの病気の特徴、先天異常、呼吸器の病気について学ぶ 教科書 第9章 1・2・3節
11	子どもの病気と予防・手当2	循環器、血液、消化器の病気と手当について学ぶ 教科書 第9章 4・5・6節
12	子どもの病気と予防・手当3	悪性腫瘍、精神神経系、泌尿器・生殖器の病気について学ぶ。 教科書 第9章 7・8・9節
13	子どもの病気と予防・手当4	皮膚、整形外科的、口腔の病気について学ぶ。 教科書 第9章 10・11・12節
14	子どもの病気と予防・手当5	眼、耳・鼻、内分泌の病気と予防接種について学ぶ。 教科書 第9章 13・14・15・16節
15	個別な配慮を要する子どもへの対応	保健的対応、3歳未満児・アレルギー性疾患・慢性疾患・障害・医療的ケア児への対応について学ぶ 教科書 第14章 1・2・3・4・5節

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c117	ディプロマポリシー	DP3c
子ども家庭支援の心理学		履修年次	1
		単 位	2
Psychology to Support a Child and a Family		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：杉崎 雅子		担当形態：単独	授業形態
			授業方法
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>保育の対象の理解に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p> <p>公認心理師・臨床心理士の資格を持つ教員が、発達相談、教育相談の実務経験から、支援が必要な家庭の理解や子どもの心の健康に関わる問題について指導する。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>発達における初期体験の重要性、各時期の移行、発達課題等を整理し、そうした発達を支える家族・家庭の機能を理解する。また子どもの精神保健についても基礎知識を習得する。これらの学習をとおして、現代の子育て状況と課題を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を学ぶ。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期体験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。</p> <p>② 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係について発達の理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。</p> <p>③ 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。</p> <p>④ 子どもの精神保健とその課題について理解する。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>杉崎雅子『スギ先生と考える子ども家庭支援の心理学』 萌文書林</p> <p>【参考文献】</p> <p>なし</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	乳幼児期の発達	新生児から幼児期までの発達特徴とかわりについて学ぶ（第1章）
2	児童期の発達	児童期の発達特徴と教育の諸問題について学ぶ（第2章）
3	青年期の発達	青年期の発達特徴と乳幼児期との関係について学ぶ（第3章）
4	成人期・高年齢期の発達	成人期、高年齢期の発達や心理的課題について学ぶ（第4章）
5	家族・家庭の意義と機能	家族や家庭の意義と機能について学ぶ（第5章）
6	親子関係・家族関係の理解	家族を理解し支援するための理論や技法について学ぶ（第6章）
7	子育てを取り巻く社会的状況	現代における結婚、出産、子育てに関する状況について学ぶ（第7章）
8	ライフコースと仕事・子育て	ライフコースの観点から保護者理解、保護者支援を考える（第8章）
9	多様な家族の現状	多様な現代の家族の現状を把握し、その支援を考える（第9章）
10	配慮を要する家庭①	保護者の疾患や障害など、特別なニーズがある家庭への配慮を学ぶ（第10章）
11	配慮を要する家庭②	虐待が子どもに与える心理的影響と支援を考える（第11章）
12	子どものストレス	子どものストレスによる症状とその対応について学ぶ（第12章）
13	睡眠、食事、排泄に関わる症状	睡眠、食事、排泄に関わる症状とその対応について学ぶ（第13章）
14	子どもに見られるその他の症状	チック、吃音、選択性緘黙について学ぶ（第14章）
15	発達障害	発達障害の症状と対応について学ぶ（第15章）

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c319	ディプロマポリシー	DP3c
保育原理		履修年次	1
		単 位	2
Principles of Early Childhood Care and Education		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シバ/執筆者 : 宮川 萬寿美		担当形態 : 単独	授業形態
			授業方法
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 大学が独自に設定する科目</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の本質・目的に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>「保育」について様々な視点から考えていく。「子ども理解」を基盤に、保育者に求められる専門性について理解しよう。保育の目的・目標や保育の制度・歴史、保育の内容、保育の計画等、実践者として必要な知識や考え方を学んでいく。子どもの人権を守り、常に子どもの味方であるために、また、豊かな保育実践を展開していくための、基本の視点を身につけていく科目である。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 保育の歴史と変遷を知り、子ども理解とは何かを理解するために、子どもの発達や生活や遊びについて学ぶ</p> <p>② 保育実践の事例について、他の人と共有できるようにエピソード記録を書くことができる</p> <p>③ 保育者に求められる専門性や法規について説明できる</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>① 神蔵幸子・宮川萬寿美・中川秋美『生活事例からはじめる保育原理第5版』青踏社</p> <p>② 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社</p> <p>【参考文献】</p> <p>なし</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】</p> <p>(第 4.5 講) 外国の保育思想家・日本の保育思想家についてインターネット等で情報を集め人物調べを行う</p> <p>(第 14 講) 海外の保育について、保育実践の様子についてインターネットを活用してネット動画等で視聴してみよう</p>			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	保育を学ぶということ（1）	「保育」とは 教科書① 第1章 第1項～第3項
2	保育を学ぶということ（2）	保育者に求められていること 教科書① 第1章 第4項～第5項
3	子ども理解	子どもを理解するとは？ 教科書① 第2章
4	子ども観・保育観（1）	外国の保育思想に学ぶ 教科書① 第3章
5	子ども観・保育観（2）	日本の保育思想に学ぶ 教科書① 第3章
6	保育の理念を支える法規	保育の理念を支える法規 教科書① 第4章
7	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能 教科書① 第5章、第6章
8	保育の目標と内容	保育の目標と方法と内容の関係 教科書① 第7章、教科書②
9	保育の内容（1）	「領域」の考え方 教科書① 第7章、教科書②
10	保育の内容（2）	幼稚園教育要領における保育内容 教科書②
11	保育の計画と評価	保育の計画と評価 教科書① 第10章、教科書②
12	子どもの育ち・学びの連続性	幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学び それぞれの目的と学び方の違い 教科書① 第11章 第1項～第2項
13	日本の保育の現状と課題	子どもを取り巻く日本の様々な現状や課題 教科書① 第12章
14	海外の保育事情	海外の保育に関する考え方を学び、様々な保育実践について知る（この教科書ではフィンランドと韓国） 教科書① 第14章
15	保育者のあり方	多様な保育ニーズと保育の今日的な課題 専門家としての保育者のあり方について学ぶ 教科書① 第15章

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c120	ディプロマポリシー	DP3c
社会的養護 I		履修年次	1
		単 位	2
Theory of Out-of-Home Care I		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 上野 文枝		担当形態 : 単独	授業形態
			授業方法
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>保育の本質・目的に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p> <p>母子生活支援施設の母子支援員としての実務経験により、社会的養護の必要な子どもとその家族の支援について他機関連携、他の児童福祉施設との連携などの知識・技能がある。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>児童福祉施設で働く施設保育士に必要な社会的養護の知識を習得する。児童養護の歴史と体系、関連する法律、現在の施設養護や里親養育について学び、様々な立場で生活する子どもを理解する。子どもの権利擁護、自立支援について、生活場面における具体的援助のあり方について考える。「子どもの虐待」「トラウマ」「愛着障害」「発達障害」に関する知識を身に付け、生活の中での支援を学ぶ。家族関係の調整、学校や地域との連携、援助者の資質、倫理等についても理解する。授業では、様々な困難を抱えた子どもを理解することを重視し、施設保育士に限らず保育所等の通所施設の保育士としても必要な知識の習得をする。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 現代の養護問題の歴史的背景及び体系を理解する。</p> <p>② 社会的養護の体系、児童福祉施設や里親などの役割について理解する。</p> <p>③ 社会的養護の基盤となる原則を児童福祉との関連において理解する。</p> <p>④ 施設養護における「子どもの権利擁護」及び「自立支援」の考え方を理解する。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>吉田眞理編著『児童の福祉を支える社会的養護 I』 萌文書林</p> <p>【参考文献】</p> <p>西澤哲『子ども虐待』 講談社、大久保真紀『児童養護施設の子どもたち』 高文研、村田和木『「家族」をつくる 養育里親という生き方』 中央公論新社</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	現代社会における社会的養護の意義と変遷	第1講Ⅰ～Ⅲ 社会的養護の歴史を踏まえ、現代社会における子どもと家族が抱える問題について学び、社会的養護を学ぶ意味と保育士の役割を理解する。
2	子どもの権利擁護と社会的養護	第2講Ⅰ～Ⅲ 子どもの権利を社会的養護の場でどのように展開するか、また、施設保育士としての論理と責務について学ぶ。
3	家庭の機能と社会的養護	第3講Ⅰ～Ⅲ 子どもが生活する場における家庭機能について理解し、家庭養護と施設養護の体系を学ぶ。
4	社会的養護の基本原則Ⅰ：養育—日常生活支援—	第4講Ⅰ～Ⅱ 子どもの権利に配慮した日常生活支援の実際を学び、施設規模による養育への影響について考察する。
5	社会的養護の基本原則Ⅱ：保護—自己実現に向けた支援—	第5講Ⅰ～Ⅱ 家庭から保護し養育する際の支援の視点と親子関係調整について学ぶ。また、地域との関係調整についても理解する。
6	社会的養護の基本原則Ⅲ：子どもであることへの回復—治療的支援—	第6講Ⅰ～Ⅱ 被害児の心の癒やしや傷の回復への支援の視点を学ぶとともに、施設内の他職種とのチームワークについて理解する。
7	社会的養護の基本原則Ⅳ：生活文化と生活力の習得—自立支援—	第7講Ⅰ～Ⅲ 日常生活を通して生活文化と生活力を習得する支援の実際を具体的に学ぶ。自立支援のあり方を学び、保育士の専門性を理解する。
8	社会的養護の基本原則Ⅴ：生命倫理観の醸成—生と性の倫理—	第8講Ⅰ～Ⅱ 生と性の倫理について、社会的養護における捉え方、支援について学ぶ。
9	社会的養護の制度と実施体系	第9講Ⅰ～Ⅲ 制度と実施の体系、社会的養護に携わる専門職について学ぶ。
10	施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ—乳児院と児童養護施設—	第10講Ⅰ～Ⅳ 第3講Ⅲ 乳児院と児童養護施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。
11	施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ—障害児の入所施設—	第11講Ⅰ～Ⅲ 第3講Ⅲ 障害児の入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。
12	施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ—児童自立支援施設と児童心理治療施設—	第12講Ⅰ～Ⅲ 第3講Ⅲ 社会に適応しづらい子どもの入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。
13	家庭養護の特徴・対象・形態—里親・ファミリーホーム—	第13講Ⅰ～Ⅴ 第3講Ⅲ 里親とファミリーホームについて、制度と養育の実際を学ぶ。
14	社会的養護の現状と課題①	第14講Ⅰ～Ⅲ 施設等の運営管理について基礎的な知識を得る。また、保育士としての倫理の確立と権利擁護の仕組みについて学ぶ。
15	社会的養護の現状と課題②	第14講Ⅳ～Ⅵ 被害児童等虐待の防止、地域福祉との関係、施設保育士として求められていることについて学ぶ。

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c121	ディプロマポリシー	DP3c
社会福祉		履修年次	1
		単 位	2
Social Welfare		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：武山 美子		担当形態：単独	
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>社会福祉</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>保育士は、児童福祉法に位置づけられた専門職である。子どもは、家庭・地域社会など、様々な環境の影響を受けており、現代社会を生きる子どもを保育する時、福祉的な視点から家庭の実態や生活課題を把握することは必要不可欠である。本教科目では、歴史的背景から社会福祉の考え方、人間観を多面的に学ぶとともに、現代の社会福祉の制度・政策を学習する。これらを通し、社会福祉の対象者を理解し実践するための基礎を得る。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭福祉の視点について理解する。</p> <p>② 社会福祉の制度や実施体系について理解する。</p> <p>③ 社会福祉における相談援助について理解する。</p> <p>④ 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。</p> <p>⑤ 社会福祉の動向と課題について理解する。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>吉田真理『生活事例から始める 新版社会福祉 第10版』青踏社</p> <p>【参考文献】</p> <p>山田美津子・稲葉光彦編『社会福祉を学ぶ 第2版』みらい</p> <p>山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉 第9版』ミネルヴァ書房</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	社会福祉の理念と課題①	社会福祉とは何か、「ノーマライゼーション」を理解する。（第1章 1-1～1-2）
2	社会福祉の理念と課題②	社会福祉の「ニーズ」「社会参加」を理解する。（第1章 1-3、1-4）
3	社会福祉の理念と課題③	社会福祉を支援する上での「自立」「平等」とは何かを理解する。（第1章 1-5、1-6）
4	社会福祉の歴史の変遷①	貧困問題の取り組みや貧富の原因を歴史の変遷から理解する。（第1章 2-1、2-2）
5	社会福祉の歴史の変遷②	国民の福祉の保障と、福祉を支援するのは誰かを学ぶ。（第1章 2-3）
6	子ども家庭支援と社会福祉	社会福祉と子ども家庭支援の関連性を学ぶ。（第1章 3-1～3-3）
7	子どもの人権擁護	「子どもの人権擁護」に基づく支援のあり方を学ぶ。（第1章 3-4）
8	社会福祉の制度①	「社会福祉にかかわる法律」を理解する。（第2章 1-1）
9	社会福祉の制度②	「福祉の政策主体」や「社会福祉施設」について理解する。（第2章 1-2～1-4）
10	社会保険	「社会保険」の仕組み、「社会福祉の専門職」を理解する。（第2章 2-1～3-2）
11	利用者を保護する仕組み	「第三者評価」「苦情解決の仕組み」「権利擁護」を理解する。（第2章 4-1～4-3）
12	社会福祉における相談援助①	社会福祉の専門技術を知り、相談援助の基礎を理解する。（第3章 1-1～1-4）
13	社会福祉における相談援助②	「ケースワーク」「グループワーク」の方法を理解する。（第3章 2-1～2-3）
14	社会福祉の動向と課題①	少子高齢社会における社会福祉の動向について理解する。（第4章 1-1～1-4）
15	社会福祉の動向と課題②	共生社会の実現と障害者施策の概要を理解する。（第4章 2-1～3-3）

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs2c122	ディプロマポリシー	DP3c
子ども家庭支援論		履修年次	2
		単 位	2
Theory for Family and Parenting Support		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：武山 美子		担当形態：単独	授業形態
			授業方法
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の対象の理解に関する科目 【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】 家庭や地域の子育て機能が低下する中で、保育所等の児童福祉施設には、地域で子育てをしている家庭への支援が求められています。この授業では、家庭の機能の変化や現状、社会的背景、関連分野の実践、法体系、子育て支援サービスについて学習し、実際に家庭支援に取り組む際に役立つ、多角的且つ具体的な方法と考え方について、事例を活用しながら習得します。地域で暮らす子育て中の家族の姿を思い浮かべながら学びを進めていきましょう。			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ② 保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③ 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④ 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。			
【成績評価】 科目修得試験により評価する。			
【教科書】 吉田真理『児童の福祉を支える 子ども家庭支援論』 萌文書林 【参考文献】 ロジャー・ハート『子どもの参画』 萌文社 新澤誠治『子育て支援 はじめの一步』 小学館 関口裕子他『家庭と結婚の歴史』 森話社 原田正文『子育て支援とNPO』 朱鷺書房			
【アクティブラーニング】 「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと 【事前事後学習】 「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと 【ICT の活用】 なし			
【備考】			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	子ども家庭支援の意義と必要性	第1章（1）を学び、子どもが育つ場としての家庭の在り方とそれを支援する意義について理解する
2	子ども家庭支援の目的と機能	第1章（2）を学び、子ども家庭支援の目的と機能について理解する。
3	子どもの発達と家族	第2章（1）～（3）を学び、子どもの発達に応じた家族や家庭の在り方について理解する。
4	保育の専門性と子ども家庭支援	第3章（1）を学び、保育士として家庭を支援する強みについて理解する。
5	子どもの育ちの喜びの共有	第3章（2）を学び、保護者相談や保護者との関係づくりにおいて重要な態度について理解する。
6	保護者や地域の子育て力の向上	第3章（3）を学び、保護者の子育てする力や地域が子育て支援をする力を育むための考え方を理解する。
7	保育士に求められる基本的態度	第3章（4）からバイステックの原則を学び、保護者の相談に応ずるときの基本的態度を理解する。
8	家庭の状況に応じた支援	第3章（5）を学び、家庭機能を念頭に置いてアセスメントから始める相談支援の考え方を理解する。
9	地域の資源の活用と連携・協力	第3章（6）から多様な地域資源や自治体・関係機関等について学び、連携や協力の方法を理解する。
10	子育て家庭のための社会資源	第4章（1）を学び、家庭が子育てに行き詰まったときに利用できる社会資源を理解する。
11	子育て支援施策	第4章（2）を学び、行政の行っている子育て支援の根幹となる法律や施策を理解する。
12	次世代育成支援施策の推進	第4章（3）（4）を学び、次世代育成支援に関わる施策と男女共同参画の動向を理解する。
13	多様な支援の展開と関係機関との連携	第5章（1）を学び、現在展開されている多様な子ども家庭支援と連携の重要性を理解する。
14	保育所等を利用する子どもの家庭、地域の子育て家庭への支援	第5章（2）（3）を学び、保育所等の利用者や保育所を利用していない保護者の子育て支援について理解する。
15	要保護児童等及びその家庭に対する支援	第5章（4）を学び、貧困家庭や虐待が疑われる家庭、障害児を育てる家庭や外国につながる家庭への支援について理解する。

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c123	ディプロマポリシー	DP3c
子ども家庭福祉		履修年次	1
		単 位	2
Child and Family Welfare		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：武山 美子		担当形態：単独	授業形態
			授業方法
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>保育の本質・目的に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>わが国では、子どもの貧困、児童虐待、障害児の療育など児童福祉の課題が山積するとともに、待機児童対策が急がれています。</p> <p>保育士は、すべての子どもの立場に立つことができる児童福祉職であり、子どもの存在を「人」として、「命」そのものとして理屈抜きで受け止められる専門職です。その保育士に必須といえる、児童家庭福祉に関する知識と福祉職としての自覚や態度がこの教科目を通じて、培われることを期待しています。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について説明できるようになる。</li> <li>② 子どもの人権擁護について理解する。</li> <li>③ 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>④ 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。</li> <li>⑤ 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。</li> </ol>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>吉田真理『児童の福祉を支える 子ども家庭福祉 改訂版』 萌文書林</p> <p>【参考文献】</p> <p>吉澤英子・西郷泰之『児童家庭福祉論』 光生館</p> <p>吉澤英子・小宮諒枝編『保育・看護・福祉プリマーズ②児童福祉』 ミネルヴァ書房</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	子ども家庭福祉の理念と概念	子ども家庭福祉の理念と概念を理解し、子ども家庭福祉の実際の活動内容、実践対象と方法について学ぶ。
2	子ども家庭福祉の歴史の変遷	子ども家庭福祉の歴史を知り、子ども家庭福祉の理念や実践の変化を知り現代の子ども家庭福祉を理解する基礎について学ぶ。
3	現代社会と子ども家庭福祉	現代社会における子育ての実態を知り、子ども家庭福祉の必要性について学ぶ。 我が国の世帯構造や生活意識の変化、家族の実態を統計資料から読み取り、現代家庭の在り方について知る。
4	子どもの人権擁護 1	保育を子ども家庭福祉の一分野として理解し、子どもの権利擁護について保育の視点から学ぶ。 子ども家庭福祉の施設として保育所を理解し、保育士の仕事の全体像について知る。 「児童の権利に関する条約」について理解する。
5	子どもの人権擁護 2	第4講の学びをもとに子どもの権利を護る仕組みについて学ぶ。 子どもの権利を護る福祉の仕組みについて知り、第三者評価事業、苦情解決の仕組み、子どもの権利ノートについて学ぶ。
6	子ども家庭福祉の制度と法体系	子ども家庭福祉の制度と法体系について知識を得て、保育分野における諸制度を理解する基礎について学ぶ。 日本国憲法第 25 条を基本とした福祉の実施を柱とした保育・福祉の法体系の全体像について知り、日本国憲法、児童虐待の防止等に関する法律、次世代育成支援対策推進法についても学ぶ。
7	子ども家庭福祉行政と実施機関	子ども家庭福祉を支える機関やその実務内容について理解し、保育者としての実践の基礎について学ぶ。 子ども家庭福祉を支える各機関の名前を知り、その機関が行っている子ども家庭福祉関係の実務について知る。
8	児童福祉施設等	乳児院、児童養護施設をはじめとする児童福祉施設の概要を知り、その法的枠組みと福祉サービスについて学ぶ。 児童福祉施設の概要、法的枠組みと福祉サービスについて知ることを通じて、保育分野の取り組みについて知る。
9	子ども家庭福祉の専門職・実施者	保育所や施設で働く人たち、地域で子どもを支援する人たちについて知り、実践者という視点から子ども家庭福祉について学ぶ。 子ども家庭福祉の専門職や実施者のそれぞれの職場と仕事内容について知る。
10	少子化と地域子育て支援、母子保健	少子化が進行するわが国の現状に対応する施策を保育サービスを中心に概観するとともに、母子保健分野の取り組みについて学ぶ。 子育て支援施策の変遷を知り、現代の施策の概要を知る。
11	多様な保育ニーズへの対応	地域における多様な保育サービスの展開について知り、保育者としての実践に結び付けて学ぶ。 地域における多様な保育サービスについて理解し、子どもを主体として保育者の視点から理解する。
12	児童虐待、ドメスティック・バイオレンス、社会的養護	児童虐待の実態、対応について知り、保育者としての対応の基礎知識を得る。ドメスティック・バイオレンス、社会的養護の概要を学ぶ。 児童虐待、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、社会的養護について理解する。
13	障害のある子ども、少年非行等への対応	在宅障害児の地域の暮らしと支援する制度、少年非行について理解し、保育者としての基本姿勢について学ぶ。
14	ひとり親家庭、子どもと食育	ひとり親家庭の現状について理解し、保育者としての支援について理解する。 子どもの食育について知り、保育分野からの取り組みについて知る。 母子世帯、父子世帯、母子・父子福祉施設、食育基本法について学ぶ。
15	子ども家庭福祉の動向と展望	わが国の子ども家庭福祉の方向性を理解し、保育を視点とした取り組みや隣接分野との連携の在り方について知り、保育現場でなすべきことについて学ぶ。

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c336	ディプロマポリシー	DP3c
保育者論		履修年次	1
		単 位	2
Theory of Nursery school and Kindergarten Teacher		卒業要件	必修
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 野津 直樹		担当形態 : 単独	授業形態
			授業方法
			講義
			テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ          教職の意義及び教員の役割職務内容（研修チーム学校への対応を含む）          【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ          保育の本質・目的に関する科目          【実務経験との関連性】※実務家教員のみ          私立幼稚園において、そこに従事する保育者を教務主事として指導してきた経験を持つ教員が、保育者とは何か、学生一人一人が目指していく保育者像を追及すべく指導を行う。</p>			
<p>【授業の概要】          本授業では「保育者とは何か」を命題として、学生一人一人が目指していくべき保育者像を追及していく。教職の意義、その役割や資質能力、職務内容について言及していく。また、実際の現場で保育者が働いている様子から伺える様々な葛藤や成長、多くの人やものとの出会いなどのエピソードを伝えながら講義を進めていく。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 専門職としての保育者の専門性を理解する。</li> <li>② 保育者に求められている役割を理解する。</li> <li>③ 自分なりの保育観を確立する。</li> <li>④ 保育者の制度的な位置づけを理解する。</li> <li>⑤ 保育者の仕事と役割を理解する。</li> <li>⑥ 保育者間の協働、関連機関との連携、保護者との連携について理解する。</li> </ol>			
<p>【成績評価】          科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】          野津直樹・宮川萬寿美編著『保育者論—主体性のある保育社を目指して—』 萌文書林          【参考文献】          文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館          厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館          内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p>			
<p>【アクティブラーニング】          「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと          【事前事後学習】          「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと          【ICTの活用】          なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	保育者とは	現在持っている保育者観を明確にし、保育とは何か、保育者とは何かについて理解する。 幼稚園教諭・保育士・保育教諭を比較しながら、それぞれの法的根拠を知る。（教科書 第1章 保育者とは）
2	幼稚園教諭とは	幼稚園教諭の役割を知る。それをしっかりと覚え自身の保育にいかす。 （教科書 第2章 幼稚園教諭とは）
3	保育士とは	保育士の役割を知る。それをしっかりとおさえた上で自身の保育にいかす。（教科書 第3章 保育士とは）
4	保育教諭および施設で働く保育者とは	保育教諭の役割を知る。施設で働く保育者の役割を知る。それらをしっかりとおさえた上で自身の保育にいかす。 （教科書 第4章 保育教諭および施設で働く保育者）
5	保育者に求められる倫理	子どもの最善の利益とは何かについて学ぶ。 （教科書 第5章 保育の現代的な問題）
6	保育者の制度的位置付け	保育者の法的な定義について学ぶ。 （教科書 第6章 保育者の制度的位置付け）
7	保育者の資質・能力	保育者の専門性を学ぶ。それを通して保育者に求められる資質・能力を知る。（教科書 第7章 保育者の資質・能力）
8	養護および教育の一体的展開	養護と教育を一体的に行うことについて理解する。 （教科書 第8章 養護及び教育の一体的展開）
9	保育の質の向上	保育の質の向上について学ぶ。 （教科書 第9章 保育の質の向上）
10	計画に基づく保育の実践と省察・評価	保育の質の向上を目指すべくPDCAサイクルについて学ぶ。 （教科書 第10章 計画に基づく保育の実践と省察・評価）
11	園内の保育者チームおよび家庭との連携	他の教職員や家庭との連携について学ぶ。 （教科書 第11章 園内の保育者チーム及び家庭との連携）
12	専門機関や地域との連携	保育者として連携すべき様々な専門機関等について学ぶ。 （教科書 第12章 専門機関や地域との連携）
13	保育者の葛藤と成長	保育者として葛藤するということを学ぶ。 （教科書 第13章 保育者の葛藤と成長）
14	保育の現代的な問題	保育者として働き続けるための心の持ち様、必要なスキルについて学ぶ。（教科書 第14章 保育の現代的な問題）
15	保育者を目指すあなたへ	これまでの保育者論の学びを振り返る。 （教科書 第15章 保育者を目指すあなたへ）

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c337	ディプロマポリシー	DP2c
教育原理		履修年次	1
		単 位	1
Principle of Education		卒業要件	必修
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 山本 陽子		担当形態 : 単独	
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の本質・目的に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>教育の理念、思想、歴史などの検討を通して教育学の基礎的な知識について体系的に学ぶとともに、教育にかかわる今日的な課題についても原点的に考察する。教えることや学ぶことはどのような営みなのか、先人の教育観や子ども観を学び、現代的に考えることができるようにすることを目指す。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 教育学の基礎的な概念について学び、教育の本質や意義について説明できる。</p> <p>② 教育の歴史から教育のあり方や子どもの捉え方など家庭や社会における教育について理解する。</p> <p>③ 幼児教育・保育において重要となる子ども中心、経験や活動中心の教育理論や思想を理解する。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>中村弘行『人物で学ぶ教育原理』三恵社（使用テキストの版：第13刷）</p> <p>【参考文献】</p> <p>田嶋一、中野新之祐、福田須美子、狩野浩二著『やさしい教育原理』（第3版）有斐閣アルマ、2016年</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	教育の本質	教育とは何か、教育の必要性や可能性、保育との関連について学ぶ。（第1章）
2	西洋の教育思想（17世紀～18世紀）	コメニウス、ロック、ルソーの思想について学ぶ。（第2章-1,2,3）。
3	西洋の教育思想（18世紀末～19世紀）	フレーベル、デューイ、モンテッソーリの思想について学ぶ。（第2章-5,6,7）
4	日本の教育思想（江戸～明治）	貝原益軒、佐藤信淵、福沢諭吉の思想について学ぶ。（第3章-1,2,3）
5	日本の教育思想（明治～昭和）	森有礼、倉橋惣三、城戸幡太郎の思想について学ぶ。（第3章-4,5,6）
6	外国教育史	古代ギリシャから近代ヨーロッパにおける教育思想や歴史を学ぶ。（第4章）
7	日本教育史	古代から昭和初期までの日本の教育思想や歴史を学ぶ。（第5章）
8	理想の教育実践	学校制度成立以降、その教育の実践がどのように工夫され、変化してきたのかを学び、よりよい教育内容や方法はいかなるものかを探求する。（第6章）
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c338	ディプロマポリシー	DP2c
教育制度論		履修年次	1
		単 位	1
Theory of Educational System and Organization		卒業要件	必修
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：内山 絵美子		担当形態：単独	
		授業形態	講義
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ            教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む）</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ            保育の本質・目的に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>学校制度をはじめとする教育制度の基本的な仕組みや社会的役割を学ぶ。また、教育制度の改革の動向から、現代の教育における課題に対しどう対処しようとしているのかを学び、教育制度の問題解決的な側面を理解する。それにより、子どもを取り巻く社会的制度的環境について自らの考えを深めることを目指す。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 学校や教育、保育に関する基本的な仕組みについて目的や具体的な決まりを説明できる。</p> <p>② 現行の教育制度における様々な課題と解決に向けた取り組みについて理解する。</p> <p>③ 子ども、教育者、教育実践、社会全体に資する教育制度の在り方について考えることができる。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>内山絵美子・山田知代・坂田仰編著『新訂版 保育者・小学校教員のための教育制度論—この一冊で基礎から学ぶ』教育開発研究所</p> <p>【参考文献】</p> <p>中山徹『だれのための保育制度改革—無償化・待機児童解消の真実』自治体研究社 2019年</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	教育制度とは何か	教育を受ける権利を保障する仕組み、公教育の原理を理解する（第1章・第2章）
2	学校教育の基本的な仕組みについて理解する（第3章・第6章）	学校教育の基本的な仕組みについて理解する（第3章・第6章）
3	就学前の教育・保育に関する仕組み	就学前の教育・保育、児童福祉に関する基本的な仕組みについて理解する（第4章・第5章）
4	教育行政の仕組み	教育活動を支える作用について学ぶ（第9章）
5	学校経営と学校・家庭・地域の連携に関する仕組み	学校経営に関する基本事項および学校・家庭・地域の連携を支える仕組みについて学ぶ（第10章・第11章）
6	特別支援教育の仕組み	特別なニーズへの対応について考える（第7章）
7	子どもの安全・安心に関する仕組み	子どもの問題行動や事故について知り、学校安全や安心について考える（第12章・第14章）
8	子育て支援の仕組み	保育・教育改革の動向、今後の課題について知る（第15章）
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs2n239	ディプロマポリシー	DP3c
教育社会学		履修年次	2
		単 位	1
Educational Sociology		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 間野 百子		担当形態 : 単独	授業形態
			授業方法
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>教育を社会現象として捉え、人間の成長・発達過程に影響を与える、教育・社会環境について、教育改革の動向、多様化・複雑化する様々な教育課題への対処の在り方などの観点から実証的に検討していく。新聞やテレビ、インターネット、雑誌などで報道される教育に関する記事やニュースに関心を持ち、収集しておくことが望ましい。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 子ども・若者を取り巻く、教育・社会環境の変化に関する理解を深める。</p> <p>② 学校を巡る様々な教育的課題に対する指導のあり方を理解する。</p> <p>③ 学校教育の改革の趣旨と動向を理解する。</p> <p>④ 国の内外の教育事情や教育改革の動向に関する知見を深める。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和編『半径5メートルからの教育社会学』大月書店</p> <p>【参考文献】</p> <p>加野芳正・越智康詞編著（2016）『新しい時代の教育社会学』ミネルヴァ書房</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容 (教科書の章、参考資料など)
1	学力の獲得は平等なのか？	学力の獲得と努力主義神話について (第I部第1章1～6)
2	高学歴社会における教育機会と費用負担	高学歴社会において教育機会の格差が生じるメカニズム (第I部第3章1～4)
3	学校に「行っていない」子どもたち	学校に「行っていない」子どもたちを生み出した社会的背景と課題 (第II部第4章1～5)
4	貧困世帯の子どもたち	子どもの貧困率、貧困世帯の子どもの実情 (第II部第5章1～4)
5	学校の外で学ぶ子どもたち	不登校児童・生徒の増加現象と学校外での学び (第II部第6章1～3)
6	教育から職業への移行と就職活動	雇用環境の変遷、非正規雇用の増加 (第IV部第10章1～6)
7	「いじめ」問題が作る視角と死角	社会問題としてのいじめ (第IV部第11章1～5)
8	少年犯罪についての認識とメディア	困難や非行を抱える少年理解と支援方法 (第IV部第12章1～4)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c340	ディプロマポリシー	DP3c
保育の心理学 I		履修年次	1
		単 位	2
Psychology in Early Child Care and Education I		卒業要件	必修
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 杉崎 雅子		担当形態 : 単独	授業形態
			授業方法
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ          幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ          保育の対象の理解に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>子どもの発達に関する代表的な理論を踏まえ、乳幼児期から成人期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解していく。また、主体的な遊びや学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。          ② 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。          ③ 子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得式試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>大浦賢治編著『実践につながる新しい保育の心理学』ミネルヴァ書房</p> <p>【参考文献】</p> <p>なし</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	子どもの発達を理解することの意義	保育者が子どもの発達を学ぶ意義を理解する（第1章）
2	子どもの発達と環境	子どもの発達に影響を与える環境について学ぶ（第2章）
3	子ども観・保育観と発達理論からの視点	子ども観、保育観の歴史的な展開と、発達理論の子どもに対する視点を学ぶ（第3章）
4	社会情動的発達	社会情動的発達について学ぶ（第4章）
5	身体機能と運動機能の発達	身体機能や運動機能（全身運動と手の操作）の発達について学ぶ（第5章）
6	認知の発達	ピアジェの発達理論から認知の発達について学ぶ（第6章）
7	言語の発達	言語の発達について学ぶ（第7章）
8	アセスメント	アセスメントの種類や意義、発達障害等支援の必要な子どもの特性を知る（第8章）
9	0、1、2歳の発達	誕生から2歳ごろまでの発達の特徴と発達課題について学ぶ（第9章）
10	3、4、5歳の発達	3歳児～5歳児の発達の特徴と発達課題について学ぶ（第10章）
11	学童期から青年期までの発達	学童期、青年期の特徴と発達課題を学ぶ（第11章）
12	成人期から老年期までの発達	成人期の心理とライフ・イベントに伴う心理的葛藤について学ぶ。 老年期の力増進こともなう現象と成熟する側面について学ぶ（第12章）
13	乳幼児期の学びに関する理論	学びに関する理論について学ぶ（第13章）
14	乳幼児期の学び（遊び）の過程と特性	「遊ぶこと」の意味や遊びの機能について学ぶ（第14章）
15	乳幼児期の学び（遊び）を支える保育	「主体的に遊ぶ」ということについて保育実践から学ぶ（第15章）

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs2c341	ディプロマポリシー	DP2c
保育カリキュラム論		履修年次	2
		単 位	2
Curriculum in Early Child Care and Education		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 内山 絵美子		担当形態 : 単独	授業形態
			授業方法
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>保育の対象の理解に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>根拠法令に基づいて、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針等に沿って、教育課程・保育の全体的な計画等の編成や指導計画の作成・立案について学習する。子どもの望ましい育ちを目指して、育てたい姿を描くことや、子どもの実態に即した指導計画の立て方や環境構成に関して学び、実習の指導計画案を作成できるようにしていく。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 保育における計画の意義を理解し、その編成の基本的な考え方を理解している。</p> <p>② 教育課程・保育の全体的な計画（保育課程）および長期の指導計画をもとに子どもの実態に即した短期の指導計画を作成することができる</p> <p>③ P D C Aによる保育の質の向上の考え方を学び、保育を評価・省察できる</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>① 宮川萬寿美編著／野津直樹・内山絵美子ほか『「保育の計画と評価-豊富な例で1からわかる（第2版）」』 萌文書林</p> <p>② 内閣府・文部科学省・厚生労働省『平成29年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社</p> <p>【参考文献】</p> <p>なし</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>自分の行く実習園に関してインターネット等で教育課程を確認しよう</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	保育における計画と評価の意義	保育における計画・評価の必要性について理解する 教科書①第1章 教科書②要領・指針総則
2	カリキュラムの基礎理論	カリキュラムと何か、保育におけるカリキュラムの特性を学ぶ 教科書① 第1章
3	教育課程・保育課程の歴史と変遷	幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷を知る 教科書① 第1章
4	社会の変化と保育に求められるもの	「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を学ぶ 教科書① 第1章 教科書②要領・指針総則
5	幼稚園における計画	幼稚園における計画の特徴について知る 教科書①第2章 教科書②幼稚園教育要領・総則
6	保育所・認定こども園における教育・保育の計画	保育所・認定こども園の計画の特徴について知る 教科書①第2章 教科書②保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
7	教育課程の編成の実際	幼稚園の教育課程の編成の要件や実際の事例を検討する。 教科書①第3章 教科書②幼稚園教育要領・総則
8	子ども理解に基づく計画と評価	子どもの実態の捉え方、計画への生かし方を学ぶ 教科書①第1章・4章
9	指導計画におけるねらいと内容	指導計画におけるねらいと内容の意味や考え方について学ぶ 教科書①第4章 教科書②要領・指針総則
10	指導計画の作成と展開（1）—指導計画の基本	長期の指導計画と短期の指導計画の関連について学ぶ 教科書①第5章 教科書②要領・指針総則
11	指導計画の作成と展開（2）—3歳未満児	0・1・2歳児の指導計画について学ぶ 教科書①第5章・6章 教科書②
12	指導計画の作成と展開（3）—3歳以上児	3・4・5歳児の保育と指導計画について学ぶ 教科書①第6章 教科書②
13	指導計画案の作成と展開（4）—その他の計画	行事の計画、食育計画、保健計画、安全計画等について学ぶ 教科書①第5章・6章 教科書②
14	保育の省察および記録	保育の記録の意義、帳票や日誌の内容について知る 教科書①第7章
15	保育の評価と改善—PDCAサイクルの考え方	保育者の自己評価と園の自己評価、カリキュラム・マネジメントについて知る 教科書①第1章、第8章 教科書②要領・指針総則

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs2c344	ディプロマポリシー	DP3c
健康指導法		履修年次	2
		単 位	2
Early Child Care and Education (Health)		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 中山 貴太		担当形態 : 単独	
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ            保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)            【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ            保育の内容・方法に関する科目            【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】            幼稚園、保育園、認定こども園で実践する教育、保育の「健康」の位置づけを理解し、子どもの発達に応じた支援、援助、環境設定や安全教育、それらに付随する専門知識や学校教育の流れを学ぶ。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 幼稚園、保育園、認定こども園で実践する教育、保育の「健康」の位置づけを理解する。</li> <li>② 子どもの発達に即した支援、援助、環境設定を理解する。</li> <li>③ 指導方法や教材づくり、評価法や小学校教育とのつながりを理解する。</li> </ol>			
<p>【成績評価】            科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】            井筒紫乃・安倍大輔・川田裕次郎『新版 保育者をめざす保育内容「健康」』 圭文社</p> <p>【参考文献】            文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p>			
<p>【アクティブラーニング】            「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】            「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】            なし</p>			
【備考】			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容(教科書の章、参考資料など)
1	保育内容「健康」で学ぶこと	法令や各指針・要領における「健康」について 教科書第1章
2	からだの発達①	からだの発育と発達について 教科書第2章
3	からだの発達②	運動発達について 教科書第2章
4	からだの発達③	運動発達を促進する運動指導について 教科書第2章
5	こころの発達	発達段階について 教科書第3章
6	子どもにとって遊びとは	子どもの遊びの重要性について 教科書第4章
7	様々な遊び①	様々な遊びの実践や注意点について 教科書第5.6章
8	様々な遊び②	季節の遊びについて 教科書第5.6章
9	基本的生活習慣の形成①	基本的生活習慣とは 教科書第8.9章
10	基本的生活習慣の形成②	基本的生活習慣と保育者のかかわりについて 教科書第8.9章
11	子どもを取り巻く現状①	現代社会と子どもについて 教科書第10.11章
12	子どもを取り巻く現状②	子どもとメディアについて 教科書第10.11章
13	食育と健康	食育の基本について 教科書第12章
14	子どもの安全管理と安全教育	現場での安全管理や子どもと実践する安全教育について 教科書第13章
15	子どものけがや病気	乳児や幼児に気をつけたいけがや病気について 教科書第14章

通教育課程 テキスト 科目					
ナンバリング	CCs2c345	ディプロマポリシー	DP3c		
表現指導法			履修年次	2	
			単 位	2	
Early Child Care and Education (Representation)			卒業要件	選択	
			授業区分	専門科目	
担当・シラバス執筆者 : 上野 奈初美		担当形態 : 単独		授業形態	演習
				授業方法	テキスト
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)					
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の内容・方法に関する科目					
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ					
【授業の概要】 幼稚園、保育所および幼保認定連携型認定こども園における乳幼児の「表現」の指導法について考究していく。子どもの表現活動を支える援助者として学生自身が表現力を向上させるとともに、子ども達に表現することの素晴らしさを伝える指導力の育成を目指す。					
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 幼稚園および保育所等における「表現」の内容について基礎的な知識を得る。 ② 保育者として自ら表現する楽しさを感じ、子どもの発達に応じた表現の指導力が身につく。 ③ 可能な環境設定の中で模擬授業を構築することができる。					
【成績評価】 科目修得試験により評価する。					
【教科書】 上野奈初美編著『表現指導法-感性を育て、表現の世界を拓く』明文書林					
【参考文献】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館					
【アクティブラーニング】 「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと					
【事前事後学習】 「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと					
【ICT の活用】 なし					
【備考】					

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	子どもにとっての表現とは	子どもの「表現」に関する基礎的な事項について学ぶ（第1章）
2	領域「表現」とは	領域「表現」のねらい及び内容について学ぶ（第2章）
3	リズムを楽しむ子どもの身体表現	子どもの身体表現とリズムとの密接な関わり合いを学ぶ（第3章）
4	スポーツの名場面を表現に	スポーツの特性を知り身体表現との相違点や類似点を学ぶ（第4章）
5	音楽表現活動の指導①	音を聴き、声を使った表現遊びの実践方法や保育者の関わり方を学ぶ（第5章）
6	音楽表現活動の指導②	楽器や様々な素材の音を使った表現遊びの実践方法や保育者の関わり方を学ぶ（第6章）
7	幼児の造形表現の特質	子どもの造形について発達の観点から知り、造形の遊びへと展開できる技術を身につける（第7章）
8	造形の材料と技法	造形表現の材料や技法について学ぶ（第8章）
9	言葉による表現①	子どもにとっての言語表現とは何かについて理解する（第9章）
10	言葉による表現②	言葉を媒介とした表現遊びについて理解する（第10章）
11	自然と生活	春の保育活動の特色について理解する（第11章）
12	夏のイメージから表現へ	夏のイメージから多様な表現が生まれることを学ぶ（第12章）
13	総合的音楽表現活動の指導	行事を通して子どもの自主性や表現力、協働する力を育むための保育者の関わり方や計画の実践方法を学ぶ（第13章）
14	総合活動計画の立案	季節を題材にした部分実習指導案を立案する（第14章）
15	領域「表現」の目指すもの	現代社会の中で子どもの豊かな表現を育むための課題について考える（第15章）

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs2c347	ディプロマポリシー	DP3c
人間関係指導法		履修年次	2
		単 位	2
Human Relations		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 竹内 あゆみ		担当形態 : 単独	授業形態
			演習
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ            保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)            【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ            保育の内容・方法に関する科目            【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】            本科目では、領域「人間関係」のねらい及び内容について専門領域と関連させて理解を深め、具体的保育を構成する力を養う。「幼児の人と関わる力の育ち」を理論的・実践的に理解し、保育者の「育てる側の人間」としての資質の向上を目指す。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】            ① 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。            ② 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。</p>			
<p>【成績評価】            科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】            菊地篤子『ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」』みらい            【参考文献】            文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館            厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館            内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p>			
<p>【アクティブラーニング】            「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと            【事前事後学習】            「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと            【ICT の活用】            なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	領域「人間関係」①	幼稚園教育要領や保育所保育指針の構造理解と、領域「人間関係」のねらい及び内容・保育実践の在り方や評価の理解
2	領域「人間関係」②	幼稚園教育要領の領域「人間関係」が目指す育ちと保育者の視点と役割、事例研究
3	子どもの生活の中で育まれる人間関係①	幼児の生活体験に関する保育構想及び展開と保育者の役割
4	子どもの生活の中で育まれる人間関係②	生活環境の工夫に関する教科研究（情報機器の操作及び教材の活用を含む）
5	子どもの遊びの中で育まれる人間関係①	幼児の遊び体験に関する保育構想及び展開と保育者の役割
6	子どもの遊びの中で育まれる人間関係②	園における遊び環境の工夫に関する教科研究（情報機器の操作及び教材の活用を含む）
7	保育の展開と指導計画①	保育の構想と指導計画、模擬保育について
8	保育の展開と指導計画②	人間関係を育む保育計画について、実践の整理（保育の記録型学習）による指導案演習
9	指導計画と実践①	人間関係を育む保育の立案、立案型学習による指導案演習
10	指導計画と実践②	指導計画と評価、指導案に基づいた模擬保育と振り返り
11	多様な配慮と保育構想①	個別の配慮が必要な幼児への援助に関する事例研究
12	多様な配慮と保育構想②	個と集団の育ちへの理解と援助方法
13	小学校生活への接続①	幼児期の終わりまでに育ってほしい「人間関係」とは
14	小学校生活への接続②	小学校生活と領域「人間関係」、事例研究
15	地域連携と保育の構想	幼稚園教育における現代的課題の整理、文化の伝承と保護者や地域との連携に関する指導案分析演習

通信教育課程 テキスト 科目				
ナンバリング	CCs1c248	ディプロマポリシー	DP2c	
健康			履修年次	1
			単 位	1
Health			卒業要件	選択
			授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 上野 奈初美		担当形態 : 単独	授業形態	講義
			授業方法	テキスト
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】 ※該当科目のみ 領域に関する専門的事項 【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】 ※該当科目のみ 【実務経験との関連性】 ※実務家教員のみ				
【授業の概要】 領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。				
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 幼稚園教育要領等における領域「健康」のねらい及び内容について理解する。 ② 体の諸機能の発達、運動発達および生活習慣の形成について理解する。 ③ 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解する。				
【成績評価】 科目修得試験により評価する。				
【教科書】 上野奈初美編著『健やかな育ちを支える 領域「健康」』ミネルヴァ書房 【参考文献】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館				
【アクティブラーニング】 「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと 【事前事後学習】 「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと 【ICT の活用】 なし				
【備考】				

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	幼児と健康	幼児教育の捉え方、領域「健康」のねらい及び内容について理解する 教科書第1章、教育要領、保育指針、教育・保育要領
2	発育・発達	子どもの身体的諸機能の発達の特徴について理解する 教科書第2章、教育要領、保育指針、教育・保育要領
3	運動	幼児の動きの経路や配慮など園における身体活動の在り方を理解する 教科書第3章、教育要領、保育指針、教育・保育要領
4	生活習慣	基本的な生活習慣を獲得する意義と保育者の役割について理解する 教科書第4章、教育要領、保育指針、教育・保育要領
5	食育	保育現場における食育の進め方と考え方について理解する 教科書第5章、教育要領、保育指針、教育・保育要領
6	幼児の保健	保育現場における健康管理に関する基本的な考え方を理解する 教科書第6章、教育要領、保育指針、教育・保育要領
7	保育における安全管理	保育現場における安全管理における対策や考え方について理解する 教科書第7章、教育要領、保育指針、教育・保育要領
8	現代的課題	領域「健康」に関する現代的課題と保育者の役割について理解する 教科書第8章、教育要領、保育指針、教育・保育要領
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c249	ディプロマポリシー	DP2c
人間関係		履修年次	1
		単 位	1
Human Relations		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 竹内 あゆみ		担当形態 : 単独	授業形態
			授業方法
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 領域に関する専門的事項</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみのみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>人は、生まれてまず「家族」という人間関係の中で生活を始め、徐々に関わりの世界を周辺に広げていく。幼児の人と関わる力の育ちは関わる対象や場面の中で育まれ、幼児教育はその礎である。本科目では幼児期の人間関係について全般的知識や課題を学ぶ。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につける。</p> <p>② 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。</p> <p>③ 幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>菊地篤子『ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」』みらい</p> <p>【参考文献】</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	子どもを取り巻く人間関係	第1編第1章 子どもを取り巻く社会的背景と人間関係の始まり
2	保育における人間関係	第1編第2章 領域「人間関係」と、園生活で育まれる人間関係について
3	乳児期の人間関係	第1編第3章 0歳児の人間関係の発達と生活・遊び、身近な大人や保育者の役割
4	1歳以上3歳未満児の人間関係	第1編第4章 1歳以上3歳未満児の人間関係の発達と生活・遊び、保育者の役割
5	3歳以上児の人間関係	第1編第5章 3歳以上児の人間関係の発達と生活・遊び、保育者の役割
6	子どもの人間関係と社会性・道徳性	第1編第6章 社会性・道徳性の育ち、規範意識の芽生え、大人の役割
7	家庭や地域との連携	第1編第7章 保護者と保育者の人間関係、地域との連携
8	保育者が紡ぐ「人間関係」	第1編第8章 保育者自身の人間関係、子ども理解と保育の質の向上、今後に向けて
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c250	ディプロマポリシー	DP2c
環境		履修年次	1
		単 位	1
Environment		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 島貫 織江		担当形態 : 単独	授業形態
			授業方法
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 領域に関する専門的事項</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>領域「環境」の指導に関連する、保育現場で求められる環境についての知識・技術を学習する。学習者自身が環境構成する上で基本的な知識・技術を学習する。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 保育における環境とは何かを理解する。</p> <p>② 子どもが環境と関わって成長していくためには保育者としてどう在るべきか考察できる。</p> <p>③ 子どもの視点に立った環境を構成する心構えをもつことができる。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>無藤隆・中坪史典・後藤範子『保育内容「環境」』 大学図書出版</p> <p>【参考文献】</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容(教科書の章、参考資料など)
1	保育における環境	保育における環境の基本的な考え方について (教科書 第1章保育とは何か、第2章領域「環境」について) (学習の手引き 3～4 ページ)
2	子どもの生活と保育環境	子どもにとっての環境、園を構成する様々な環境について (教科書 第3章子どもの生活と環境との関わり、第4章園の環境構成、第12章障害児の保育環境) (学習の手引き 5～6 ページ)
3	物的環境との関わり	物的環境について (教科書 第5章物とのかかわりと遊び) (学習の手引き 7～8 ページ)
4	自然環境との関わり	自然環境及びそれを保全する教育について (教科書第6章自然環境との関わり、第13章環境教育について) (学習の手引き 9～10 ページ)
5	子どもを取り巻く社会環境	子どもを取り巻く社会環境、園と地域社会とのつながりについて (教科書 第11章子どもを取り巻く社会環境) (学習の手引き 11～12 ページ)
6	遊びを通しての関わり① (数量・図形・文字・標識)	遊びを通して関わる環境としての数量、図形、文字、標識について (教科書 第7章数量と図形との関わり、第8章幼児と文字・標識との関わり) (学習の手引き 13～14 ページ)
7	遊びを通しての関わり② (科学・情報メディア)	遊びを通して関わる環境としての科学、情報メディアについて (教科書 第9章科学との出会いと環境、第14章子どもを取り巻く情報メディア) (学習の手引き 15～16 ページ)
8	行事を通しての関わり (四季、地域、国旗)	保育現場における様々な行事について (教科書 第10章保育と行事) (学習の手引き 17～18 ページ)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c251	ディプロマポリシー	DP2c
言葉		履修年次	1
		単 位	1
Language		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：馬見塚 昭久		担当形態：単独	
		授業方法	テキスト
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 領域に関する専門的事項			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】 言葉の意義や機能について事例を通して学ぶとともに、言葉を豊かにする実践や児童文化財の意義と活用方法について体験的に理解し、保育への取り入れ方を考える。			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 人間にとっての言葉の意義や機能について理解する。 ② 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。 ③ 幼児の発達における児童文化財の意義を理解する。			
【成績評価】 科目修得試験により評価する。			
【教科書】 馬見塚昭久・小倉直子編著『保育学生のための「幼児と言葉」・「言葉指導法」』ミネルヴァ書房			
【参考文献】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 小川清実編著『演習児童文化 保育内容としての実践と展開』萌文書林			
【アクティブラーニング】 【学習の手引き】における 「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと 【事前事後学習】 【学習の手引き】における 「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと 【ICT の活用】 なし			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	人間と言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の不思議で奥深い側面について考えよう</li> <li>・言葉の主な機能について理解しよう（1章）</li> </ul>
2	乳幼児期の言葉の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児が自ら言葉を獲得する力を持っていることを知ろう</li> <li>・言葉の仕組みを見つける方法を理解しよう（2章）</li> </ul>
3	言葉の豊かさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の特徴を理解しよう</li> <li>・日本語の楽しさ、豊かさ、美しさを実感しよう（3章）</li> </ul>
4	言葉遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉遊びの位置づけ、発達段階に応じた遊び方を知ろう</li> <li>・言葉遊びを体験し、活用方法について考えよう。（4章）</li> </ul>
5	児童文化財①〔おはなし〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育における児童文化財活用の意義を理解しよう</li> <li>・「おはなし」の意義を理解し、活用方法を身につけよう（5章）</li> </ul>
6	児童文化財②〔紙芝居〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居の歴史と特性を知ろう</li> <li>・紙芝居の演じ方のポイントを学び、実演してみよう（6章）</li> </ul>
7	児童文化財③〔絵本とは何か〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本各部の名称や絵本のジャンルを知ろう</li> <li>・絵と言葉が協力する絵本の特性を理解しよう（7章）</li> </ul>
8	児童文化財④〔絵本と子ども〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な「絵本の読み聞かせ」方法を身につけよう</li> <li>・絵本の中に描かれた子どもについて考えよう（8章）</li> </ul>
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c252	ディプロマポリシー	DP2c
表現（音楽）		履修年次	1
		単 位	1
Representation (Music)		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：今泉 明美		担当形態：単独	
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 領域に関する専門的事項</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ 声楽家として声楽コンサートにおける自身の歌唱及び歌唱曲の楽曲解説や童謡コンサートの企画及び同コンサートにおける聴衆に向けての楽曲解説等の経験・実績を生かすと共に、幼稚園教諭・保育士養成課程のための音楽表現の教科書『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術～感性と実践力豊かな保育者へ』を執筆し、保育者養成としての音楽理論、音楽表現実践を指導する。</p>			
<p>【授業の概要】 幼児の音楽的遊びや生活と領域「表現」の関連性、幼児の音楽的発達を理解する。様々な音楽的表現活動を通して音楽の楽しさを味わうと共にその楽しさの要因を音楽的知識から探る。また音楽表現活動を通して他者の表現への共感や表現を豊かにしていく過程を学び、まとめとして幼児の音楽表現活動計画を立案し実践する。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】 表現(音楽)では、領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。ここでは、わらべうたや子どもの歌唱、リトミックやオルフの幼児音楽教育、音楽遊びの立案に視点を当てて、幼児の音楽的表現の理解や様々な音楽表現の実践を通して、領域「表現」における音楽表現の指導の基盤となり、幼児の感性や音楽表現の育成につながる音楽的基礎知識、音楽表現の基礎知識、技能、感性を身につける。</p>			
<p>【成績評価】 科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】 今泉明美・有村さやか編著『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 -感性と実践力豊かな保育者へ-』 萌文書林 有村さやか・今泉明美・望月たけ美他『保育のためのやさしい子どもの歌—弾き歌い・合奏・連弾・合唱』 ミネルヴァ書房</p> <p>【参考文献】 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』 フレーベル館</p>			
<p>【アクティブラーニング】 「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】 「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】 なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容 (教科書の章、参考資料など)
1	わらべうた	わらべうた遊びの実践・わらべうたの特徴の理解 (教科書①2部 第1章 1、3項 P136-141、P154-158 Challenge43 教科書②第1部わらべうた P153,158,162,168等)
2	幼児の歌謡と歌謡活動	初めてのうたの歌謡活動の支援 (教科書①第1章 第6項 P128-130、第2章 第2項 P141-147)
3	リズム	リズムの教育目的・活動方法・遊び方の留意点 リズムやフレーズを用いたリズムの実践とその理解 (教科書①第2部第1章 第3-6項 P125-130、第4章 3-1項 P178-182 Challenge49、50)
4	拍子を用いたリズム	拍子を用いたリズムの実践とその理解 (教科書①第2部第4章第2項③-2 p 183-185)
5	オルフの音楽教育	日常の音を聴く遊び・ボディーパーカッション オルフの音楽教育 (教科書①第2部 第3章 第2～3項 P160-167)
6	音楽遊びの指導計画	音楽遊びの指導計画の概要と作成方法 (教科書①第2部 第4章 第1項 (P170-172、P186))
7	低年齢を対象とした楽器遊びの立案	2,3歳児を対象とした音楽遊び計画案の理解と音楽遊びの実践 (教科書①第2部 第1章 第3-6項 P125-230、第4章 第2項① P172-174)
8	4,5歳児を対象とした楽器遊びの立案	4,5歳児を対象とした音楽遊び計画案の理解と音楽遊びの実践 (教科書①第2部 第1章 第3-6項 P125-130、第4章第2項② P174-178)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c253	ディプロマポリシー	DP2c
表現（造形）		履修年次	1
		単 位	1
Representation (Art)		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：吉田 収		担当形態：単独	授業形態
			授業方法
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 領域に関する専門的事項</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>子どもたちは遊びを通して色々な事を学びます。造形での遊びは、頭や体全体を使って表現することで、人間らしい知識や心を獲得していきます。子どもたちの清新な発想や創造的な思考を理解するためには、それに同調できるアンテナを持っていなければなりません。そのためにも、自分の感性を高め、柔軟な思考を保っていくことが重要です。まずは自分の表現に向き合い、自分の表現を確認して下さい。</p> <p>そして、子どもたちの表現を受け止め理解していく柔軟な感性を学んで下さい。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>到達目標 表現(造形)では、領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。</p> <p>テーマ</p> <p>① 幼児の感性と表現 幼児の表現の姿や、その発達を理解する。</p> <p>② 様々な表現における基礎的な内容 様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>宮川萬寿美・吉田収・野津直樹『生活事例から始める 造形表現』青踏社</p> <p>【参考文献】</p> <p>槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林（2008）</p> <p>樋口一成編著『幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材』萌文書林 2018</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	幼児期の造形表現について	・造形の意義と幼児期の造形に関する発達を理解する。 I 第1章2(6)～(7)、II 第1章1～2 『学習の手引き』添付資料
2	平面表現①	・造形で多く使われる平面の素材である絵の具や描画材の性質や特性を学ぶ。 ・平面表現における素材の活用法を知り、応用する術を学ぶ。 I 第1章 1、2(4)
3	平面表現②	・平面表現から、版画を応用した表現方法を知る。 ・幼児造形における版画の活用法を学ぶ。 I 第1章 2(2)～(3)
4	立体表現①	・立体素材の代表である粘土の意義を学ぶ。 ・粘土の種類と特性を知り、活用方法を学ぶ I 第1章 3(1)
5	立体表現②	・立体素材の木や紙の特徴を知り、造形への活用法を学ぶ。 ・立体素材を扱うための道具の使用方法を学ぶ。 I 第1章 3(2)～(4)
6	表現の原理(色彩)	・造形の基礎となる表現の原理である、色彩の基礎を学ぶ。 『学習の手引き』添付資料
7	協同での表現	・造形における協同での作品制作の在り方を学ぶ。 I 第1章2(5)1、II 第2章、III
8	保育での模擬保育	・実習を行うにあたり、造形活動を念頭に置いた指導計画作成の手順を学ぶ。 II 第3章1、2
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 テキスト 科目					
ナンバリング	CCs1c354	ディプロマポリシー	DP3c		
教育の方法と技術			履修年次	1	
			単 位	2	
Educational Theory and Method			卒業要件	選択	
			授業区分	専門科目	
担当・シラバス執筆者 : 大浦 賢治		担当形態 : 単独		授業形態	演習
				授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の内容・方法に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>					
<p>【授業の概要】</p> <p>本授業科目は、幼稚園教諭免許取得のための必須科目である。大きく変化する現代社会においては、迅速かつ的確に対応できるような方法や技術を習得することが求められる。そこで本授業科目では、先ず子どもの心理的側面や幼児教育思想の流れを把握する。次に子どもを理解する上で必要な保育と幼児教育の基礎について学ぶ。さらに将来を見据えた保育や幼児教育現場での ICT の活用法、そしてさらに発達障害児や児童虐待に対する支援の仕方などについても理解を深める。</p>					
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 保育と幼児教育に関する基本事項を理解する。 ② 各種情報メディアの活用法について学ぶ。 ③ これからの社会に対応できるような保育と幼児教育のあり方について考える。</p>					
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>					
<p>【教科書】</p> <p>大浦賢治・野津直樹編著『実践につながる 新しい幼児教育の方法と技術』ミネルヴァ書房</p> <p>【参考文献】</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 小田豊・青井倫子編著『幼児教育の方法』北大路書房</p>					
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】</p> <p>なし</p>					
<p>【備考】</p>					

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	教育方法・技術に関する諸概念の理解	子どもの学びとの関係を踏まえて教育の方法や技術がなぜ必要なのかについて理解を深める。（第1章）
2	教育方法の理論と歴史	「環境指導法」を通して幼児教育の歴史と意義を理解する。（第2章）
3	教員組織と学習組織の諸形態	「造形」を例にして幼児教育を支える教師の役割や発達に即した集団での学びの意義を理解する。（第3章）
4	授業における教師の役割と指導技術①	「身体表現」を例にして授業態度や保育者の技術について学ぶ。（第4章）
5	授業における教師の役割と指導技術②	「音楽」を例にして授業態度や保育者の技術について学ぶ。（第5章）
6	授業における教師の役割と指導技術③	「言葉」を例にして授業態度や保育者の技術について学ぶ。（第6章）
7	授業における教師の役割と指導技術④	「算数」を例にして授業態度や保育者の技術について学ぶ。（第7章）
8	授業における教師の役割と指導技術⑤	「理科」を例にして授業態度や保育者の技術について学ぶ。（第8章）
9	授業の設計・実施・評価	「総合学習」から授業の目標づくりや学習指導案の作成について理解を深める。（第9章）
10	学校における ICT 環境	高度情報化社会、コンピュータの特性と学校での活用について理解する。（第10章）
11	授業実践能力の改善と向上	「外国にルーツをもつ子ども」を例として ICT の活用法について学ぶ。（第11章）
12	障害のある子どもたちの教育	発達に何らかの障害がある子どもに対する対応の仕方を学ぶ。（第12章）
13	虐待された子どもに対する対応	近年増加する児童虐待についての理解を深め、子どもに対する支援教育の方法を学ぶ。（第13章）
14	教育における評価	指導計画の立て方とその評価方法について学ぶ。（第14章）
15	「教育の方法と技術」の課題とまとめ	全体を振り返りながら「教育の方法と技術」の今後の課題について考える。（第15章）

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs2c356	ディプロマポリシー	DP2c
教育相談		履修年次	2
		単 位	1
Educational Counseling		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：杉崎 雅子		担当形態：単独	
		授業形態	講義
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の対象の理解に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>教育相談は、子どもが集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。子どもの発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につける。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 教育相談の意義と理論を理解する。</p> <p>② 教育相談をすすめる際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。</p> <p>③ 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>杉崎雅子『スギ先生と学ぶ教育相談のきほん』 萌文書林 第2版</p> <p>【参考文献】</p> <p>なし</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容 (教科書の章、参考資料など)
1	教育相談とは	教育相談の意義を考察する (第1章)
2	子ども理解	子どもの行動をどう理解するかを学ぶ (第2章)
3	保育者への支援	保護者理解と支援の視点を学ぶ (第3章)
4	カウンセリングマインド	カウンセリングマインドについて理解する (第4章)
5	カウンセリング技法	カウンセリング技法を学ぶ (第5章、第6章)
6	教育相談体制	園内の教育相談体制について理解する (第8章)
7	外部機関との連携	外部相談機関等との連携について理解する (第9章)
8	保育者のメンタルヘルス	保育者のメンタルヘルスについて学ぶ (第10章)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c158	ディプロマポリシー	DP3c
乳児保育 I		履修年次	1
		単 位	2
Infant Care I		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 竹内 あゆみ		担当形態 : 単独	
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ  【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ  保育の内容・方法に関する科目  【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】  本科目では、0歳から3歳未満児の発達を理解し、基礎知識を学ぶ。保育所保育指針を踏まえ、子どもの生活を多角的にとらえることにより、子どもの健康や安全、望ましい育ちや環境など、保育現場、育児現場などにおける保育の在り方を考える。また、保育所における乳児保育の特質を知り、3歳未満児に求められる養護と教育とは何かを学ぶ。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 乳児に親しみを持ち、保育者として望ましい態度を理解する。</li> <li>② 3歳未満児の発達と生活を理解し、基礎知識を習得する。</li> <li>③ 保育現場で生かされる具体的な保育技能に関する知識を身につける。</li> </ol>			
<p>【成績評価】  科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】  咲間まり子編著『コンパス 乳児保育』建帛社</p> <p>【参考文献】  厚生労働省「保育所保育指針解説」  社会福祉法人あすみ福祉会茶々保育園グループ編「新訂 見る・考える・創りだす 乳児保育Ⅰ・Ⅱ」萌文書林</p>			
<p>【アクティブラーニング】  「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】  「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】  なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	乳児保育とは	乳児保育を学ぶ目的・日本の乳児保育の課題
2	乳児保育の基本	日本社会における乳児保育の歴史の変遷と現代の乳児保育の社会的役割
3	乳児保育の制度と課題	多様な子育て支援政策と乳児が過ごす多様な場
4	1歳未満児の発達過程からみる保育内容	1歳未満児への望ましい支援と援助方法
5	1歳以上3歳未満児の発達過程からみる保育内容	1歳以上3歳未満児への望ましい支援と援助方法
6	基本的な生活習慣の獲得①	乳児保育における基本的な生活習慣の自立に向けた支援と援助方法（食事・排泄）
7	基本的な生活習慣の獲得②	乳児保育における基本的な生活習慣の自立に向けた支援と援助方法（睡眠・清潔・衣服の着脱）
8	乳児保育の計画と記録①	指導計画の理解と作成
9	乳児保育の計画と記録②	個別適応と環境・職員間の協働
10	乳児保育における連携	子育て支援のシステムと支援方法
11	食事の計画、提供及び評価・改善①	冷凍・冷蔵母乳と食物アレルギー
12	食事の計画、提供及び評価・改善②	保育室での配慮
13	子育てをめぐる家族の権利と責任①	児童福祉法・教育基本法からの検討・演習
14	子育てをめぐる家族の権利と責任②	児童の権利に関する条約からの検討・演習
15	「乳児保育」総括	この科目での学びの総括・実践に向けて

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs1c360	ディプロマポリシー	DP2c
特別支援教育・保育概論		履修年次	1
		単 位	1
Introduction to Special Needs Education and Child Care		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 尾野 明美		担当形態 : 単独	授業形態
			授業方法
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ          特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ          保育の内容・方法に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ          児童発達支援事業での発達相談、教育相談の実務経験を持つ教員が、特別支援教育の意義と原理、特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援のあり方を指導する。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>この授業では、特別支援教育の教育・保育の理論や制度の理解をもとに、教育・保育の展開に必要なアセスメント方法や支援計画の立案方法、教育・保育現場での実践的な支援方法を学ぶ。</p> <p>内容は、特別支援教育・保育の歴史、インクルーシブ教育・保育の理念と意義、家庭や関連機関との連携をとりあげる。特に、個々の特性や心身の発達に応じた援助や配慮につなげられるよう、障害や発達特性、日常生活での配慮や環境設定の仕方、個別支援計画の立案、複合的なニーズへの対応等を学ぶ。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達を理解する。</p> <p>② 特別の支援を必要とする子どもに対する教育課程、支援の方法を理解する。</p> <p>③ 多言語環境や貧困等、障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもの生活上の困難さ、対応の仕方を理解する。また、それらの子どもの特性及び心身の発達を理解する。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>尾野明美・小湊真衣・奥田訓子編著『特別支援教育・保育概論 -特別な配慮を要する子どもの理解と支援-』 萌文書林</p> <p>【参考文献】</p> <p>なし</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	特別支援教育・保育の歴史の変遷、障害の概念	特別支援教育・保育を支える理念や制度、またその歴史の変遷、「障害」の定義について理解する。さらに幼稚園、保育所等におけるインクルーシブ教育・保育について概観し、その現状と課題を把握する。（教科書第1章）
2	特別な支援が必要な子ども：肢体不自由・知的障害・視覚・聴覚・言語障害児の理解と支援・援助	肢体不自由・知的障害・視覚・聴覚・言語障害のある子どもの発達特性について理解し、具体的支援・援助について学ぶ。（教科書第2章①～④）
3	特別な支援が必要な子ども：重症心身障害児・医療的ケア児・病弱児の理解と支援・援助	重症心身障害児・医療的ケア児・病弱児の特性を理解し、具体的な支援・援助について学ぶ。（教科書第2章⑤、⑥）
4	特別な支援が必要な子ども：発達障害児の理解と支援・援助	注意欠如・多動性障害、限局性学習障害・自閉症スペクトラム障害などの発達障害について学びながら、発達や行動が気になる子どもの発達特性について理解し、具体的な発達支援・援助について学ぶ。（教科書第2章⑦、⑧）
5	特別な支援が必要な子ども：虐待、貧困、外国籍等で配慮が必要な幼児・児童及び生徒の理解と援助	虐待を受けている子ども、貧困や外国籍など特別な配慮が必要な子どもたちを理解し、その支援・援助について学ぶ。（教科書第2章⑨）
6	幼稚園・保育所における個別支援・個別指導計画の作成と記録及び評価	特別な支援が必要な子どものニーズのアセスメント方法やそれに合わせた個別の支援計画、個別の指導計画、個別の教育支援計画の意義、遊びや日常生活動作を促進する活動を具体的な特別支援教育・保育の実践を通して理解する。特別支援教育・保育での保育者との協働のあり方と、職員間の連携について理解する。（教科書第3章）
7	特別な支援を必要とする幼児・児童及び生徒に対する教育課程や支援方法	教育課程での遜級による指導や自立活動の位置づけ、「個別の指導計画」および「個別の教育支援計画」の立案、特別支援教育コーディネーターの役割を理解する。（教科書第4章）
8	家庭及び関係機関との連携・特別な支援が必要な子どもの教育・保育にかかわる現状と課題	特別な支援が必要な子どもとその家族の課題、および早期療育の意義と内容について学ぶ。地域における特別支援教育・保育の専門機関とサービス、連携について理解し、子どもの生涯を見据えた一貫した支援・援助の在り方について学ぶ。（教科書第5・6章）
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs3n264	ディプロマポリシー	DP2c
児童文学		履修年次	専攻科
		単 位	2
Children's Literature		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：赤羽 尚美		担当形態：単独	
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ  【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ  【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】  日本児童文学の代表作を読みながら、児童文学の歴史と特質について知り、保育者として必要な読解力と文学的感性を磨きます。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 日本児童文学についての知識を身につける。</li> <li>② 代表的な作品を通して、子どもの世界を共感的に理解する。</li> <li>③ 保育者として必要な読解力と文学的感性を磨く。</li> </ol>			
<p>【成績評価】  科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】  桑原三郎・千葉俊二編『日本児童文学名作集（下）』（岩波書店）の作品中、「一房の葡萄」「オツベルと象」「鷹の巣とり」「がきのめし」「月の輪グマ」の5編</p> <p>【参考文献】  河合隼雄『子どもの宇宙』岩波書店</p>			
<p>【アクティブラーニング】  「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】  「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】  なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	一房の葡萄①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通読し、内容のあらましを捉える。</li> <li>・51ページ1行目から54ページ7行目を文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>
2	一房の葡萄②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・54ページ8行目～57ページ10行目を文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>
3	一房の葡萄③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・57ページ11行目～61ページ最後までを文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>
4	オツベルと象①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通読し、内容のあらましを捉える。</li> <li>・第一日曜を文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>
5	オツベルと象②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二日曜を文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>
6	オツベルと象③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第五日曜を文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>
7	鷹の巣とり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通読し、内容のあらましを捉える。</li> <li>・189ページ1行目～190ページ12行目を文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>
8	鷹の巣とり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・190ページ13行目～192ページ11行目を文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>
9	鷹の巣とり③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・192ページ12行目～194ページ最後までを文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>
10	がきのめし①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通読し、内容のあらましを捉える。</li> <li>・231ページ～234ページ最後までを文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>
11	がきのめし②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・235ページ～241ページ3行目を文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>
12	がきのめし③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・241ページ4行目～246ページ最後までを文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>
13	月の輪グマ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通読し、内容のあらましを捉える。</li> <li>・1章（249～252ページ）を文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>
14	月の輪グマ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2章～3章（252～256ページ）を文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>
15	月の輪グマ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4章（257～262ページ）を文脈に沿って詳しく読む。</li> </ul>

通信教育課程 テキスト 科目				
ナンバリング	CCs3n265	ディプロマポリシー	DP2c	
児童文化		履修年次	専攻科	
		単 位	2	
Children's Culture		卒業要件	選択	
		授業区分	専門科目	
担当講師：炭 美智子		担当形態：単独	授業形態	講義
			授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>				
<p>【授業の概要】</p> <p>「児童文化」は、子どもの健全な心身の発達に深い関わりをもち、日本独自のもので独自の歴史をたどってきたといわれています。子どもが主体的にかかわり、子ども社会の中で伝えられ作り出される文化でもあります。「児童文化」に触れ学ぶことは、実際に子どもと関わる保育者として、とても大切なことでもあります。具体的に「児童文化財」から、子どもにとっての遊びとは何なのか、遊びの意味、遊びで育つものは何かを学びます。パネルシアターやペープサートの制作も行い実践繋がります。</p>				
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 児童文化とは何かを理解するために、その歴史や内容について学ぶ。</p> <p>② 児童文化伝承に果たしてきた子どもの役割を知る。</p> <p>③ 児童文化財について学び、保育の展開に役立つものを学ぶ。</p> <p>子どもの心を豊かに育むための保育実践に役立つ「パネルシアター」や「ペープサート」の作製をし実践できるようにする。</p>				
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>				
<p>【教科書】</p> <p>小川清実編著『演習 児童文化』 萌文書林</p> <p>【参考文献】</p> <p>「乳児の絵本・保育課題絵本ガイド」福岡貞子・磯沢享子編著／ミネルヴァ書房</p> <p>「アレンジたっぷりパネルシアター」阿部恵著／ひかりのくに</p> <p>「アレンジたっぷりペープサート」阿部恵著／ひかりのくに</p> <p>「親子で楽しむおりがみ」朝日勇著／バッチワーク通信社</p>				
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】</p> <p>なし</p>				
<p>【備考】</p>				

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	児童文化とは	児童文化の歴史や考え方について学び、児童文化財とは何かを学ぶ。 (教科書 P 8～18)
2	子どもにとっての遊び	遊びとは何か、遊びで育つもの、遊びの伝承性について学び、遊びの伝承者としての保育者の役割について学ぶ。(教科書 P 19～27)
3	子どもの遊びの変化	歴史の上に子どもの遊びがどのように刻まれてきたのか、時代を超えてつながっていく遊びの意味を探る。(教科書 P 28～38)
4	保育における児童文化	保育の歴史と児童文化・児童文化財の定義、保育の歴史に見る児童文化を学ぶ。(教科書 P 39～49)
5	子どもの発達と児童文化財	集団保育における児童文化・児童文化財の活用について学ぶ。 (教科書 P 50～56)
6	保育への展開① 「おはなし」	保育環境としての児童文化財：「おはなし」について学ぶ。 (教科書 P 58～67)
7	保育への展開② 「絵本」	「絵本」についての理解を深め、年齢に合った絵本等を知る。 読み聞かせの方法も学ぶ。(教科書 P 68～77)
8	保育への展開③ 「紙芝居」	「紙芝居」の特徴について理解を深め、その仕組みについても学ぶ。保育の展開において「紙芝居」と「絵本」の使い分けを知る。 (教科書 P 78～89)
9	保育への展開④ 「パネルシアター」	「パネルシアター」について学び、理解を深める。「パネルシアター」の絵人形の作り方を学び、実際に作製する。(教科書 P 90～97)
10	保育への展開⑤ 「ペープサート」	「ペープサート」について学び、理解を深める。「ペープサート」の作り方を学び、実際に作製する。(教科書 P 98～107)
11	保育への展開⑥ 「エプロンシアター」	「エプロンシアター」の基本的特徴について学び、理解を深める。 「エプロンシアター」の舞台の種類と作り方を学ぶ。 (教科書 P 108～116)
12	保育への展開⑦ 「人形遊び」	人形劇の人形である「パペット」について学び、理解を深める。 さまざまな「パペット」の種類を知る。(教科書 P 117～123)
13	保育への展開⑧ 「劇遊び」	「劇遊び」について学び理解を深める。劇遊びに適したお話や絵本を探す。(教科書 P 124～133)
14	玩具・遊具について学ぶ	保育の中での玩具と遊具の活用について学び、理解を深める。 年齢や成長発達に適した玩具を知る。(教科書 P 134～153)
15	伝承遊びについて学ぶ	伝承遊びについて学び、理解を深める。伝承遊びの種類を知り、保育の中で活用できるようにする。(教科書 P 154～166)

通信教育課程 テキスト 科目			
ナンバリング	CCs3n266	ディプロマポリシー	DP2c
ボランティア活動		履修年次	専攻科
		単 位	2
Volunteer Activity		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：吉田 真理		担当形態：単独	授業形態
			演習
		授業方法	テキスト
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ  【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ  【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>①ボランティア活動を支える理念について学ぶ。  ②ボランティア活動の公共性について理解する。  ③ボランティア活動が生み出す価値について考察する。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① ボランティアの歴史的な背景について学び、社会を変えていく活動であることを理解する。  ② ボランティア活動が与える心理的影響について考察する。  ③ 保育現場や社会福祉施設でボランティア体験をし、エピソード記録を書いてみる。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>科目修得試験により評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>岡元榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子編『学生のためのボランティア論』社会福祉法人大阪ボランティア協会</p> <p>【参考文献】</p> <p>幸重忠孝・村井琢磨『まちの子どもソーシャルワーク』かもがわ出版  吉田真理『住民参加ってどんなこと?』新風舎</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>「学習の手引き」における「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	ボランティア活動とは	ボランティアとは何であるかを学ぶ。
2	公共活動とは	公共活動とは行政だけが担うものではないことを理解する。
3	公共の担い手	ボランティア活動の弱点について理解する。
4	ボランティアマネジメント	ボランティアマネジメントの必要性について理解する。
5	実践 1—①	ボランティア活動（保育現場）を行う。
6	実践 1—②	ボランティア活動で保育現場のエピソードを記録する。
7	実践 2—①	ボランティア活動（保育現場）を行う。
8	実践 2—②	ボランティア活動で保育現場のエピソードを記録する。
9	実践 3—①	ボランティア活動（保育現場）を行う。
10	実践 3—②	ボランティア活動で保育現場のエピソードを記録する。
11	実践 4—①	ボランティア活動（保育現場）を行う。
12	実践 4—②	ボランティア活動で保育現場のエピソードを記録する。
13	実践 5—①	ボランティア活動（保育現場）を行う。
14	実践 5—②	ボランティア活動で保育現場のエピソードを記録する。
15	振り返り	ボランティアの意義について活動をもとに振り返る。





2

## 対面スクーリング科目

通信教育課程 スクーリング（対面） 科目			
ナンバリング	CCg1c313	ディプロマポリシー	DP1c
健康・スポーツ実技		履修年次	1
		単 位	1
Health and Sports Actual Technique		卒業要件	必修
		授業区分	教養科目
担当・シラバス執筆者：木戸 直美		担当形態：単独	
		授業方法	スクーリング（対面）
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 体育			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 教養科目			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】 本授業では、スポーツ実践を通して、自らの体力を維持・増進させることを目指す。これまでに学習してきた健康や運動に関する基本的な知識や、スポーツ種目の基本技能の向上を目指し、実生活に役立つスポーツの実践、さらに生涯スポーツへと方向づけることを目的とする。また、全国で様々な施設、環境において実施されるため、競技やルールを調整し「いつでもどこでもできるスポーツ」を実践する形での授業展開をしていく。			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① スポーツを通して、体力の維持・増進を図る。 ② 自らの身体の特徴を理解する。 ③ 自らが楽しんで取り組めるスポーツを見出す。 ④ スポーツを通じてコミュニケーションを図る。			
【成績評価】 授業内で実施する試験（35%）・レポート（35%）・授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。			
【教科書】 ルール等、必要に応じて随時資料配布。			
【参考文献】 『イラストでみる最新スポーツルール 2020』大修館書店			
【アクティブラーニング】 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。			
【事前事後学習】 自身の身体に関心を持ち、健康管理・体力の維持増進に努めること。 健康やスポーツに関するメガイメントに関するニュースに関心を持つこと。			
【ICTの活用】 スマートフォンを活用したカロリー計算、歩数計測、及び情報共有等			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	ガイダンス	授業の概要説明。スポーツの「みる」「する」「支える」の視点から授業に取る姿勢を考える。
2	新体力テスト	自己の体力を把握することにより、体力について考える。
3	ストレッチング	個人や複数でのストレッチングを行う。
4	補強運動	主に自体重を利用したレジスタンストレーニングを行う。
5	有酸素運動①	目標心拍数の設定によるウォーキング及びジョギングを行う。
6	有酸素運動②	自身の身体とコミュニケーションをとりながら、のウォーキング及びジョギングを行う。
7	球技ゴール型①	球技（フットサル、バスケットボール等）の基本技術（パス・ドリブル・シュート等）の習得。
8	球技ゴール型②	球技（フットサル、バスケットボール等）のゲーム実践（戦術・フォーメーション等）。
9	球技ネット型①	バレーボール等の基本技術（パス・レシーブ・サーブ）の習得。
10	球技ネット型②	バレーボール等のゲーム実践（戦術・フォーメーション）。
11	ラケットスポーツ①	ラケットスポーツ（バドミントン、卓球等）の基本技術の習得（ストローク・サーブ）。
12	ラケットスポーツ②	ラケットスポーツ（バドミントン、卓球等）のゲーム実践（戦術・フォーメーション）。
13	レクリエーション①	ニュースポーツ（ソフトバレーボール、インディアカ等）の体験①
14	レクリエーション②	ニュースポーツ（ソフトバレーボール、インディアカ等）の体験②
15	総括	これまでの学習と今後の課題。

通信教育課程 スクーリング（対面） 科目			
ナンバリング	CCs1c126	ディプロマポリシー	DP2c
音楽表現Ⅰ		履修年次	1
		単 位	1
Music Expression I		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・分担講師： 澤田 優子		担当形態：単独	
		授業方法	スクーリング（対面）
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ			
保育の内容・方法に関する科目			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】			
<p>保育内容を理解し、音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を、また身近な音や音楽に親しむ経験を通して保育環境の構成を、さらに子どもの経験と音楽表現とを関連づける遊びの展開を習得する。具体的には音楽基礎理論、声楽や鍵盤楽器や打楽器基礎の技能や知識、子どもの歌や声、身体、楽器を用いた音楽遊び、以上について子どもの発達を踏まえながら実践的に取り組み、音楽環境や音楽遊びについての基礎を学ぶ。</p>			
【授業の到達目標 及び テーマ】			
<p>① 保育現場での子どもの遊びを豊かに展開するために、子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術を習得する。</p> <p>② 人の声や楽器等に親しむ経験を通して、子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うための音や音楽の環境構成を習得する。</p> <p>③ 音楽素材や教材等の特性の理解やその作成及び活用を通して、子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開方法の基礎を学ぶ。</p>			
【成績評価】			
授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70％）および授業態度と参加の積極性（30％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。			
【教科書】			
今泉明美・有村さやか編著『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 -感性と実践力豊かな保育者へ-』 萌文書林			
有村さやか・今泉明美・望月たけ美他『保育のためのやさしい子どもの歌―弾き歌い・合奏・連弾・合唱』 ミネルヴァ書房			
【参考文献】			
島田和昭 他『うたってひいて童謡びっごりの』 共同音楽出版社			
高倉秋子 他『こどもといっしょにたのしく打楽器』 共同音楽出版社			
米山文明『声と日本人』 平凡社			
【アクティブラーニング】			
開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。			
【事前事後学習】			
3日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと			
【ICTの活用】			
なし			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	音楽Ⅰのガイダンス	授業ガイダンス・子どもの音楽的表現とクラスでの活動、幼稚園教育要領・保育所保育指針「領域」表現との関連性
2	音楽の基礎知識①	譜表と音名、小節と楽曲形式の各理解（五線・ト音記号・ヘ音記号・楽譜の見方・ドレミの始まり・幹音、派生音の音名、小節線と小節、複雑線、演奏順序、身近な曲の形式）
3	音楽の基礎知識②	拍と拍子、音符と休符、奏法を表す記号と音楽表現を表す楽語の各理解（各拍子の特性、強拍と弱拍、弱起の曲音符や休符の種類、リズム） 確認テスト①と前半の内容のまとめ
4	音楽の基礎知識③	音程と音階、音階の理解の理解（音程の種類、全音・半音、短音階、調号、調性）
5	音楽の基礎知識④	和音、コードネームの各理解（種類とコードネーム、主要三和音、コード付け）音楽の基礎知識：確認テスト②とまとめ
6	声楽①	歌唱活動の意義・保育者のモデル唱・呼吸法・発声の仕組み 季節の歌・楽しい歌の歌唱
7	声楽②様々な声の表現	季節の歌・楽しい歌の歌唱 ボイスパーカッションアンサンブルやボイスアンサンブル等様々な声を用いた表現実践・創作（楽譜集第2部）
8	声楽③	季節の歌・楽しい歌の歌唱・子どもの声の発達と支援の仕方
9	声楽④	季節の歌・楽しい歌の歌唱・子どもの歌唱への支援方法（導入教材）
10	声楽⑤	季節の歌・楽しい歌の歌唱・歌唱の導入教材の実践、歌唱実技試験
11	器楽①	幼児が親しみやすい楽器とその種類 簡易打楽器の特徴と奏法・リズム演習（カステネット・タンブリン等）
12	器楽②	簡易打楽器の特徴と奏法・リズム演習（鈴・トライアングル等）
13	器楽③	簡易打楽器を用いたリズム遊び①
14	器楽④	簡易打楽器を用いたリズム遊び②
15	器楽⑤	簡易打楽器を用いた実技試験

通信教育課程 スクーリング (対面) 科目			
ナンバリング	CCs1c127	ディプロマポリシー	DP2c
音楽表現Ⅱ		履修年次	1
		単 位	1
Music Expression II		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・分担講師： 澤田 優子		担当形態：単独	
		授業形態	演習
		授業方法	スクーリング (対面)
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】 ※該当科目のみ			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】 ※該当科目のみ			
保育の内容・方法に関する科目			
【実務経験との関連性】 ※実務家教員のみ			
【授業の概要】			
この科目は音楽表現Ⅰに引き続き、保育士資格取得における保育の内容の理解と方法に関する科目である。保育内容を理解し、保育現場や児童館での子どもの音楽の表現遊びを豊かに展開するために必要な基本的知識と技術、保育環境の構成、活動の展開を習得する。ここでは特に打楽器や鍵盤打楽器の特徴や奏法を学び保育者としての表現力を培うと共に、子どもとの楽器活動をする上での環境構成や楽器の指導・支援方法について学ぶ。			
【授業の到達目標 及び テーマ】			
① 保育現場で扱う打楽器の発音の仕組みや基本奏法の理解を深め、各楽器の特性を活かした効果的な演奏法や活用法を学ぶと共に表現の楽しさを体験しながら保育者としての表現力を培う。			
② 器楽合奏やアンサンブルの経験を通して、子どもの日頃の遊びを豊かにし、子どもの感性を養うための音や音楽の環境構成を知り、楽器活動の指導・支援方法を習得する。			
【成績評価】			
授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。			
【教科書】			
今泉明美・有村さやか編著『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 -感性と実践力豊かな保育者へ-』 萌文書林			
有村さやか・今泉明美・望月たけ美他 『保育のためのやさしい子どもの歌—弾き歌い・合奏・連弾・合唱』 ミネルヴァ書房			
【参考文献】			
細田淳子『こどもといっしょにたのしく打楽器』 共同音楽出版社			
細田淳子『わくわく音遊びで簡単発表会』 すずき出版			
文部科学省『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館			
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館			
厚生労働省『保育所保育指針解説書』 フレーベル館			
【アクティブラーニング】			
開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。			
【事前事後学習】			
2日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと			
【ICTの活用】			
なし			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	音板打楽器の知識と奏法	音板打楽器の発音の仕組みと奏法について（教科書：Part 1） 音板打楽器の基本奏法とアンサンブル演奏（教科書：Part 1）
2	音板打楽器演奏 音楽的発達と器楽指導	音板打楽器アンサンブルの演奏試験（教科書：Part 1） ミュージックベルの基本奏法とアンサンブル演奏（参考文献：こどもといっしょにたのしく打楽器） ・ミュージックベルを用いた乳幼児の音楽遊び
3	簡易打楽器の特徴と奏法 簡易打楽器の合奏	簡易打楽器による合奏・各楽器の特徴や奏法を基にした合奏曲・合奏の理解（楽譜集第2部）
4	簡易打楽器演奏 簡易打楽器の合奏指導	乳幼児の音楽的発達と器楽の導入・指導について（教科書：Part 2） 年齢別合奏曲演奏（楽譜集第2部）
5	音楽的表現遊びの計画	幼児の音楽的表現遊びの計画について ・音楽的表現遊びの指導計画の立案とその考え方（教科書：Part 2）
6	音楽的表現遊びの立案	楽器を用いた音楽的表現遊びを立案する（3, 4, 5 歳児向け） ・子どもの発達と音楽的要素について（教科書：Part 2） ・遊びで使用する曲の弾き歌い練習
7	音楽的表現遊びの実践①	音楽的表現遊びの実践と相互評価（教科書：Part 2） ・遊びで使用する曲の弾き歌い 確認試験 ・実践者と子ども役に分かれての音楽的表現遊びの実践と振り返り
8	音楽的表現遊びの実践②	音楽的表現遊びの実践と相互評価（教科書：Part 2） ・遊びで使用する曲の弾き歌い 確認試験 ・実践者と子ども役に分かれての音楽的表現遊びの実践と振り返り
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング（対面） 科目			
ナンバリング	CCs1c128	ディプロマポリシー	DP2c
造形表現 I		履修年次	1
		単 位	1
Art Expression I		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：石黒 芙美代		担当形態：単独	授業形態
			演習
		授業方法	スクーリング（対面）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の内容・方法に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>保育者・教育者として子どもの造形表現を豊かに展開する力を育むことを目的とする。まず、造形表現に関する基礎的な知識と技術の紹介とともに、様々な道具や素材を実際に扱うことで、実感を持ってそれらを理解する。ここでは特に、水彩絵の具やクレヨン、紙などに着目し、平面表現の可能性の幅を広げ、保育現場での活用法を学ぶ。さらに、事例紹介や部分実習指導案の作成などを通して、保育現場・教育現場を想定した環境構成や造形活動に関する保育技術を学ぶ。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 造形表現に関する基礎的な知識や技術を習得すること。</p> <p>② 保育現場・教育現場を想定した環境構成や造形表現活動を提案できること。</p> <p>③ 保育・教育における子どもの造形活動について、その意義や可能性などについて基本的な考えを持つこと。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>吉田収、宮川萬寿美編著『生活事例から始める 造形表現』青踏社</p> <p>【参考文献】</p> <p>なし</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>3日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと。</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	オリエンテーション	授業内容の確認、保育所保育指針から造形表現の概要を理解する。
2	平面表現①(フロッターージュ等)	身近なものの形や手触りなどを体感する。子どもに対する支援の要点や保育・教育現場での活用法を学ぶ。
3	平面表現②(ドリップング等)	絵具を使った様々な表現技法を習得する。子どもに対する支援の要点や保育・教育現場での活用法を学ぶ。
4	平面表現③(遠近法等)	空気遠近法や一点透視図法から奥行き表現を理解する。保育・教育現場での活用法を学ぶ。
5	立体表現①(紙の造形等)	紙を用いた造形活動を考案する。子どもに対する支援の要点や保育・教育現場での活用法を学ぶ。
6	平面表現④(道具と形の基礎等)	はさみやのりで紙を加工し、道具と形の基礎知識を理解する。子どもに対する支援の要点や保育・教育現場での活用法を学ぶ。
7	平面表現⑤(壁面構成等)	絵具を使った様々な表現技法の中で制作した色紙を用いてコラージュを習得する。保育・教育現場での活用法を学ぶ。
8	平面表現⑥(絵の構成要素等)	切り紙の制作を行いながら絵の構成要素を理解する。
9	平面表現⑦(挿絵等)	民話の挿絵制作を通して絵の構成要素について理解を深める。保育・教育現場での活用法を学ぶ。
10	立体表現②(仮面制作等)	仮面制作を通して、演じる・遊ぶことの面白さを体感し、子どもに対する支援の要点や保育・教育現場での活用法を学ぶ。
11	平面表現⑧(導入としての絵本等)	保育・教育現場での造形活動を意識した絵画制作を学ぶ。
12	平面表現⑨(絵本の続きを描く等)	絵本の芸術的側面を感じ、保育・教育現場での活用法を学ぶ。
13	子どもの造形表現①(描画の発達段階)	描画の発達段階に関する知見を得て、子どもに対する支援の要点や保育・教育現場での活用法を学ぶ。
14	子どもの造形表現②(事例紹介)	造形活動の様々な事例をもとに考察を行う。
15	部分実習指導案の作成	保育現場・教育現場を想定した環境構成や造形活動の提案と、造形表現の意義や可能性などについて考えをまとめる。

通信教育課程 スクーリング（対面） 科目			
ナンバリング	CCs1c129	ディプロマポリシー	DP2c
造形表現Ⅱ		履修年次	1
		単 位	1
Art Expression II		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：石黒 英美代		担当形態：単独	
		授業形態	演習
		授業方法	スクーリング（対面）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ  【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ  保育の内容・方法に関する科目  【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】  造形表現Ⅰを基に、造形表現に対する理解を深め、保育者・教育者として子どもの造形表現を育む力を身につけることが目的である。まず、造形表現に関する知識と技術の紹介とともに、様々な道具や素材を実際に扱うことで、実感を持ってそれらを理解する。ここでは特に、立体作品に用いる素材に着目し、立体表現の可能性の幅を広げ、保育現場への活用法を学ぶ。さらに、事例紹介や教材研究などを通して、保育現場・教育現場を想定した環境構成や造形活動に関する保育技術を学ぶ。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 造形表現に関する知識や技術を習得すること。</li> <li>② 保育現場・教育現場を想定した環境構成や造形活動を考え、具現化できること。</li> <li>③ 保育・教育における子どもの造形活動について、その意義や目的、可能性などについて考えを深めること。</li> </ol>			
<p>【成績評価】  授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。</p>			
<p>【教科書】  吉田収、宮川萬寿美編著『生活事例からはじめる 造形表現』青踏社</p> <p>【参考文献】  なし</p>			
<p>【アクティブラーニング】  開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。</p> <p>【事前事後学習】  2日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと。</p> <p>【ICTの活用】  なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	オリエンテーション	授業内容の確忍と幼稚園教育要領から造形表現の概要を理解する。
2	生活と造形の関わり	豊かな感性やイメージを育む生活をテーマに学ぶ。
3	立体表現①	制作や造形遊びを通して、木などの立体作品に用いる 素材と道具の使用方法を学ぶ。子どもに対する支援の要点や保育・教育現場での活用法を学ぶ。
4	立体表現②	制作や造形遊びを通して、土などの立体作品に用いる 素材と道具の使用方法を学ぶ。子どもに対する支援の要点や保育・教育現場での活用法を学ぶ。
5	立体表現③	飛び出すカードなどを制作して凹凸の表現を理解する。保育・教育現場での活用法を学ぶ。
6	形の基本	身の回りの自然や人工物、美術作品をもとに形態について学び、形に気づく手立てなど、保育・教育現場での活用法を考える。
7	教材研究	保育所もしくは幼稚園での造形活動を想定して、教材を作成する。子どもに対する支援の要点を学ぶ。
8	まとめ	これまで学んだ理論や実践をもとにして、造形表現について考えを深める。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング（対面） 科目			
ナンバリング	CCs1c130	ディプロマポリシー	DP2c
身体表現 I		履修年次	1
		単 位	1
Physical Education of Infant I		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 佐藤 みどり		担当形態 : 単独	授業形態
			演習
		授業方法	スクーリング（対面）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の内容・方法に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>本授業では、子どもの運動能力や体力の基礎となる力を養うために必要な運動遊びの基本について学習する。自らのからだを素材とする表現遊び、各種遊具を使った運動遊び等を楽しみ実践するための指導法、運動遊びにおける安全管理や環境設定などについても学ぶ。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 表現遊び・運動遊びを楽しみ実践する技能と指導法を身につける。</p> <p>② 子どもの発育・発達に応じた表現遊び・運動遊びの展開方法について理解する。</p> <p>③ 表現遊び・運動遊びの援助法や安全管理（環境、遊具等）の基本について理解する。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>プリント配布</p> <p>【参考文献】</p> <p>岩崎洋子編・吉田伊津美・朴淳香・鈴木康弘著『保育と幼児期の運動遊び』萌文書林</p> <p>前橋明著『0～5歳児の運動あそび指導百科』ひかりのくに</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>3日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	オリエンテーション	授業の内容及び進め方について
2	幼児の身体表現について	幼児の身体表現や運動遊びの内容と指導・援助について
3	からだで遊ぶ 1	からだづくり、動きづくり
4	からだで遊ぶ 2	模倣遊び、リズム遊び
5	からだで遊ぶ 3	表現運動遊びの基本
6	からだで遊ぶ 4	表現運動遊びの応用・発展
7	からだで遊ぶ 5	鬼ごっこ、伝承遊び
8	遊具を使った遊び 1	大型遊具（マット等）を用いた遊びの指導・援助法
9	遊具を使った遊び 2	大型遊具（幼児用平均台等）を用いた遊びの指導・援助法
10	遊具を使った遊び 3	小型遊具（ポール、ロープ、フープ等）を用いた遊びの指導・援助法
11	遊具を使った遊び 4	身近な物（新聞紙、布、風船等）を用いた遊びの指導・援助法
12	運動遊び指導の実践 1	運動遊びの指導案の作成
13	運動遊び指導の実践 2	指導案に基づく実践と検討
14	運動遊び指導の実践 3	運動遊びの発表（模擬保育）、評価
15	まとめ	本授業の目標・テーマに基づいて点検し、まとめる

通信教育課程 スクーリング（対面） 科目			
ナンバリング	CCs1c131	ディプロマポリシー	DP2c
身体表現Ⅱ		履修年次	1
		単 位	1
Physical Education of Infant Ⅱ		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：佐藤 みどり	担当形態：単独	授業形態	演習
		授業方法	スクーリング（対面）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の内容・方法に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>本授業は、身体表現Ⅰで習得した知識や技術をもとに、自己表現の方法や1年間の行事なども考慮した表現遊び・運動遊びについて学習する。また、様々な運動遊びの特性を理解するとともに発育発達に応じた効果的な指導法や展開法について学ぶ。さらに、安全管理や環境設定に必要な知識の修得をも図る。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 子どもの発育・発達に応じた運動技能を系統的・段階的に理解する。</li> <li>② 子どもの発育・発達に応じた表現・運動遊びの展開方法を構築する。</li> <li>③ 表現・運動遊びの援助方法や安全管理（環境、遊具等）の基本について理解する。</li> </ol>			
<p>【成績評価】</p> <p>授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>プリント配布</p> <p>【参考文献】</p> <p>岩崎洋子編・吉田伊津美・朴淳香・鈴木康弘著『保育と幼児期の運動遊び』 萌文書林 前橋明著『0～5歳児の運動あそび指導百科』ひかりのくに</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>2日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容 (教科書の章、参考資料など)
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	遊具を用いない運動遊び 1	各種ゲームの内容と指導・援助法
3	遊具を用いない運動遊び 2	表現運動遊びの内容と指導・援助法
4	遊具を用いた運動遊び 1	遊具を用いた運動遊びの内容と指導・援助法
5	遊具を用いた運動遊び 2	サーキット遊びの内容と指導・援助法
6	運動会 (発表会)	運動会 (発表会) の企画と立案、実施～評価
7	教材研究	教材の作成～探求
8	まとめ	指導案の作成と実施
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング（対面） 科目			
ナンバリング	CCs1c132	ディプロマポリシー	DP2c
言語表現		履修年次	1
		単 位	1
Expression in Japanese		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：清家 弘子		担当形態：単独	授業形態
			演習
		授業方法	スクーリング（対面）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の内容・方法に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>おはなし、紙芝居、絵本、パネルシアター、ペープサート、人形劇など、子どもの言語発達に関わる児童文化財の特性や扱い方を学ぶとともに、集団を前にしての実践と相互批評を通して、保育者として現場で活かせる技能（特に「おはなし」は必ず自分のレパートリーを持つ）と心を身につけるようにする。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① おはなし、紙芝居、絵本、パネルシアター、ペープサート、人形劇に関する基礎的知識を習得する。</p> <p>② 子どもの言語表現を豊かに展開する効果的な技能を身につける。</p> <p>③ 児童文化財活用の意義を理解し、保育者としての生き方や考え方を深める。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>①授業中の取り組み（ワークシート 30%） ②授業内テスト（筆記テスト 1 回 20%、実技テスト 1 回 20%） ③レポート課題（1 回 30%）を基本的配分とする総合評価</p>			
<p>【教科書】</p> <p>馬見塚昭久『保育実践に生きる「言語表現」児童文化財活用のエッセンス』萌文書林</p> <p>【参考文献】</p> <p>『おはなしのろうそく 1 巻～32 巻』東京子ども図書館</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>実技・実践を多く取り入れ、グループワークを中心にディスカッションの場を多く設ける。</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>3 日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと</p> <p>【ICT の活用】</p> <p>なし</p>			
<p>【備考】</p>			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	「言語表現」とは	第1章「言語表現とは」実践の役割分担等についての話し合い
2	児童文化財とは	第2章 児童文化財とは
3	おはなし①	第3章第1節 おはなしとは
4	おはなし②	第3章第2節 おはなしの実際
5	絵本①	第4章第1節 絵本とは、「おはなし」の実践と相互批評
6	絵本②	第4章第2節 読み聞かせの実際、「おはなし」の実践と相互批評
7	絵本③	第4章第3節 子どもと絵本、「おはなし」の実践と相互批評
8	紙芝居①	第5章第1節 紙芝居とは、「おはなし」の実践と相互批評
9	紙芝居②	第5章第2節 紙芝居の実際、「おはなし」の実践と相互批評
10	パネルシアター①	第6章第1節 パネルシアターとは、「おはなし」の実践と相互批評
11	パネルシアター②	第6章第2節 パネルシアターの実際、「おはなし」の実践と相互批評
12	ペープサート①	第7章第1節 ペープサートとは、「おはなし」の実践と相互批評
13	ペープサート②	第7章第2節 ペープサートの実際、「おはなし」の実践と相互批評
14	人形劇①	第8章第1節 人形劇とは、模擬保育形式の実践と相互批評
15	人形劇②	第8章第2節 人形劇の実際、模擬保育形式の実践と相互批評

通信教育課程 スクーリング（対面） 科目			
ナンバリング	CCs2c357	ディプロマポリシー	DP2c
保育・教職実践演習（幼稚園）		履修年次	2
		単 位	2
Practical Training of Nursery-School Teaching		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：山本 陽子	担当形態：単独	授業形態	演習
		授業方法	スクーリング（対面）
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 教職実践演習			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 総合演習			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】 ・教育職・保育職の専門性について理解を深める ・履修カルテを用いて、学びの自己評価をし、学習内容の共通性や独自性を考え、保育内容の全体的な構造と科目横断的な理解を深める ・保育における具体的な事例の検討および幼児教育施設の実情にふれ、幼児理解に基づき保育を構想し教材研究等、を通じて保育の実践力の育成をする ・模擬保育を通して、子ども理解に基づいた指導案作成や保育の振り返りなどを行い、再構成していく力を養う。 ・教育現場の専門家や保護者のおかれた実情・実態に触れ、求められる支援に関して理解する			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ・面接 15 回の授業構成である ① 幼稚園教諭、保育士としての専門性について理解する ② 保育者として求められる使命感、責任感、社会性、対人関係能力、学級経営についての自己評価し、今後の自己課題を設定する ③ 指導案作成、教材研究を含めた模擬保育を行う中で、保育内容についての実践的な指導力を育む			
【成績評価】 授業で実施する課題などの結果（50%）および授業態度と演習への参加の積極性（50%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。			
【教科書】 ① 野津直樹・宮川萬寿美編著『保育・教職実践演習：実践力のある保育者を目指して』 萌文書林 ② 吉田眞理著『保育する力』初版 ミネルヴァ書房 学習内容に即して、①②のどちらかを用いたり、併用するなど、各授業で工夫する事			
【参考文献】 文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社			
【アクティブラーニング】 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、グループワーク、プレゼンテーション、模擬保育などを取り入れる。			
【事前事後学習】 3 日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと			
【ICT の活用】 なし			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	授業の目的・授業計画	保育教職実践演習の目的と演習についての説明
2	保育者とは（１）	教科書①第1章1節 自己評価 2節 履修カルテ 教科書②第1章1節 協働して保育を編む
3	保育者とは（２）	教科書①第1章3節 保育者として求められる資質と能力 4節 保育者のあり様 5節 保育者としての社会性、対人関係能力
4	これから育てたい子どもの姿	教科書①第2章1節 保育の実際、保育の質 2節 育てたい子どもの姿 教科書②第1章3節 職業として保育を紡ぐ 第4章2節 ティーチーズトレーニングの実際
5	保育の計画	教科書①第2章3節 保育の基本と計画・評価 4節 ラーニングストーリー 教科書②第1章1節 保育の全体的な計画 2節 保育の記録
6	保育の記録の方法	教科書①第2章5節 子どもと遊び、保育マップの活用 6節 保育をデザインする・共有する 第4章4節 ドキュメンテーションの実際
7	子育て支援	教科書①第3章 家庭と子育て支援 教科書②第2章5節 個別性への配慮 6節 保護者への対応 第3章2節 地域の子育てを支える
8	保育の現代的課題	教科書①第4章1節 チーム保育 2節 保育を語る、対話することの重要性 3節 ICT化 教科書②第1章2節 チーム保育 第4章1節チーム保育の実際
9	保育の教材研究	保育教材とは何かを考え、教材を作成する 教科書②第2章1節 子どもの発達に応じた玩具
10	模擬保育① 指導案の作成	教科書①第2章3節 保育の計画と評価 第5章1節 模擬保育に主体的に取り組む 教科書②第2章2節 月齢ごとの保育 3節 季節の行事
11	模擬保育② 模擬保育実施	教科書①第5章2節 模擬保育インユアルーム
12	模擬保育③ 模擬保育の実施と確認	教科書①第5章3節 指導計画の打ち合わせの先行体験
13	模擬保育④ 模擬保育の省察	教科書①第2章3節（４） 保育の改善と評価 第3章5節 子どもと遊び、保育マップの活用 6節 保育をデザインする・共有する
14	目指す保育者像	保育現場の実情について現職者の話を聞く（レポート作成）
15	目指す保育者像	教科書①第6章 これからの保育者（履修カルテで学習振り返り） 教科書②第4章3節 橋を渡すプログラム

通信教育課程 スクーリング（対面） 科目					
ナンバリング	CCs2c267	ディプロマポリシー	DP3c		
教育実習指導			履修年次	2	
			単 位	1	
Kindergarten Practice Teaching			卒業要件	選択	
			授業区分	専門科目	
担当・シラバス執筆者：山本 陽子		担当形態：単独		授業形態	演習
				授業方法	スクーリング（対面）
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 教育実習					
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ					
【実務経験との関連性】※実務教員のみ					
【授業の概要】 幼稚園免許2種免許状を取得するために必要な教育実習の意義・目的・内容の理解を深め、実習の準備と実習体験を深化させるための学習を行う。 事前学習では、幼稚園の役割や機能と、保育者の役割に関する理解を意識化するとともに、自己の課題を明確化する。 事後学習では、実習体験を振り返り、自己の実習課題の達成と成果について省察し、更なる学習への意欲を喚起し実践力の獲得につなげる。					
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 実習の事前学習を通して、実習を円滑に進めていくための態度及び知識、技能を修得し、実習内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ② 実習事後の振り返りとまとめの授業を通じて、実習体験を深化させる。 ③ 幼稚園教育職への意欲、適性を体験から考察し、進路決定をしていく。					
【成績評価】 授業で実施する課題などの結果（50%）および授業態度と参加の積極性など（50%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。					
【教科書】 ① 吉田眞理編著『生活事例からはじめる 教育実習・保育実習』青踏社 ② 文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ③ 宮川萬寿美編著『教育・保育実習に役立つ 部分実習指導集』萌文書林 ④ 実習の手引き（小田原短期大学保育学科通信教育課程） ⑤ 教育実習日誌（小田原短期大学保育学科通信教育課程）					
【参考文献】 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 森上史朗・柏女霊峰『保育用語辞典』ミネルヴァ書房					
【アクティブラーニング】 【事前事後学習】 【ICT の活用】					
【備考】					

## 授業計画

回	テーマ	学習内容 (教科書の章、参考資料など)
1	実習の目的と概要 実習生としての心構え	教育実習の目的と概要について (教科書① 16～18 ページ、教科書④ 1～4 ページ) 実習生の服装、基本的な実習マナー、基本的な生活習慣について (教科書① 25～33 ページ、教科書④ 13～16 ページ)
2	オリエンテーション指導	実習園でのオリエンテーションを依頼する電話のかけ方、オリエンテーションの実際 (教科書① 35～42 ページ、教科書④ 21 ページ、33～39 ページ) 実習生紹介書の作成 (教科書④ 5～6 ページ) 健康管理と体調チェック、実習に際しての留意事項の確認(教科書④ 20 ページ)
3	幼稚園・保育者の理解	幼稚園の生活、幼稚園教育の基本、幼稚園教諭の役割について (教科書② 14～16 ページ、109～114 ページ、教科書④ 幼稚園編 41～43 ページ)
4	実習日誌の書き方	実習日誌の書き方、保育時間と保育を支えるための時間について (教科書① 135～139 ページ、教科書④ 49～54 ページ) エピソード記録の書き方について (教科書① 139～145 ページ、教科書④ 55～62 ページ)
5	指導計画案の書き方	部分実習・責任実習指導計画案の説明、指導計画案のトライアングル、どてまの法則について (教科書① 147～154 ページ、教科書④ 63～72 ページ)
6	指導計画案の立案と実践	部分実習・責任実習指導計画案の立案と、発表
7	教育実習課題設定	教育実習課題を設定、日誌へ反映させる (教科書④幼稚園編 73 ページ)
8	実習体験報告会、 実習振り返り	実習体験報告会による実習の振り返り 幼稚園について、子どもについて、幼稚園教師の役割について話し合う(教科書④ 81 ページ)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング（対面） 科目			
ナンバリング	CCs2c268	ディプロマポリシー	DP3c
教育実習		履修年次	2
		単 位	4
Teaching Practice		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：山本 陽子		担当形態：単独	
		授業形態	実習
		授業方法	スクーリング（対面）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 教育実習</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>教育実習は、まず観察実習を通して幼稚園における子どもの姿や教師の役割について理解する。その後の参加・指導実習において部分実習および責任実習を行う。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 子どもや保育者と生活を共にする中で、幼稚園の役割や特徴の理解を深める。</p> <p>② 子どもと共に遊び、生活をする中で、発達の姿や興味・関心のあり方を学ぶ。</p> <p>③ 保育者の仕事を一緒にしながら、環境の構成や援助等、保育者の役割を理解する。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>実習での参加状況、実習園からの評価、日誌・指導計画等を総合的に評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>① 吉田真理編著『生活事例からはじめる 教育実習・保育実習』青踏社</p> <p>② 文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社</p> <p>③ 宮川萬寿美編著『教育・保育実習に役立つ 部分実習指導集』萌文書林</p> <p>④ 実習の手引き（小田原短期大学保育学科通信教育課程）</p> <p>⑤ 教育実習日誌（小田原短期大学保育学科通信教育課程）</p> <p>【参考文献】</p> <p>「幼稚園教育要領」文部科学省 フレーベル館</p> <p>「保育用語辞典」森上史朗・柏女霊峰 ミネルヴァ書房</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>【ICT の活用】</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	①実習園によるオリエンテーション	実習園が決まり実習期間が確定したら、実習を前に園による「オリエンテーション」が行われます。園長先生か主任先生など各園の実習担当者が主となり、学生の4週間の実習スケジュールなどを決めてくれます。オリエンテーションでは、実習の服装や持ち物、そしてスケジュールの説明だけでなく、園の特徴・考え方なども学びます。
2	②観察実習	4週間の実習の最初のうちは、観察実習です。観察実習とは園の子どもたちと触れ合わず、ひたすら観察したことをメモします。しかし最近では、参加しながらの観察実習も増えているため、その場合は子どもたちと日々の生活を共にしながら、保育を観察します。ただ見ているだけではなく、自分が「前に立って指導するには」と考えながら観察することが肝心です。
3	③参加実習、指導実習（部分実習と一日責任実習を行う）	4週間の実習のうち、真ん中あたりで部分実習、最終週で責任実習を行うことが多いです。オリエンテーションでは、正確な日にちが決まっていないこともあるので、自ら担当の先生に、いつが部分（責任）実習なのかを聞きましょう。責任実習を行うクラスの子どもの発達をしっかりと観察しておくことが、責任実習の成功につながります。
4	④実習後の振り返り	4週間の実習が終わる際には、園の担当の先生と実習生で振り返りの時間を持つことが多いです。日々の保育を体験してみた感想や、責任実習を行った上での反省など、考察を行ったうえで臨むと良いでしょう。
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング (対面) 科目			
ナンバリング	CCs3c169	ディプロマポリシー	DP3c
保育実習指導 I		履修年次	専攻科
		単 位	2
Guidance of Practical Training I		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 富金原 光秀		担当形態 : 単独	授業形態
			実習
		授業方法	スクーリング (対面)
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育実習</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>保育士資格取得のために必要な保育実習の意義・目的・内容の理解を深める。また、実習を円滑に進めていくための知識・技術の習得、模擬実習の体験を通じた基礎的学習を行う。</p> <p>保育実習 I (保育所)及び保育実習 I (施設)における保育所/施設の機能及び役割と、保育者の役割に関する理解を意識化するとともに、自己の課題を明確化する。</p> <p>事後学習では実習体験を振り返り、自己の実習課題の達成と成果について省察し、更なる学習への意欲を喚起し実践力の獲得につなげる。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 保育実習 I の意義・目的を理解する。</li> <li>② 各実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。</li> <li>③ 実習に必要な基礎的な知識や技能を習得する。</li> <li>④ 実習の計画、実践、観察、記録、指導案、評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>⑤ 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</li> <li>⑥ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</li> </ol>			
<p>【成績評価】</p> <p>授業で実施する課題などの結果 (50%) および授業態度と参加の積極性など (50%) を踏まえ、総合的な観点で評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 吉田眞理編著『生活事例からはじめる 教育実習・保育実習』青踏社</li> <li>② 文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社</li> <li>③ 宮川萬寿美編著『教育・保育実習に役立つ 部分実習指導集』萌文書林</li> <li>④ 「実習の手引き」小田原短期大学保育学科 通信教育課程</li> <li>⑤ 「保育実習 I 日誌」小田原短期大学保育学科 通信教育課程</li> </ol>			
<p>【参考文献】</p> <p>なし</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>【ICT の活用】</p>			
<p>【備考】</p>			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	オリエンテーション 実習準備①	実習全体の概要、評価基準および判定会議等の説明
2	保育実習 I (保育所・施設)実習準備②	実習の服装、基本的な実習マナー(自己紹介・言葉遣い・挨拶)について SST(ソーシャルスキルトレーニング)
3	保育実習 I (保育所・施設)実習準備③	実習生紹介の書き方、実習生紹介作成、部分実習指導案の説明、健康管理と体調チェック、実習生としての心構え、実習に際しての留意事項
4	保育実習 I (保育所・施設)実習準備④	保育実習 I (保育所)における実習の目的と概要、実習の意義
5	保育実習 I (保育所・施設)実習準備⑤	保育実習 I (施設)における実習の目的と概要、実習の意義
6	保育実習 I (保育所・施設)実習準備⑥	保育者になるための基礎知識(実習態度：表情・呼吸・声の出し方、実習スキル：掃除の仕方等)
7	保育実習 I (保育所・施設)実習準備⑦	保育者になるための基礎知識(実習スキル：子どものかかわり方(禁忌事項含む)、うまくいかない子どもへの対応等)
8	保育実習 I (保育所・施設)実習準備⑧	保育所・施設における実習の課題と計画・部分実習指導案作成の説明
9	保育実習 I (保育所・施設)実習準備⑨	保育所における観察、記録および評価、実習日誌の書き方
10	保育実習 I (保育所・施設)実習準備⑩	施設における観察、記録および評価、実習日誌の書き方
11	保育実習 I (保育所)実習準備⑪	部分実習指導案立案と実践①
12	保育実習 I (保育所)実習準備⑫	部分実習指導案立案と実践②
13	保育実習 I (保育所)実習準備⑬	部分実習指導案立案と実践③
14	保育実習 I (保育所・施設) 実習準備⑭	保育所・施設におけるオリエンテーションの受け方と注意事項の確認、持ち物の確認
15	保育実習 I (保育所・施設) 実習事後指導⑮	実習報告会・次の実習への課題・まとめ総括

通信教育課程 スクーリング（対面） 科目				
ナンバリング	CCs3c170	ディプロマポリシー	DP3c	
保育実習 I（保育所）		履修年次	専攻科	
		単 位	2	
Practical Training in Nursing School I		卒業要件	選択	
		授業区分	専門科目	
担当・シラバス執筆者： 富金原 光秀		担当形態：単独	授業形態	実習
			授業方法	スクーリング（対面）
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ				
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育実習				
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ				
【授業の概要】 保育所における実習（2週間・10日間以上） 乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能及び保育士の職務について学ぶために、保育所の生活に参加する。				
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ② 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 ③ 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 ④ 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。				
【成績評価】 保育所での実習の参加状況と実習日誌の記述内容を総合的に評価する。				
【教科書】 ① 吉田眞理編著『生活事例からはじめる 教育実習・保育実習』青踏社 ② 文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ③ 宮川萬寿美編著『教育・保育実習に役立つ 部分実習指導集』萌文書林 ④ 「実習の手引き」小田原短期大学保育学科 通信教育課程 ⑤ 「保育実習 I 日誌」小田原短期大学保育学科 通信教育課程				
【参考文献】 なし				
【アクティブラーニング】 【事前事後学習】 【ICT の活用】				
【備考】				

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	見学実習、参加実習を通じて学びを深める	1. 以下の保育所の役割と機能を理解する (1) 保育所の生活と一日の流れ
2	見学実習、参加実習を通じて学びを深める	1. 以下の保育所の役割と機能を理解する (2) 保育所保育指針の理解と保育の基本
3	見学実習、参加実習を通じて学びを深める	1. 以下の保育所の役割と機能を理解する (3) 保育所の社会的役割と責任
4	見学実習、参加実習を通じて学びを深める	1. 以下を通じて子ども理解を進める (1) 子どもの観察とその記録による理解
5	見学実習、参加実習を通じて学びを深める	1. 以下を通じて子ども理解を進める (2) 子どもの発達過程の理解
6	見学実習、参加実習を通じて学びを深める	2. 以下を通じて子ども理解を進める (3) 子どもへのかかわりと援助
7	参加実習、部分実習を通じて学びを深める	1. 以下の保育内容・保育環境について学び実践する (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容
8	参加実習、部分実習を通じて学びを深める	1. 以下の専門職としての保育士の役割と職業倫理を理解する (1) 保育士の業務内容
9	参加実習、部分実習を通じて学びを深める	4. 以下の専門職としての保育士の役割と職業倫理を理解する (2) 職員間の役割分担や連携
10	参加実習、部分実習を通じて学びを深める	4. 以下の専門職としての保育士の役割と職業倫理を理解する (3) 保育士の役割と職業倫理
11	参加実習、部分実習を通じて学びを深める	5. 以下の保育の計画、観察、記録について理解する (1) 保育課程と指導計画の理解と活用
12	参加実習、部分実習を通じて学びを深める	5. 以下の保育の計画、観察、記録について理解する (2) 記録に基づく省察・自己評価
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング（対面） 科目			
ナンバリング	CCs3c171	ディプロマポリシー	DP3c
保育実習 I（施設）		履修年次	専攻科
		単 位	2
Practical Training in Nursing Home I		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者： 富金原 光秀		担当形態：単独	授業形態
			実習
		授業方法	スクーリング（対面）
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育実習			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】 児童福祉施設や障害者施設で、原則として 2 週間の宿泊または通所実習を行い、保育士として必要となる子どもや施設利用者に対する基礎的な理解を深める（合計 90 時間以上）			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 児童福祉施設等の組織・運営・子どもや施設利用者への理解を深める。 ② 子どもや施設利用者への支援と権利擁護の実際について学習する。 ③ 施設における保育士の職務内容、援助方法を理解する。			
【成績評価】 実習の参加状況と実習日誌の記述内容を総合的に評価する。			
【教科書】 ① 吉田真理編著『生活事例から始める 教育実習・保育実習』青踏社 ② 文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ③ 宮川萬寿美編著『教育・保育実習に役立つ 部分実習指導集』萌文書林 ④ 「実習の手引き」小田原短期大学保育学科 通信教育課程 ⑤ 「保育実習 I 日誌」小田原短期大学保育学科 通信教育課程			
【参考文献】 小宮謙枝他『施設実習マニュアル』萌文書林 西澤哲『子ども虐待』講談社 杉山登志郎『発達障害の子どもたち』講談社 土井高德『困難を抱える子どもへの理解と対応』福村出版			
【アクティブラーニング】			
【事前事後学習】			
【ICT の活用】			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	およそ第 1～3 日目 (1) 施設の役割と機能	①施設の基本的な機能を理解する。生活と一日の流れおよび施設の役割と機能 ②子ども・利用者との関係作りをする。
2	およそ第 1～3 日目 (1) 施設の役割と機能	①施設の基本的な機能を理解する。生活と一日の流れおよび施設の役割と機能 ②子ども・利用者との関係作りをする。
3	およそ第 1～3 日目 (1) 施設の役割と機能	①施設の基本的な機能を理解する。生活と一日の流れおよび施設の役割と機能 ②子ども・利用者との関係作りをする。
4	およそ第 4～6 日目 (2) 「本人への支援」 子どもや利用者本人に対する理解を深める。	③子どもや障害者の心身の状態に応じた対応・相談援助技術の活用 ④日常生活業務の内容や意味の理解・環境の整備・健康管理・安全対策 ⑤職種間の連携 ⑥施設内の権利擁護 ⑦支援計画の意義及び記録の理解
5	およそ第 4～6 日目 (2) 「本人への支援」 子どもや利用者本人に対する理解を深める。	③子どもや障害者の心身の状態に応じた対応・相談援助技術の活用 ④日常生活業務の内容や意味の理解・環境の整備・健康管理・安全対策 ⑤職種間の連携 ⑥施設内の権利擁護 ⑦支援計画の意義及び記録の理解
6	およそ第 4～6 日目 (2) 「本人への支援」 子どもや利用者本人に対する理解を深める。	③子どもや障害者の心身の状態に応じた対応・相談援助技術の活用 ④日常生活業務の内容や意味の理解・環境の整備・健康管理・安全対策 ⑤職種間の連携 ⑥施設内の権利擁護 ⑦支援計画の意義及び記録の理解
7	およそ第 7～10 日目 (3) 「家族への支援」 (4) 「地域への支援・地域との連携」についてそれぞれ理解する。 (5) 社会福祉施設における保育士の専門性を理解する。	⑧- 1 家族への支援・家族再統合 ⑧- 2 地域のニーズへの対応・地域の社会資源との連携 ⑨専門職としての保育士の役割と倫理
8	およそ第 7～10 日目 (3) 「家族への支援」 (4) 「地域への支援・地域との連携」についてそれぞれ理解する。 (5) 社会福祉施設における保育士の専門性を理解する。	⑧- 1 家族への支援・家族再統合 ⑧- 2 地域のニーズへの対応・地域の社会資源との連携 ⑨専門職としての保育士の役割と倫理
9	およそ第 7～10 日目 (3) 「家族への支援」 (4) 「地域への支援・地域との連携」についてそれぞれ理解する。 (5) 社会福祉施設における保育士の専門性を理解する。	⑧- 1 家族への支援・家族再統合 ⑧- 2 地域のニーズへの対応・地域の社会資源との連携 ⑨専門職としての保育士の役割と倫理
10	およそ第 7～10 日目 (3) 「家族への支援」 (4) 「地域への支援・地域との連携」についてそれぞれ理解する。 (5) 社会福祉施設における保育士の専門性を理解する。	⑧- 1 家族への支援・家族再統合 ⑧- 2 地域のニーズへの対応・地域の社会資源との連携 ⑨専門職としての保育士の役割と倫理

通信教育課程 スクーリング（対面） 科目			
ナンバリング	CCs3c172	ディプロマポリシー	DP3c
保育実習Ⅱ		履修年次	専攻科
		単 位	2
Practical Training in Nursing School Ⅱ		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者： 富金原 光秀		担当形態：単独	授業形態
			実習
		授業方法	スクーリング（対面）
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育実習			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】 保育所における実習（2週間 合計10時間以上） 保育所の保育を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 保育全般に参加し、保育技術を習得する。 ② 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の違いや生活環境こともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 ③ 指導計画を立案し、実際に実践する。 ④ 子どもの家族とのコミュニケーション方法を、具体的に習得する。 ⑤ 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。 ⑥ 子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。 ⑦ 保育士としての職業倫理を理解する。 ⑧ 保育所及び保育士に求められる資質・能力・技術を照らし合わせて、自己の課題を			
【成績評価】 保育所での実習の参加状況と実習日誌の記述内容を総合的に評価する。			
【教科書】 ① 吉田眞理編著『生活事例からはじめる 教育実習・保育実習』青踏社 ② 文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ③ 宮川萬寿美編著『教育・保育実習に役立つ 部分実習指導集』萌文書林 ④ 「実習の手引き」小田原短期大学保育学科 通信教育課程 ⑤ 「保育実習Ⅱ日誌」小田原短期大学保育学科 通信教育課程			
【参考文献】 なし			
【アクティブラーニング】 【事前事後学習】 【ICT の活用】			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	参加実習	実習施設について理解する
2	参加実習	保育の一日の流れを理解し、参加する
3	参加実習	子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する
4	参加実習	保育計画・指導計画を理解する
5	参加実習	生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する
6	参加実習	前半の実習を振り返り、後半の実習の課題を明確にする
7	参加実習、責任実習	職員間の役割分担とチームワークについて理解する
8	参加実習、責任実習	保育記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する
9	参加実習、責任実習	子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ
10	参加実習、責任実習	保育士としての倫理を具体的に学ぶ
11	参加実習、責任実習	安全及び疾病予防への配慮について理解する
12	参加実習、責任実習	実習全体を振り返り、自己評価をする
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング (対面) 科目			
ナンバリング	CCs3c173	ディプロマポリシー	DP3c
保育実習指導Ⅱ		履修年次	専攻科
		単 位	1
Guidance of Practical Training Ⅱ		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 富金原 光秀		担当形態 : 単独	
		授業方法	スクーリング (対面)
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】 ※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】 ※該当科目のみ 保育実習</p> <p>【実務経験との関連性】 ※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>保育実習Ⅰを踏まえ、保育実習Ⅱに向けての課題を明確化する。また、保育所実習Ⅱの意義、目的、内容を理解し、保育実習Ⅱで求められる知識・技能の習得に向けて事前準備を行う。</p> <p>事後学習では実習の振り返りを行い、保育における自己評価、チーム保育、保育士の職業倫理、子育て家庭支援、地域・小学校との連携など、保育実習Ⅰ(保育所)を踏まえて学びが深められた点などを確認し、新たな課題を見つける。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 保育実習Ⅰ(保育所)を振り返り、各自の課題を明確化し、保育実習Ⅱへつなげる。</p> <p>② 保育実習Ⅱで求められている目的を理解し、事前準備を進めていく。</p> <p>③ 保育所での全体的な計画や指導計画の立て方を理解し、実践し、自己評価につなげていくとともに新たな課題を設定する</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>授業で実施する課題などの結果(50%) および授業態度と参加の積極性など(50%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>① 吉田眞理編著『生活事例からはじめる 教育実習・保育実習』青踏社</p> <p>② 文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社</p> <p>③ 宮川萬寿美編著『教育・保育実習に役立つ 部分実習指導案集』萌文書林</p> <p>④ 「実習の手引き」小田原短期大学保育学科 通信教育課程</p> <p>⑤ 「保育実習Ⅱ日誌」小田原短期大学保育学科 通信教育課程</p> <p>【参考文献】</p> <p>なし</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>【ICT の活用】</p>			
<p>【備考】</p>			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	保育実習Ⅱのガイダンスと課題設定	保育実習Ⅱの概要と目的について学ぶ。これまでの実習を振り返りつつ、保育実習Ⅱへの課題を見つけ、自己課題を明確化する。
2	日誌の書き方	保育実習Ⅱの日誌の書き方について学ぶ。
3	指導計画案の立て方	全体的な計画の理解と指導計画案作成について学び、部分実習・責任実習の指導計画案を作成する。
4	指導計画案の書き方②	記載した指導案が実施できるよう準備を進める。
5	実習直前オリエンテーション	実習直前のオリエンテーションを行い、実習に向けて具体的な準備を進める。
6	保育実習Ⅱ実習の振り返りと自己評価	保育実習Ⅱの振り返りを通して実習報告書を作成する。実習園からの評価を通して、さらなる自己評価を行う。
7	日誌・指導案の記述見直し・復習	日誌と指導案の記述を見直し、添削された箇所から学びを深める。
8	全体総括	事前・事後指導で学んだことを確認し、保育士として現場へ出る際の課題を見つける。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング（対面） 科目					
ナンバリング	CCs3c174	ディプロマポリシー	DP3c		
保育実習Ⅲ			履修回数	専攻科	
			単 位	2	
Practical Training in Nursing Home Ⅲ			卒業要件	選択	
			授業区分	専門科目	
担当・シラバス執筆者： 富金原 光秀		担当形態：単独		授業形態	実習
				授業方法	スクーリング（対面）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育実習</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>					
<p>【授業の概要】</p> <p>児童福祉施設や障害者施設で、原則として2週間の宿泊または通所実習を行い、保育実習Ⅰ（施設）での成果をもとに、さらに保育士として必要となる子どもや施設利用者に対する基礎的な理解を深める。（合計90時間以上）</p>					
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>保育実習Ⅰにおける成果を踏まえて以下の目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 児童福祉施設等の組織・運営・子どもや施設利用者への理解をより深める。</li> <li>② 子どもや施設利用者への支援と権利擁護の実際について学習する。</li> <li>③ 施設における保育士の職務内容、援助方法を理解し、自己課題を明確化する。</li> </ol>					
<p>【成績評価】</p> <p>実習の参加状況と実習日誌の記述内容を総合的に評価する。</p>					
<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 松本峰雄 監修『より深く理解できる施設実習』萌文書林</li> <li>② 吉田眞理編著『生活事例からはじめる 教育実習・保育実習』青踏社</li> <li>③ 文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社</li> <li>④ 宮川萬寿美編著『教育・保育実習に役立つ 部分実習指導案集』萌文書林</li> <li>⑤ 「実習の手引き」小田原短期大学保育学科 通信教育課程</li> <li>⑥ 「保育実習Ⅲ日誌」小田原短期大学保育学科 通信教育課程</li> </ol> <p>【参考文献】</p> <p>民秋言編『施設実習』北大路書房</p> <p>小野澤昇・田中利則『保育士のための福祉施設実習ハンドブック』ミネルヴァ書房</p>					
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>【ICT の活用】</p>					
<p>【備考】</p>					

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	およそ第 1～3 日目 (1) 施設の役割と機能	①施設の基本的な機能を理解する・生活と一日の流れおよび施設の役割と機能 ②子ども・利用者との関係作りをする
2	およそ第 1～3 日目 (1) 施設の役割と機能	①施設の基本的な機能を理解する・生活と一日の流れおよび施設の役割と機能 ②子ども・利用者との関係作りをする
3	およそ第 1～3 日目 (1) 施設の役割と機能	①施設の基本的な機能を理解する・生活と一日の流れおよび施設の役割と機能 ②子ども・利用者との関係作りをする
4	およそ第 4～6 日目 (2) 「本人への支援」 子どもや利用者本人に対する理解を深める	③子どもや障害者の心身の状態に応じた対応・相談援助技術の活用 ④日常生活業務の内容や意味の理解・環境の整備・健康管理・安全対策 ⑤職種間の連携 ①施設内の権利擁護 ②支援計画の意義及び記録の理解
5	およそ第 4～6 日目 (2) 「本人への支援」 子どもや利用者本人に対する理解を深める	③子どもや障害者の心身の状態に応じた対応・相談援助技術の活用 ④日常生活業務の内容や意味の理解・環境の整備・健康管理・安全対策 ⑤職種間の連携 ①施設内の権利擁護 ②支援計画の意義及び記録の理解
6	およそ第 4～6 日目 (2) 「本人への支援」 子どもや利用者本人に対する理解を深める	③子どもや障害者の心身の状態に応じた対応・相談援助技術の活用 ④日常生活業務の内容や意味の理解・環境の整備・健康管理・安全対策 ⑤職種間の連携 ①施設内の権利擁護 ②支援計画の意義及び記録の理解
7	およそ第 7～10 日目 (3) 「家族への支援」(4) 「地域への支援・地域との連携」についてそれぞれ理解する (5) 社会福祉施設における保育士の専門性を理解する	⑧-1 家族への支援・家族再統合 ⑧-2 地域のニーズへの対応・地域の社会資源との連携 ⑨専門職としての保育士の役割と倫理 自己課題の明確化
8	およそ第 7～10 日目 (3) 「家族への支援」(4) 「地域への支援・地域との連携」についてそれぞれ理解する (5) 社会福祉施設における保育士の専門性を理解する	⑧-1 家族への支援・家族再統合 ⑧-2 地域のニーズへの対応・地域の社会資源との連携 ⑨専門職としての保育士の役割と倫理 自己課題の明確化
9	およそ第 7～10 日目 (3) 「家族への支援」(4) 「地域への支援・地域との連携」についてそれぞれ理解する (5) 社会福祉施設における保育士の専門性を理解する	⑧-1 家族への支援・家族再統合 ⑧-2 地域のニーズへの対応・地域の社会資源との連携 ⑨専門職としての保育士の役割と倫理 自己課題の明確化
10	およそ第 7～10 日目 (3) 「家族への支援」(4) 「地域への支援・地域との連携」についてそれぞれ理解する (5) 社会福祉施設における保育士の専門性を理解する	⑧-1 家族への支援・家族再統合 ⑧-2 地域のニーズへの対応・地域の社会資源との連携 ⑨専門職としての保育士の役割と倫理 自己課題の明確化

通信教育課程 スクーリング (対面) 科目			
ナンバリング	CCs3c175	ディプロマポリシー	DP3c
保育実習指導Ⅲ		履修次	専攻科
		単 位	1
Guidance of Practical Training Ⅲ		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者 : 富金原 光秀		担当形態 : 単独	
		授業方法	スクーリング (対面)
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育実習			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】 社会的養護施設や児童厚生施設、障害者施設等における実習を適切に進めていくための知識・技術の習得、模擬保育実習の実践学習を行う。事後学習では、保育実習Ⅰ（施設）を踏まえて学びが深められた点を確認し、自己課題を見つけるとともに、職業選択も視野にいれ自己省察を行う。			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 保育実習Ⅰ（施設）を踏まえ、保育実習Ⅲの意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。 ② 実習施設の特徴をふまえ、利用者（児）の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ③ 保育実習Ⅲの計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ④ 保育実習Ⅲの事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。			
【成績評価】 授業で実施する課題などの結果（50%）および授業態度と参加の積極性など（50%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。			
【教科書】 ① 松本峰雄 監修『より深く理解できる施設実習』萌文書林 ② 吉田眞理編著『生活事例からはじめる 教育実習・保育実習』青踏社 ③ 文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社 ④ 宮川萬寿美編著『教育・保育実習に役立つ 部分実習指導案集』萌文書林 ⑤ 「実習の手引き」小田原短期大学保育学科 通信教育課程 ⑥ 「保育実習Ⅲ日誌」小田原短期大学保育学科 通信教育課程			
【参考文献】 民秋言編『施設実習』北大路書房 小野澤昇・田中利則『保育士のための福祉施設実習ハンドブック』ミネルヴァ書房			
【アクティブラーニング】			
【事前事後学習】			
【ICT の活用】			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	①保育実習Ⅲ準備 ②配属施設の理解	①保育実習Ⅲ全体の概要を学び、実習目的を理解する。実習に必要な書類の準備や確認を行う。関連図書による学習（現在の社会福祉施設の機能について、適宜図書や資料を読み、全般的な理解を深める） ②資料により自分が配属される施設について理解を深める。（施設の資料やインターネット上で公開されている第三者評価情報等を調べてみる等）。
2	実習先施設の理解	児童福祉施設や障害者施設の現状と課題、社会的機能を知る。
3	支援方法の理解	児童福祉施設や障害者施設の利用者への支援のあり方について、障害者の権利や現在の障害者への支援に関する事項、理念的な事柄を復習しながら学習する。
4	実習計画書の準備	保育実習Ⅰ（施設）における自己課題の振り返り及び実習に向けての課題の明確化・実習計画書の作成をする。
5	日誌作成の準備	日誌記録の記入方法について保育実習Ⅰ（施設）の反省を元に学習する。
6	実習後振り返り	実習前に学習した課題に沿って、実習成果を振り返りまとめる。
7	実習報告会	グループディスカッションにより、各自の成果、課題を報告し合い、児童福祉施設の機能や保育士の役割を全般的に理解する。
8	実習報告会	グループディスカッションにより、各自の成果、課題を報告し合い、児童福祉施設の機能や保育士の役割を全般的に理解する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		



3

オンデマンド  
スクーリング科目

通信教育課程 スクーリング（オンデマンド） 科目			
ナンバリング	CCs1c115	ディプロマポリシー	DP3c
子どもの食と栄養Ⅱ		履修回数	1
		単 位	1
Nutrition for Children Ⅱ		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者： 稲葉 佳代子		担当形態	演習
		授業方法	スクーリング（オンデマンド）
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の対象の理解に関する科目			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】 「子どもの食と栄養Ⅱ」では、「子どもの食と栄養Ⅰ」でのテキスト学習を基本とし、子どもの食についてさらに実践的な内容を学びます。すなわち子どもの食の問題点や発達に合わせた適切な食生活を学び、保育者として食事支援に生かせる知識の修得を目指します。保育者が子どもの健康支援を行う立場にあり、支援を行うことで子どもが豊かな人間性を育み生きる力を身につけていくことを、授業を通して理解しましょう。原則として、「子どもの食と栄養Ⅰ」を履修していることが望ましいです。			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 ② 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 ③ 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 ④ 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ⑤ 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。			
【成績評価】 課題の結果（70%）と、視察状況および最終課題の提出（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。			
【教科書】 児玉浩子／編集・執筆 太田百合子・風見公子・小林陽子・藤澤由美子／執筆 『子どもの食と栄養 改訂第3版』 中山書店			
【参考文献】 ①食品成分表（最新版は八訂 2020年版です。文科省HPでも閲覧が可能です。） ②栄養セントラル学院『保育現場の食育計画』 風鳴舎 ③小川万紀子監修『新食育ブック 子どもの食と健康』 少年写真新聞社 ④堤ちはる・土井正子編著『子どもの食と栄養(第9版)』 萌文書林			
【アクティブラーニング】 確認テストによる学びの確認、動画視聴後の意見・感想の記述、授業内の「Thinking Time」における意見の記述などに主体的に取り組む。			
【事前事後学習】 テキストの該当部分の読み込み、各回実施する確認テストの振り返りなど、予習や復習をしっかりと行う。			
【ICTの活用】 オンデマンド型授業による開講のため、別に案内するマニュアルを参照しながら、ICTを活用した積極的な受講に努めること			
【備考】			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	子どもの健康と食生活	第1章（p. 2～24） ①乳幼児食事調査から見た食の現状と課題 ②朝食欠食、偏食、噛まない子、孤食などへの対応
2	栄養・食に関する基礎知識①	第2章（p.26～35） ①消化と吸収 ②三大栄養素とエネルギー ③たんぱく質 ④炭水化物 ⑤脂質
3	栄養・食に関する基礎知識②	第2章（p.36～41） ⑥ビタミン ⑦ミネラル ⑧食物繊維と水分
4	栄養・食に関する基礎知識③	第2章（p.42～48） ⑨食事摂取基準
5	子どもの発育・発達と栄養・食生活①	第3章（p.52～61） ①咀嚼・嚥下、味覚、消化吸収機能の発達と食事
6	子どもの発育・発達と栄養・食生活②	第3章（p.62～68） ②乳児期の栄養・食生活
7	子どもの発育・発達と栄養・食生活③	第3章（p.69～73、p.50～51） ③離乳期の栄養・食生活 ④授乳・離乳の支援ガイド
8	子どもの発育・発達と栄養・食生活④	第3章（p.74～79） ⑤幼児期の栄養・食生活
9	子どもの発育・発達と栄養・食生活⑤	第3章（p.74～79） ⑥食事バランスを意識した食生活の実践（3色食品群、主食・主菜・副菜、食事バランスガイド、3・1・2弁当箱法）
10	食育の基本と実践	第4章（p.88～103） ①食育基本法 ②食育推進基本計画 ③保育所における食育の実践
11	児童福祉施設や家庭における食と栄養	第5章（p.110～115） ①施設における食事の提供 ②給食の役割 ③食事提供時の留意点
12	食の安全	第6章（p.118～133） ①食中毒 ②食中毒の予防 ③施設の衛生管理
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①	第7章（p.136～138） ①食物アレルギー
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②	第7章（p.139～147） ②鉄欠乏性貧血 ③糖尿病 ④発熱 ⑤体調不良 ⑥急性胃腸炎 ⑦便秘
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養③	第7章（p.148～154） ⑧肥満 ⑨やせ ⑩障がい

通信教育課程 スクーリング（オンデマンド） 科目			
ナンバリング	CCs2c118	ディプロマポリシー	DP3c
子どもの健康と安全		履修回数	2
		単 位	1
Health and Safety for Children		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者： 村上 光平	担当形態：単独	授業形態	演習
		授業方法	スクーリング（オンデマンド）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の内容・方法に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>保健的観点に基づく保育の環境整備や援助について理解する。体調不良等に対する適切な対応や関連するガイドラインやデータ等を踏まえ保育における健康および安全管理、感染症対策、保育における保健的対応を具体的に理解する。子どもの健康及び安全管理の実施体制や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。</p> <p>② 子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。</p> <p>③ 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理、事故防止、安全対策、危機管理、災害対策、感染症、子どもの発達や状態などに即した対応について具体的に理解する。</p> <p>④ 子どもの健康及び安全管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>課題の結果（70%）と、視察状況および最終課題の提出（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>なし</p> <p>【参考文献】</p> <p>適宜紹介</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>授業用のテキストの事例を読み、提示された問題に自ら考察し問題解決を通して、様々な知識やスキルを学び、習得すること。</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>各回にて、「確認テスト」を課すので必ず取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>オンデマンド型授業による開講のため、別に案内するマニュアルを参照しながら、ICTを活用した積極的な受講に努めること</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	保健的保育環境及び援助	子どもの健康と保育環境など
2	健康及び安全管理①	保育現場における衛生管理、安全管理など
3	健康及び安全管理②	保育現場における危機管理、災害対策など
4	体調不良等に対する適切な対応①	体調不良や傷害の対応、応急処置など
5	体調不良等に対する適切な対応②	救急処置、救急蘇生法など
6	感染症対策	集団発生の予防と罹災後の対応など
7	保健的対応	3歳児未満への対応、障害のある子どもへの対応など
8	健康・安全管理の実施体制	職員間、自治体、専門機関との連携、保健活動計画及び評価など
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング（オンデマンド） 科目			
ナンバリング	CCs1c224	ディプロマポリシー	DP2c
情報処理論		履修回数	1
		単 位	2
Introduction to Computer Science		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者： 飯原 智子	担当形態：単独	授業形態	演習
		授業方法	スクーリング（オンデマンド）
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 情報機器の操作			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】 インターネットの普及により、パソコンは保育現場の必須のツールとなっています。園のおたより作成をはじめとしたさまざまな情報発信、保育記録などの電子化、保護者との連絡、会計管理などの活用場面が挙げられます。この科目では、情報モラルをはじめ、アプリケーション操作を中心とした実務レベルでのコンピュータリテラシーを習得することを目指します。			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① Windows の基本的な操作および情報モラルの習得。 ② アプリケーションソフト（MS Word, Excel PowerPoint）の基本的な操作の習得。 ③ 現場での実践的な文書作成技法の取得。応用事例の考え方。著作権等に対する知識の習得。 ④ 社会人としての文書作成・プレゼンテーションの技術習得。			
【成績評価】 課題の結果（70%）と、視察状況および最終課題の提出（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。			
【教科書】 ① 飯原 智子「情報基礎演習 保育士・栄養士のためのパソコン操作編」一粒書房 ② 飯原 智子「教育デジタルトランスフォーメーション基礎」一粒書房			
【参考文献】 なし			
【アクティブラーニング】 遠隔講義のため、特になし。			
【事前事後学習】 事前学習は、テキストの該当箇所に目を通すこと。 事後学習は、課題実施およびPCの操作が可能であればテキスト問題を実施すること。			
【ICTの活用】 オンデマンド型授業による開講のため、別に案内するマニュアルを参照しながら、ICTを活用した積極的な受講に努めること			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	情報基礎知識1 Windows：基本操作	オリエンテーション 教科書②（以下②と記載）から「情報を学ぶ意義」など、教科書①（以下①と記載） 第1章 パソコンの基本とメール利用
2	情報基礎知識2 ファイル操作と文字入力	②「コンピュータの基礎」「ファイルとフォルダー」など ① 第2章 ファイルの操作と入力練習
3	情報基礎知識3 Word：基本操作	②「文書作成」など ① 第3章 Wordの基本操作
4	情報基礎知識4 Word：おたより作成	②「コンピュータの構成」など ① 第4章 おたよりを作成しよう
5	情報基礎知識5 Word：ポスター作成	②「インターネット」など ① 第5章 掲示用ポスターを作成しよう
6	情報基礎知識6 Word：レポート作成	②「レポート作成」など ① 第6章 レポートを作成しよう
7	情報基礎知識7 Word：応用操作	②「情報検索」など ① 第7章 知っていると便利な機能
8	情報基礎知識8 Excel：基本操作	②「情報セキュリティ」など ① 第8章 Excelの基本操作
9	情報基礎知識9 Excel：簡単な関数の利用	②「ウイルス対策」など ① 第9章 簡単な関数を使ってみよう
10	情報基礎知識10 Excel：割合を計算する	②「インターネット詐欺」など ① 第10章 割合を計算するテクニック
11	情報基礎知識11 Excel：応用操作	②「WebサービスとSNS」など ① 第11章 知っていると便利な機能
12	情報基礎知識12 PowerPoint：基本操作	②「プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備」など ① 第12章 PowerPointの基本操作
13	情報基礎知識13 PowerPoint：応用操作1	②「プレゼンテーションの資料作成について」など ① 第13章 知っていると便利な機能
14	情報基礎知識14 PowerPoint：応用操作2	②「プレゼンテーションの発表技法、リハーサル、実施」など ① 第14章、15章 図表の利用とレイアウト、ポスター作成
15	情報基礎知識15 全体の復習	②「社会人として知るべき法律等」、「ICTの活用」など ① 全体講義の復習

通信教育課程 スクーリング（オンデマンド） 科目			
ナンバリング	CCs2c342	ディプロマポリシー	DP2c
保育内容総論 I		履修年次	2
		単 位	1
Guidance of Early Child Care and Education I		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：宮川 萬寿美		担当形態：単独	授業形態
			演習
		授業方法	スクーリング（オンデマンド）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の内容・方法に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>幼児教育の場では、子どもがその環境の中で生活し、その環境とのかかわりの中で、心身ともに成長し発達していくのを援助する。保育内容総論 I では、保育を総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子ども理解や保育・教育方法を模擬授業を通して具体的に展開していく方法を学ぶ。「生活」「発達」「環境」などをキーワードに、保育者の基本的な考え方やふるまい方について、事例を取り上げながら授業を進めていく。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づいて、保育内容の構造を理解し、保育内容のねらいと内容について知識を習得する</p> <p>② 子どもの生活に即し、季節の変化等を取り入れた保育計画を立てる方法を身につける</p> <p>③ 5 領域及び総合的な遊びについて説明できる</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>課題の結果（70%）と、視察状況および最終課題の提出（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>① 神蔵幸子・宮川萬寿美編著『生活事例からはじめる 保育内容総論 第3版』青踏社</p> <p>② 吉田眞理編著『保育する力』初版 第2刷 ミネルヴァ書房</p> <p>③ 内閣府・文部科学省・厚生労働省「平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」（チャイルド本社）</p> <p>【参考文献】 特になし</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>現場での保育実践をイメージし、手づくり教材や指導計画案を作成する。 インターネットなど積極的に活用すること</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>事前学習では学習内容にある教科書の章を読んでおくこと。事後学習では動画内で示された資料について確認する事。</p> <p>【ICT の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンド型授業による開講のため、別に案内するマニュアルを参照しながら、I C Tを活用した積極的な受講に努めること</li> <li>・保育関連のアプリを活用し、教材（手作りおもちゃ）を作成する</li> </ul>			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	保育内容とは	幼児教育の基本・保育内容のねらいと内容・5領域 教科書① 第1章
2	保育内容の変遷	保育内容の歴史 幼稚園教育要領の変遷 教科書① 第2章
3	環境を通して行う保育	遊びの総合的な展開 教科書① 第3章
4	乳児保育と保育内容	乳児、1歳以上3歳未満児の保育内容・養護と教育の一体 教科書① 第5章 教科書② 第2章（第1節、第2節）
5	幼児教育と保育内容	3歳以上児の保育内容 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 学びの連続性 教科書① 第5章 教科書② 第2章（第2節） 第4章（第3節）
6	保育の計画と評価	教育課程とそれに基づく長期の指導計画及び短期の指導計画 季節の行事の週案・指導案作成 教科書① 第6・7章 教科書② 第1章（第2節） 第2章（第3節）
7	多様性への対応と保育内容	子どもの発達理解と保育内容 教材作成及び教材を使った模擬保育（情報機器の操作及び教材の活用を含む） 保育の多様性・多文化共生の保育について 教科書① 第8章 教科書② 第2章（第5節）
8	保育の記録	保育における記録の意味 保育日誌・クラスだよりの実際 教科書① 第9章 教科書② 第1章（第2節）
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング（オンデマンド） 科目			
ナンバリング	CCs1c343	ディプロマポリシー	DP3c
環境指導法		履修年次	1
		単 位	1
Environmental Education		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者： 島貫 織江		担当形態：単独	授業形態
			演習
		授業方法	スクーリング（オンデマンド）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ            保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ            保育の内容・方法に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示される5領域の一つ「環境」についての理解を深めつつ、実際の保育現場を想定した事例への対応を考える。その際、幼稚園教育要領はもちろんのこと、保育所保育指針も参考にしつつ、保育者としての専門性を高める。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 環境について理解していることから、さらに発展した内容、解釈について理解することができる。</p> <p>② 実際の保育現場を想定した事例への対応を考えることができる。</p> <p>③ 幼稚園教育要領及び保育所保育指針を活用し、保育者としての専門性を高めることができる。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>課題の結果（70%）と、視聴状況および最終課題の提出（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>無藤隆・中坪史典・後藤範子『保育内容「環境」』 大学図書出版</p> <p>【参考文献】</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>インターネット等を用いて、自ら調べ学習に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>各動画の指示に従い、事前事後学習に取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>オンデマンド型授業による開講のため、別に案内するマニュアルを参照しながら、ICTを活用した積極的な受講に努めること</p>			
<p>【備考】</p>			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	環境とは何か	「学びのドーナツ理論」、「生態学的システム論」等を用いて「環境とは何か」について様々な視点から発展的に学ぶ
2	安心感をもたらす環境	子どもにとっての環境、園の環境構成について「安心感をもたらす環境という」観点から発展的に学ぶ
3	刺激をもたらす環境①	「刺激をもたらす環境」という観点から、子どもたちによりよい刺激となる環境について学ぶ
4	刺激をもたらす環境②	「刺激をもたらす環境」という観点から、子どもたちが遊びを通して関わることで様々な刺激を受けられる環境について学ぶ
5	配慮が必要な環境	障害のみならず、現代の多様性にも対応できる配慮が必要な環境について学ぶ
6	守るべき環境	環境からの刺激や恩恵を受ける立場として、守るべき環境という視点と保育現場で活用できる手法について学ぶ
7	事例研究	様々な事例への対応について学ぶ ～事例対応への心構えの確認～
8	事例研究	様々な事例への対応について学ぶ ～事例対応への専門性の向上～
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング（オンデマンド） 科目			
ナンバリング	CCs1c346	ディプロマポリシー	DP3c
言葉指導法		履修年次	1
		単 位	1
Early Child Care and Education (Language)		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：馬見塚 昭久		担当形態：単独	
		授業方法	スクーリング（オンデマンド）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ            保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ            保育の内容・方法に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>領域「言葉」のねらい及び内容について学び、豊かな言葉を育む保育者の関わり方についての理解を深める。また、言葉の発達に即して言葉遊びや児童文化財等を効果的に活用する技術を学ぶとともに、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身に付ける。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。            ② 子どもの成長と言葉の発達プロセスを理解する。            ③ 言葉を育む支援のあり方を理解する。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>課題の結果（70％）と、視聴状況および最終課題の提出（30％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>馬見塚昭久・小倉直子編著『保育学生のための「幼児と言葉」・「言葉指導法」』ミネルヴァ書房</p> <p>【参考文献】</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館            内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館            厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>教科書の各章末に掲載されている「アクティビティ」に主体的に取り組むこと。</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>事前に教科書の該当する章を通読し、事後には各章末に掲載されている「演習課題」に取り組むこと。</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>オンデマンド型授業による開講のため、別に案内するマニュアルを参照しながら、ICTを活用した積極的な受講に努めること</p>			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容 (教科書の章、参考資料など)
1	領域「言葉」とは	①領域の考え方と言葉の育ち (9章1節) ②領域「言葉」と保育の方法 (9章2節)
2	子どもの発達と言葉	①乳児の発達と言葉の獲得 (10章1節) ②幼児の発達と言葉の役割 (10章2節)
3	前言語期のコミュニケーションと保育	①言語獲得前のコミュニケーション (11章1節) ②コミュニケーションを育むための働きかけ (11章2節)
4	話し言葉の機能と発達	①「話す」ということ (12章1節) ②園生活で話す力を育てる (12章2節)
5	書き言葉の発達と保育	①文字の読み書きと保育 (13章1節) ②文字の読み書きを支援する方法 (13章2節)
6	言葉に関する諸問題	①言葉に関する課題 (14章1節) ②母語が日本語ではない子ども (14章2節)
7	言葉を育む保育の構想	①領域「言葉」と指導計画 (15章1節) ②保育の評価と保幼小連携 (15章2節)
8	現代社会と言葉	①子どもを取り巻く言語環境 (16章1節) ②模擬保育と相互批評 (16章2節)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング（オンデマンド） 科目			
ナンバリング	CCs2c355	ディプロマポリシー	DP3c
幼児理解の理論と方法		履修年次	2
		単 位	1
Theory and Method of Understanding Young Children		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：古谷 淳		担当形態：単独	授業形態
			演習
		授業方法	スクーリング（オンデマンド）
【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ 幼児理解の理論と方法			
【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の対象の理解に関する科目			
【実務経験との関連性】※実務家教員のみ			
【授業の概要】 保育者として子どもと共に生活をしていく上で、子どもをどう理解しているかは保育行為の根拠となる。子どもを理解しようとする気持ちだけではなく、子どもを理解した上で「子どもとともに保育をデザインする」保育者とはどのような保育者か、それについて具体的なエピソードを交えて考察を重ねていく。			
【授業の到達目標 及び テーマ】 ① 子どもの理解と援助の根幹を知り、「子どもとつくる保育実践」が行える保育者を目指す。 ② 「両主体による保育」を行うための子どもの特性を理解する。			
【成績評価】 課題の結果（70%）と、視察状況および最終課題の提出（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。			
【教科書】 阿部アサミ・利根川章博・小林祥子編著『子ども理解・幼児理解—ビジュアルエイド—』大学図書出版			
【参考文献】 なし			
【アクティブラーニング】 CoLSにおいて、教員・学生間とのコミュニケーションツールである「フォーラム」に積極的に活用すること。 提示された問題に自ら考察し問題解決を通して、様々な知識やスキルを学び、習得すること。			
【事前事後学習】 「子ども理解と援助」各講確認テストを行い、授業にて学んだことの振り返りを行う。			
【ICTの活用】 オンデマンド型授業による開講のため、別に案内するマニュアルを参照しながら、ICTを活用した積極的な受講に努めること			
【備考】			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	オリエンテーション（授業内容、目的の確認）／子ども理解とは	授業概要、到達目標、授業構成、授業評価等の説明 保育実践の創造にむけての概要
2	幼児期にふさわしい生活とは	幼児期の教育における見方・考え方 生活の中で文化を伝える
3	子ども理解における保育者の姿勢	人的環境としての保育者の姿勢 保育の中での保育者の姿勢
4	乳児期（0・1・2 歳児）の保育と子ども理解	乳児期の保育と乳児理解 心地よい生活の中での乳児理解とは
5	プロジェクト活動と子ども理解	プロジェクト活動とは 保育者たちのプロジェクト活動
6	子ども理解と評価	「幼稚園教育要領」における評価 「保育所保育指針」における評価
7	保育を深めるための組織づくり	保育者間の対話とその意義 ファシリテーションを用いた「保育の学び」
8	発達の連続性と就学の支援	発達の連続性 就学の支援
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング（オンデマンド） 科目			
ナンバリング	CCs2c159	ディプロマポリシー	DP3c
乳児保育Ⅱ		履修年次	2
		単 位	1
Infant Care Ⅱ		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆員：尾野 明美		担当形態：単独	
		授業方法	スクーリング（オンデマンド）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の内容・方法に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>0, 1, 2 歳児の子どもの発達に特に目覚ましく、保育者としての対応も柔軟性が求められる。本授業では「乳児保育Ⅰ」で学んだ基礎的理論を軸に、乳児の発達をはじめ、生活、環境などの全般に至る保育者として必要な理論と保育技術を、実践場面を想定した実践事例に学び、学生が能動的な姿勢で保育の内容を考えることを通して、乳児保育の実践力を身に付ける。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方的な考え方について理解する。</p> <p>② 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</p> <p>③ 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。</p> <p>④ 上記①～③を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>課題の結果（70%）と、視聴状況および最終課題の提出（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>尾野明美・菊地篤子・小湊真衣編著『アクティブラーニング対応 乳児保育』 萌文書林</p> <p>【参考文献】</p> <p>文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>授業用のテキストの事例を読み、提示された問題に自ら考察し問題解決を通して、様々な知識やスキルを学び、習得すること。</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>授業前にはまず、シラバスを読み、授業の概要、到達目標と授業計画を理解しておくこと。事前学習では、テキストの該当する事例を読み自分の考えをまとめ、授業で取り上げる内容について参考テキストを用いて用語を調べておく。事後学習は、授業内容を振り返ってから、テキストや参考テキストを確認し、発展学習に取り組むこと。</p> <p>【ICT の活用】</p> <p>オンデマンド型授業による開講のため、別に案内するマニュアルを参照しながら、I C T を活用した積極的な受講に努めること</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容 (教科書の章、参考資料など)
1	乳児保育の基本的な考え	子どもの発育・発達のプロセスを踏まえ援助や関わり方の基本的な考え方を理解する。(基礎編 第1章p14~21) 演習 朝の受け入れ (実践編p102~111)
2	生活と遊びの実際と援助 (1)	一日の生活の流れで考える生活 (基礎編 第2章P34~39) 演習 食事 (実践編p114~131)
3	生活と遊びの実際と援助 (2)	0歳児の生活と遊びの援助 (基礎編 第2章p39~42) 演習 睡眠 (実践編p134~147)
4	生活と遊びの実際と援助 (3)	0歳児の生活と遊びの援助 (基礎編 第2章p43~45) 演習 排せ (実践編p148~160)
5	生活と遊びの実際と援助 (4)	1~3歳児の生活と遊びの援助 (基礎編 第2章p46~48) 演習 着脱・清潔 (実践編p162~171)
6	乳児保育における配慮と実際 (1)	子ども同士のかかわりとその援助 (基礎編 第2章p69) 演習 遊び (実践編p178~196)
7	乳児保育における配慮と実際 (2)	子どもの心身の健康と情緒の安定を図るための配慮 (基礎編 第3章p74~80) 集団での生活と環境変化や移行に対する配慮 (基礎編 第3章p81~84) 演習 午後のお迎え・お帰 (実践編P202~212)
8	乳児保育における計画の実際	多様な保育への対応 (基礎編 p27~32) 乳児保育における長期・短期の計画と個別の集団の指導計画の実際 (基礎編 第4章p90~96) 演習 個別支援計画の作成 (基礎編 第4章p95)
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング（オンデマンド） 科目			
ナンバリング	CCs1c161	ディプロマポリシー	DP3c
障害児保育		履修年次	1
		単 位	1
Early Childhood Special Education		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：尾野 明美		担当形態：単独	
		授業方法	スクーリング（オンデマンド）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の内容・方法に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>この授業は、これまでに習得した障害に関する専門的な知識や内容を踏まえ、保育の現場で実際に繰り広げられる障害児とのかかわりや保護者への支援について事例を通して学び、保育現場で実践的に取り組むための支援方法を身に付ける。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 子どもの発達の視点を踏まえて、障害について科学的な理解を深め、事例を読み解きながら障害の特徴を理解する。</p> <p>② 障害児保育の実践を学び、障害児への支援の内容や方法について検討することができる。</p> <p>③ インクルーシブ保育において、子ども同士のかかわりの大切さを理解し、多様な子どもたちが安心して過ごせる保育環境について理解を深める。</p> <p>④ 保護者への支援や関係機関との連携について基本的な理解を深め、今後の課題を考えることができる。</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>課題の結果（70%）と、視聴覚状況および最終課題の提出（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>尾野明美・小湊真衣共著『アクティブラーニング対応 エピソードから読み解く障害児保育』 萌文書林</p> <p>【参考文献】</p> <p>①尾野明美『保育者のための障害児保育 理論と実践』（第2版） 萌文書林</p> <p>②厚生労働省『保育所保育指針解説書』 フレーベル館</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>授業用のテキストの事例を読み、提示された問題に自ら考察し問題解決を通して、様々な知識やスキルを学び、習得すること。</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>授業前にはまず、シラバスを読み、授業の概要、到達目標と授業計画を理解しておくこと。事前学習では、テキストの該当する事例を読み自分の考えをまとめ、授業で取り上げる内容について参考テキストを用いて用語を調べておく。事後学習は、授業内容を振り返ってから、テキストや参考テキストを確認し、発展学習に取り組むこと。</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>オンデマンド型授業による開講のため、別に案内するマニュアルを参照しながら、I C Tを活用した積極的な受講に努めること</p>			
<p>【備考】</p>			



## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	0歳児の障害児保育①	障害児保育における基本、支援内容と方法、留意点。 診断のついていない気になる0歳児の保育事例を読み解く。（第1章）
2	0歳児の障害児保育②	障害児保育における基本、成長・発達の違いの理解 診断のついていない配慮が必要な0歳児の保育事例を読み解く。（第1章）
3	1歳児の障害児保育	成長・発達に遅れのある子どもの特性の理解、支援内容と方法、留意点。 成長・発達に遅れのある1歳児の保育事例を読み解く。（第2章）
4	2歳児の障害児保育	知的に障害ある子どもの特性の理解、支援内容と方法、留意点。 保護者支援と専門機関との連携。 ダウン症の2歳児の保育事例を読み解く。（第3章）
5	3歳児の障害児保育	発達障害（自閉症スペクトラム症）の理解、支援内容と方法、留意点。 自閉症スペクトラム症の3歳児の保育事例を読み解く。（第3章）
6	4歳児の障害児保育	軽度発達障害の理解、支援内容と方法、留意点 保育者とのかかわりの理解。 こだわりの強い4歳児の保育事例を読み解く。（第5章）
7	5歳児の障害児保育	発達障害（注意欠如・多動性障害）の多動性の特徴の理解、支援内容と方法、留意点。 子ども同士のかかわりの理解。 注意欠如・多動性障害の5歳児の保育事例を読み解く。（第6章）
8	6歳児の障害児保育	発達障害（注意欠如・多動性障害）の不注意の理解、支援内容と方法、留意点。 小学校との連携の理解。 不注意の特徴のある6歳児の保育事例を読み解く。（第7章）
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング（オンデマンド） 科目			
ナンバリング	CCs2c162	ディプロマポリシー	DP3c
社会的養護Ⅱ		履修年次	2
		単 位	1
Theory of Out-of-Home Care Ⅱ		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：吉田 真理	担当形態：単独	授業形態	演習
		授業方法	スクーリング（オンデマンド）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の本質・目的に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>この授業では、生活型児童福祉施設や里親等の「家庭外の場」における子どもの養護のあり方について基礎的な理解を深める。「生活の場」でどのように子どもの権利を尊重しながら支援を展開するか、「子どもの最善の利益」「虐待」「権利擁護」等をキーワードにしながら、施設や里親家庭における実際の支援あり方を学ぶ。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。</li> <li>② 施設養護や家庭養護の実際について理解する。</li> <li>③ 社会的養護における「計画」「記録」「評価」の実際について理解する。</li> <li>④ 社会的養護に関わる相対援助の方法と技術について理解する。</li> <li>⑤ 社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について理解する。</li> </ol>			
<p>【成績評価】</p> <p>課題の結果（70%）と、視察状況および最終課題の提出（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>吉田真理・高橋一弘・村田紋子共著『児童の福祉を支える〈演習〉社会的養護Ⅱ』萌文書林</p> <p>【参考文献】</p> <p>なし</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>各回、事例を交えた構成となるため、CoLSにおいて、教員・学生間とのコミュニケーションツールである「フォーラム」に積極的に活用すること</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>各回にて、「確認テスト」を課すので必ず取り組むこと</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>オンデマンド型授業による開講のため、別に案内するマニュアルを参照しながら、ICTを活用した積極的な受講に努めること</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	子どもの権利擁護 仕組みと保育士等の倫理・責務	第1章 I §1～2「子どもの権利条約」を基礎とした子どもの権利の内容・権利擁護の意味を理解する。 □日常生活支援に関する事例分析 □治療的支援に関する事例分析 □自立支援に関する事例分析 I §3 権利を守る仕組みについて理解する。 II 保育士等の専門職のあり方（倫理・バーンアウト・共依存等）を学ぶ。
2	社会的養護の実施体系（1）	第2章 I 児童養護の体系と児童福祉施設の概要を理解する。 II 児童養護施設の日常生活支援について現場の映像をもとに学ぶ。
3	社会的養護の実施体系（2）	II 乳児院、母子生活支援施設の日常生活支援について現場の映像をもとに学ぶ。
4	社会的養護の実施体系（3）	第2章 II 医療型障害児入所施設（重症心身障害児・肢体不自由児）の日常生活支援について学ぶ。
5	社会的養護の実施体系（4）	第2章 II 行動・適応障害系施設（児童自立支援施設・児童心理治療施設）の日常生活支援の日常生活支援について現場の映像をもとに学ぶ。
6	保育士の専門性に関わる知識・技術 （1）	第1章 II 福祉型障害児入所施設（知的障害児・自閉症児・盲ろうあ児）の日常生活支援について現場の映像をもとに学ぶ。里親制度と里親養育について現場の映像をもとに学ぶ。
7	保育士の専門性に関わる知識・技術 （2）	第3章 I 親子関係の調整について、児童相談所との連携や家族支援のあり方を踏まえて理解する。 II ソーシャルワークにかかわる知識・技術を踏まえ、入所から退所後に至る支援と記録及び自己評価について学ぶ。
8	社会的養護における今後の課題と展望	第4章 施設の小規模化と地域連携について理解する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

通信教育課程 スクーリング（オンデマンド） 科目			
ナンバリング	CCs2c163	ディプロマポリシー	DP2c
子育て支援		履修年次	2
		単 位	1
Parenting Support		卒業要件	選択
		授業区分	専門科目
担当・シラバス執筆者：宮川 萬寿美		担当形態：単独	授業形態
			演習
		授業方法	スクーリング（オンデマンド）
<p>【教職課程科目課程区分に含める必要事項】※該当科目のみ</p> <p>【指定保育士養成施設指定基準における科目系列】※該当科目のみ 保育の本質・目的に関する科目</p> <p>【実務経験との関連性】※実務家教員のみ</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>「子育て支援」は保育者が保護者の相談にのる多様な場面を想定して、その考え方や方法を学ぶ教科目である。動画内に、演習用のワークを示しているため、積極的に取り組んで欲しい。</p>			
<p>【授業の到達目標 及び テーマ】</p> <p>① 保育の専門性を背景とした保護者に対する支援の特性を理解し、説明できる</p> <p>② 保育士の行なう相談、助言、情報提供、行動モデル提示を事例にそって理解する</p> <p>③ 具体的な場面を設定した事例に関して、その後の展開を考えることができる</p>			
<p>【成績評価】</p> <p>課題の結果（70%）と、視聴状況および最終課題の提出（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>吉田真理『生活事例から始める子育て支援』青踏社</p> <p>【参考文献】</p> <p>小林育子・小笠原枝・日高洋子『保育者のための相談・援助技術』萌文書林</p> <p>西尾裕吾編著『保健・福祉における ケースカンファレンスの実践』中央法規</p> <p>高橋重宏・庄司順一編著『福祉キーワードシリーズ 子ども虐待』中央法規</p>			
<p>【アクティブラーニング】</p> <p>動画内に、事例に関連してのワークを示しているため、積極的に取り組むこと</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>事前学習として、学習内容に示された教科書を読んでおくこと。事後学習として、PPTの赤字で示された語句を確認する事。</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>オンデマンド型授業による開講のため、別に案内するマニュアルを参照しながら、ICTを活用した積極的な受講に努めること</p>			
<p>【備考】</p>			

## 授業計画

回	テーマ	学習内容（教科書の章、参考資料など）
1	保育士の行なう子育て支援の特性1	子どもの保育とともに行なう保護者の支援 日常的なかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
2	保育士の行なう子育て支援の特性2	保護者や家族の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 子ども・保護者が多様な他者とかわる機会や場の提供
3	保育士の行なう子育て支援の原理1	子ども及び保護者の状況・状態の把握 支援の計画と環境の構成 支援の実践と記録
4	保育士の行なう子育て支援の原理2	評価 カンファレンス 守秘義務と説明責任
5	保育士の行なう子育て支援の原理3	職員間の連携・協働 社会資源の活用と自治体・関係機関との連携・協働
6	保育士の行なう子育て支援とその実際 1	保育所等における支援 地域の子育て家庭に対する支援 地域を舞台とした子育て支援
7	保育士の行なう子育て支援とその実際 2	障害のある子ども及びその家族に対する支援 特別な配慮を要する子ども及びその家族に対する支援
8	保育士の行なう子育て支援とその実際 3	子ども虐待の予防と対応 要保護児童等の家庭に対する支援
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		